

Oracle® Financial Management Analytics

Administrator's Guide

リリース 11.1.2.4.000

著作権情報

Oracle® Financial Management Analytics Administrator's Guide, 11.1.2.4.000

Copyright © 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて	7
ドキュメントのフィードバック	8
第1章. 概要	9
管理タスク	9
Oracle Financial Management Analyticsのヘルプへのアクセス	10
関連ドキュメント	10
第2章. セキュリティの管理およびユーザーの認可	13
ユーザー認証	13
アプリケーションおよびデータのセキュリティ	14
CSSトークンを使用した外部ユーザー・ディレクトリ向けのシングル・サインオンの設定	14
第3章. 製品アーキテクチャの理解	17
アーキテクチャの概要	17
Oracle BIリポジトリ(RPDファイル)	22
物理レイヤー	22
ビジネス・モデルとマッピング・レイヤー	23
プレゼンテーション・レイヤー	24
Oracle BIプレゼンテーション・カタログ	24
第4章. ハードウェアおよびソフトウェアの前提条件の設定	25
Oracle Financial Management Analytics管理者に対する認可	25
システムおよびハードウェアの前提条件	25
ソフトウェアの前提条件	26
サポートされているコンポーネント	26
第5章. Oracle Financial Management Analyticsのインストール	29
デフォルトのインストール・パス	29
中央インベントリ・ファイルの表示	30
完全なインストールの実行	30
サイレント・インストールの実行	32
応答ファイルの変更	32
Oracle Financial Management Analyticsのアンインストール	32
サイレント・アンインストールの実行	34
アプリケーション言語の設定	34
第6章. Oracle Financial Management Analyticsの構成	37
構成ユーティリティでの選択	37
構成チェックリスト	38
構成ユーティリティの実行	39
第7章. 製品の構成	43

第8章. Financial Managementの構成	45
ビジネス・モデリングの実行	46
シナリオの選択	47
ディメンション・メンバー・リストの作成	49
「デフォルト・ディメンション」画面のマッピング	50
Financial Managementの「要約」画面の表示	51
ダッシュボードの構成	52
貸借対照表ダッシュボードの構成	53
損益計算書ダッシュボードの構成	59
キャッシュ・フローの構成	66
パフォーマンス・インディケータの構成	72
プロセス管理の構成	79
アラートの作成	82
アラート用のエンティティ・リストの選択	83
アラート用の勘定科目リストの選択	84
アラート用のPOVディメンション・メンバーの選択	85
Financial Managementシステム設定の実行	86
Financial Managementのシステム設定の実行	87
第9章. Tax Provisionの構成	89
ダッシュボードの構成	90
「シナリオの選択」の実行	91
「地域の選択」の選択	92
レポート標準の選択	93
デフォルト・ディメンションの実行	94
KPI関連勘定科目の選択	95
Tax Provisionの「要約」画面の表示	96
Tax Provisionシステム設定の実行	96
Tax Provisionのシステム設定の実行	97
第10章. Financial Close Managementの構成	99
モジュールの構成	100
Financial Close Managementの「要約」画面の表示	101
第11章. EPM System Workspace内のOracle Financial Management Analyticsの統合	103
ワークスペース統合の構成	103
第12章. BIサーバーへのカタログおよびリポジトリのアップロード	105
第13章. Oracle Financial Management Analyticsの起動	107
第14章. ヒントとトラブルシューティング	109
一般的なFAQ	109
LinuxにおけるOFMAインストールのトラブルシューティングのヒント	111
中央インベントリ・ファイルの作成	111
インストール・フォルダへの権限の付与	112

第15章. Oracle Financial Management Analyticsのカスタマイズ	113
財務値のスケーリング	113
列のソート	114
プロセス管理レポートでの日数の設定	115
条件のフォーマット	117
レポート・タイトルの変更	118
会社のロゴの追加	119
ダッシュボード・レポートの非表示	119
カタログ・オブジェクトの更新	120
ダイヤル・ゲージのしきい値の設定	121
メール・サーバーの構成	121
配信オプションの設定	122
付録A. 診断ユーティリティ	123
診断ユーティリティの実行	123
環境の詳細の確認	124
構成の詳細の確認	124
付録B. パフォーマンス・チューニング	127
パフォーマンス・チューニングのドキュメント	127
単一のBIサーバーに対するキャッシュの設定	128
クラスタ環境に対するキャッシュの設定	129
ロギングの無効化	130
用語集	133

ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracleのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

Access to Oracle Support

Oracleサポート・サービスでは、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントへのフィードバックをお送りください: epmdoc_ww@oracle.com

次のソーシャル・メディア・サイトでEPM情報開発をフォローできます:

LinkedIn - http://www.linkedin.com/groups?gid=3127051&goback=.gmp_3127051

Twitter - <http://twitter.com/hyperionepminfo>

Facebook - <http://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>

Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731/#106915048672979407731/posts>

YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>

1

概要

この項の内容:

管理タスク	9
Oracle Financial Management Analyticsのヘルプへのアクセス	10
関連ドキュメント	10

Oracle Financial Management Analyticsでは、経営幹部が組織の業績の財務面や財務以外の面を一元的に把握できます。

組込み済の分析機能により、既存のOracle Hyperion Financial Management、Oracle Hyperion Tax ProvisionおよびOracle Hyperion Financial Close Managementアプリケーションの集計データを使用して、キー・パフォーマンス・インディケータ、決算プロセスのステータスなどが表示されます。ダッシュボードは、ユーザーが様々なビジネスや財務シナリオでデータを分析する際に役立ちます。

構成ユーティリティを使用すると、アプリケーションのメタデータを事前定義済のダッシュボードにマップできます。また、このユーティリティでは、EPMアプリケーションとOracle Business Intelligence Enterprise Editionの統合も行います。

『Oracle Financial Management Analytics管理者ガイド』は、Oracle Financial Management Analyticsのインストールおよび構成に関する詳細情報を提供しています。

ダッシュボードとレポートの詳細およびOracle Financial Management Analyticsの使用については、『Oracle Financial Management Analyticsユーザーガイド』を参照してください。

管理タスク

Oracle Financial Management Analytics管理者(管理)は、Oracle BI EEおよびEPMアプリケーションに対する管理権限にプロビジョニングされます。管理タスクは次のとおりです:

- Oracle Financial Management Analyticsをインストールします。29ページの第5章「Oracle Financial Management Analyticsのインストール」を参照してください。
- Oracle Financial Management Analyticsを構成します。37ページの第6章「Oracle Financial Management Analyticsの構成」を参照してください。
- ダッシュボードの使用性を最大化するためのカスタマイズ。113ページの第15章「Oracle Financial Management Analyticsのカスタマイズ」を参照してください。

Oracle Financial Management Analyticsのヘルプへのアクセス

このリリースのOracle Financial Management Analyticsでは、次の場所からOracle Financial Management AnalyticsユーザーガイドおよびOracle Financial Management Analytics管理者ガイドのヘルプにアクセスできます:

- 「スタート」メニューから(**Windows**)
- Oracle Financial Management Analyticsダッシュボードの起動ページから。
- 構成ユーティリティから(**Windows**および**Linux**)
- Enterprise Performance Management Systemリリース11.1.2.4.000のドキュメント・ライブラリから



注:

OBIEEグローバル・ヘッダーの「ヘルプ」メニューには、Oracle BI EEのヘルプおよびドキュメントのみが表示されます。

これらのドキュメントは、Oracle Technical Network (OTN)のEPM Systemリリース11.1.2.4.000のドキュメント・ライブラリで入手可能です:

- Oracle Financial Management Analytics管理者ガイド
- Oracle Financial Management Analyticsユーザーガイド



注:

Oracle BI EEのドキュメントにアクセスする場合は、Oracle Business Intelligenceのドキュメント・ライブラリ(http://docs.oracle.com/cd/E28280_01/bi.htm)を参照してください。

- ▶ 「スタート」メニューからOracle Financial Management Analyticsのドキュメントにアクセスするには:
1. 「スタート」、「すべてのプログラム」、「**Oracle Financial Management Analytics**」、「**Help**」の順に選択します。(Windowsのみ)

OTNにあるEPM Systemリリース11.1.2.4.000のドキュメント・ライブラリが表示されます。

2. 左側のペインで、「**Financial PM Applications**」タブを選択します。
3. 右側のペインで、「**Oracle Financial Management Analytics**」までスクロールします。
4. 表示するドキュメントの隣で、フォーマットを選択します:
 - PDF
 - HTML
 - MOBI (Kindleでの表示用)
 - EPUB (iPad, iPhoneおよびiPodデバイス用)

関連ドキュメント

Oracle Financial Management Analyticsは、既存のOracle BI EEの機能上に構築されており、パッケージ化されたコンテンツの構築のためのリポジトリおよびカタログの作成など、多くのタスクを実行します。繰返しを最小限

に抑え、精度を維持するために、Oracle BI EEおよびFinancial Managementの既存ドキュメントの相互参照が作成されています。関連ドキュメントのリストは、[11ページの表 1](#)を参照してください

Oracle Business Intelligenceのドキュメント・ライブラリにアクセスするには、http://docs.oracle.com/cd/E28280_01/bi.htmに移動してください。

Oracle Enterprise Performance Management Systemのドキュメント・ライブラリにアクセスするには、<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/performance-management/documentation/index.html>に移動してください。

表1 OBIEEの関連ドキュメント

製品	ドキュメント	製品またはタスク
Oracle Enterprise Performance Management System	<i>Oracle(R) Hyperion Enterprise Performance Management System</i> インストールおよび構成ガイド	EPM System製品のインストールおよび構成に関する情報
EPM System	<i>Oracle(R) Hyperion Enterprise Performance Management System</i> ユーザーおよび役割セキュリティ・ガイド	<ul style="list-style-type: none"> ユーザー・プロビジョニングおよびセキュリティ役割の設定と管理 <p>注:</p> <p>Oracle Financial Management Analyticsの認可されたすべてのユーザーには、Financial ManagementおよびFinancial Close Managementの関連する権限が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> SSL、SSO、セキュリティ・エージェントおよびカスタム・ログインなど、セキュリティに関する技術情報
Oracle Financial Management Analytics	<i>Oracle(R) Financial Management Analytics</i> ユーザー・ガイド	Oracle Financial Management Analyticsレポートの使用方法に関する情報
Financial Management	<i>Oracle Hyperion Financial Management</i> ユーザー・ガイド	Financial Managementの使用方法に関する情報
Financial Management	<i>Oracle Hyperion Financial Management</i> 管理者ガイド	Financial Managementの設定および管理に関する情報
Oracle Fusion Middleware	<i>Oracle(R) Fusion Middleware</i> コンセプト・ガイド	Oracle BI分析に関する情報
Oracle Fusion Middleware	<i>Oracle(R) Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Edition</i> メタデータ・リポジトリ・ビルダー・ガイド	プレゼンテーション・レイヤーの作成と管理、および式ビルダーを使用した財務勘定科目のマッピング方法の詳細
Oracle Fusion Middleware	<i>Oracle(R) Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Edition</i> システム管理者ガイド	NQSConfig.iniファイルの構成設定およびBI管理ツールの詳細

製品	ドキュメント	製品またはタスク
Oracle Fusion Middleware	<i>Oracle(R) Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Edition</i> 開発者ガイド	BIプレゼンテーション・サービスおよびBIサーバーに関する情報
Oracle Fusion Middleware	<i>Oracle(R) Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Edition</i> セキュリティガイド	シングル・サインオン(SSO)、およびOBIEEのガイドで定義されているその他のセキュリティ設定の設定方法に関する情報
Oracle BI EE	<i>Oracle Business Intelligence Presentation Services</i> 管理ガイド	Oracle BIプレゼンテーション・カタログの詳細
Oracle Hyperion Tax Provision	<i>Oracle Hyperion Tax Provision</i> ユーザーガイド	Hyperion Tax Provisionの機能と利点に関する情報。

2

セキュリティの管理 およびユーザーの認可

この項の内容:

ユーザー認証	13
アプリケーションおよびデータのセキュリティ	14
CSSトークンを使用した外部ユーザー・ディレクトリ向けのシングル・サインオンの設定	14

セキュリティおよびユーザー認証は、Oracle Financial Management Analyticsでは設定されません。ただし、関連製品での認証は受け入れられます:

- ユーザー認証は、Oracle BI EE管理を使用して設定されます。
- Financial Managementのユーザー役割およびセキュリティ・アクセス権は、Oracle Hyperion Shared Servicesで定義されます。Oracle Financial Management Analyticsでは、これらのセキュリティ・アクセス権を受け入れます。

割当て済の管理者(*admin*)のみが、ダッシュボードを作成または変更できます。

次の項を参照してください:

- [13ページのユーザー認証](#)
- [14ページのアプリケーションおよびデータのセキュリティ](#)

ユーザー認証

Oracle Financial Management Analyticsのシングル・サインオン(SSO)は、Oracle BI EEを介して実装されます。シングル・サインオンが機能するためには、Oracle BI EEとShared Servicesが同じLDAP/MSADに接続している必要があります; そうでない場合、ユーザーが一致しません。

ユーザー・プロビジョニングは、Shared Servicesを介して設定されます。*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemセキュリティ構成ガイド*を参照してください。

SSOおよびその他のセキュリティ設定の詳細は、『*Oracle(R) Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Editionセキュリティ・ガイド*』を参照してください。

Oracle Financial Management Analyticsが起動されると、資格証明はLDAP/MSADストアで照合されます。SSOトークンが生成され、ADMドライバを介してFinancial Managementに渡されます。Oracle BI EEにログインするユーザーは、資格証明がFinancial Managementへの問合せに使用されます。

リポジトリ(RPD)ファイルに接続URLを指定した場合は、Shared Servicesの有効なユーザー名を指定する必要があります。共有接続を使用する場合、ユーザーをFinancial Managementアプリケーションにプロビジョニングする必要があります。Oracle BI EEにログインするユーザーには、次に示すように、レポートを表示する権限が必要です:

- Financial ManagementおよびTaxアプリケーションの場合は、Financial ManagementのユーザーIDを使用します。
- Financial Close Managementの場合は、少なくとも読取り権限があるFinancial Close Managementのデータベース・スキーマ・ユーザーを使用します。

セキュリティの設定および管理の詳細は、次のガイドを参照してください:

- *Oracle(R) Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Editionセキュリティガイド*
- 『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemユーザーおよび役割セキュリティガイド』
- 『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemセキュリティ管理ガイド』

アプリケーションおよびデータのセキュリティ

Financial Managementアプリケーションおよびデータのセキュリティは、特定のセキュリティ・クラスとセキュリティ・クラス・アクセスを使用して、Financial Management経由で設定します。Oracle Financial Management Analyticsのユーザーが、レポートのFinancial Managementのデータにアクセスする場合、アプリケーションのデータ・セキュリティ設定に従います。

たとえば、ダッシュボードを表示しているユーザーに、Eastエンティティに対するFinancial Managementのアクセス権があつてWestエンティティに対するアクセス権がない場合、そのユーザーは、Oracle Financial Management Analytics内でもWestエンティティのデータを表示できません。



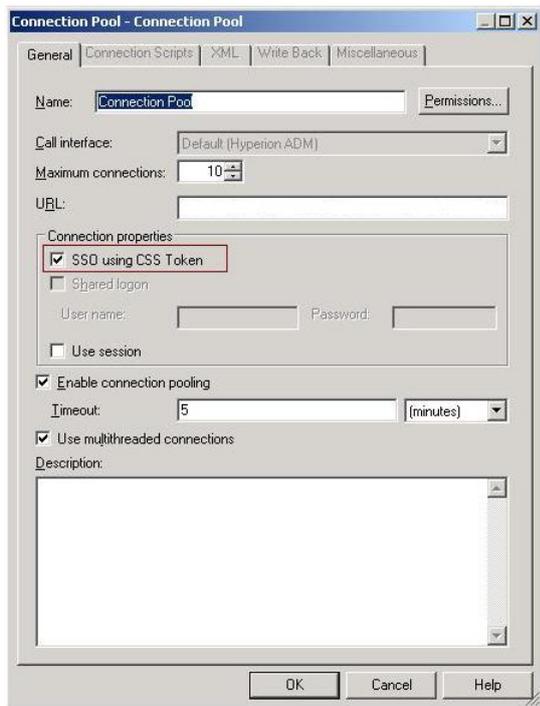
注:

構成時に、アプリケーション全体にアクセス可能な資格証明を持ったFinancial Management管理者ユーザーを指定します。

Financial Managementで選択された言語プリファレンスは、Oracle Financial Management Analyticsに反映されます。たとえば、Financial Managementのロケールとしてドイツ語が選択されている場合、ユーザーにはメンバー説明がドイツ語(メタデータ)で表示されます。

CSSトークンを使用した外部ユーザー・ディレクトリ向けのシングル・サインオンの設定

- ▶ CSSトークンを使用して、外部ユーザー・ディレクトリ(LDAP/MSAD)向けにシングル・サインオンを設定するには、次の手順を実行します:
 1. Oracle BI EEとShared Servicesが同じLDAPまたはMSADストアに接続していることを確認します。
 2. オンラインRPDを開き、HFM接続プールに移動します。「CSSトークンを使用したSSO」を選択し、BIサーバーを再起動します。



3. 次の場所からユーティリティregSyncUtil_OBIEE-T0-EPM.zipを解凍します: <OBIEEがインストールされている場所>/Oracle_BI1/common/CSS/11.1.2.0.readmeの指示に従って、ユーティリティを実行します。



注:

EPM 11.1.2.xを使用している場合は、レジストリでこのキーの同期を必ず行ってください。

4. Oracle BI EEドメイン構成の場合、次の手順を実行します:

- `http://<ServerName>:7001/em/`にログオンします。

ServerNameは、Oracle BI EEサーバーをホストするコンピュータの名前です。

- **WebLogic**ドメインフォルダを展開し、**bifoundation_domain**フォルダを右クリックし、「セキュリティ」、セキュリティ・プロバイダ構成の順に選択します。
- アイデンティティ・ストア・プロバイダで、「構成」をクリックします。
- アイデンティティ・ストア構成で、をクリックします。新規プロパティの追加ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 「プロパティ名」をvirtualizeに設定し、「値」をtrueに設定してから、「OK」をクリックします。

5. OBIEEで外部ユーザー・ディレクトリを構成中にjps-config.xmlファイルBI_DOMAIN_HOME/config/fmwconfig/jps-config.xmlで“virtualize”プロパティがtrueに設定されている場合、次を実行します:

setDomainEnv.cmdを編集します。パスBI_DOMAIN_HOME/bin/から、次のコマンド・ラインを追加します: Set EXTRA_JAVA_PROPERTIES=-Dcommon.components.home=%COMMON_COMPONENTS_HOME % -Didstore.identityAttribute=<value> %EXTRA_JAVA_PROPERTIES% export EXTRA_JAVA_PROPERTIES

<value>は、構成されている外部ユーザー・ディレクトリのタイプ(OID/MSAD)に基づいています。Didstore.identityAttributeの値は、次に示すように別に設定する必要があります:

Microsoft Active Directory = objectguid

Oracle Internet Directory | Oracle Virtual Directory = orclguid

6. OBIEEで外部ユーザー・ディレクトリを構成中にjps-config.xmlファイルBI_DOMAIN_HOME/config/fmwconfig/jps-config.xmlで“virtualize”プロパティがfalseに設定されている場合、次を実行します:

- デフォルトの一意のアイデンティティ属性を使用し、WLSセキュリティ・レルムで認証プロバイダとして構成されている外部ユーザー・ディレクトリが1つのみで、スタック内の最初のプロバイダとして順序付けられている場合、それ以上のアクションは必要ありません。この場合は、次のDIRECTORY_TYPE=IDENTITY_ATTRIBUTEが使用されます

Microsoft Active Directory = objectguid

Oracle Internet Directory | Oracle Virtual Directory = orclguid

Novell EDirectory = guid

Sun One Directory = nsuniqueid

Open Ldap = entryuuid

- WLSセキュリティ・レルムで外部LDAPユーザー・ディレクトリ認証プロバイダが、上のデフォルトとは異なる一意のアイデンティティ属性を使用するよう構成されている場合、Javaシステム・プロパティidstore.identityAttributeは、BI_DOMAIN_HOME/bin/で使用可能なBIドメインのsetDomainEnv.shファイルに渡されます

例: set EXTRA_JAVA_PROPERTIES= -Dcommon.components.home=%COMMON_COMPONENTS_HOME % -Didstore.identityAttribute=customguid %EXTRA_JAVA_PROPERTIES% export EXTRA_JAVA_PROPERTIES

7. epmsys_registry.batファイルで、次を実行する必要があります:

epm_j2se.jarファイルがCLASSPATHに確実に含まれるようにします。例: set CLASSPATH=%CLASSPATH%;C:/OBIEE/Oracle_BI1/common/jlib/11.1.2.0/epm.jar;C:/OBIEE/Oracle_BI1/common/jlib/11.1.2.0/epm_j2se.jar。



注:

epmsys_registry.batファイルは、<OBIEEがインストールされている場所>/instances/instance1/config/foundation/11.1.2.0> epmsys_registry.batにあります。

8. 管理サーバーおよび管理対象サーバーを含め、BIドメインを再起動します。
9. 管理サーバーまたは管理対象サーバーに依存しているOPMNプロセスを再起動します。
10. 外部ディレクトリのユーザー資格証明を使用してOracle Financial Management Analyticsにログインすると、ダッシュボードを表示できます。

3

製品アーキテクチャの理解

この項の内容:

アーキテクチャの概要	17
Oracle BIリポジトリ(RPDファイル)	22
Oracle BIプレゼンテーション・カタログ	24

アーキテクチャの概要

Financial ManagementとOracle BI EEの統合は、Financial Management ADMドライバを介して管理されます。この統合は、Financial Managementと税ダッシュボード、およびそのレポートを配信します。統合の場合は、次のコンポーネントをBIサーバーにインストールする必要があります:

- Oracle BI EE 11.1.1.7.xと最新のパッチ
- Financial Management ADMドライバ

Oracle BI EEとFinancial Close Managementとの統合は、データベース・ドライバによって管理されます。たとえば、Oracle Databaseを使用している場合は、Oracle BIサーバーがOracle Call Interfaceを使用してデータ・ソースに接続します。Microsoft SQLデータベースを使用している場合は、Oracle BIサーバーがODBC接続を使用してデータ・ソースに接続します。



注:

コンポーネントの完全なリストおよびサポートされるリリースについては、[25ページの第4章「ハードウェアおよびソフトウェアの前提条件の設定」](#)を参照してください。

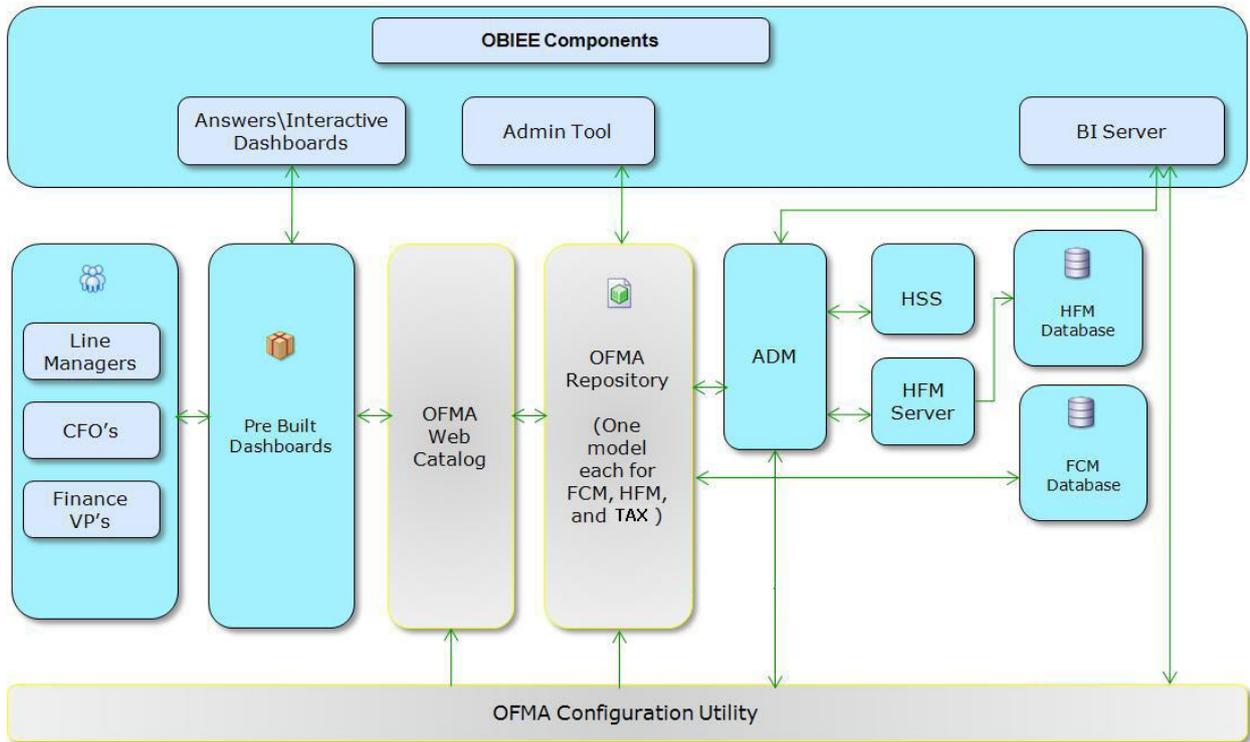


表2 Oracle Financial Management Analyticsのコンポーネント

コンポーネント	説明	関連ドキュメント
データベース	Financial Managementの場合、データベースは、Financial Managementでサポートされている任意のリレーショナル・データベース (Oracle、SQL Serverなど)にすることができます。 Financial Close Managementの場合、SQL、およびOracleデータベースがサポートされます。	関連するデータベースのドキュメントを参照してください。
Financial Management (HFM)およびFinancial Managementクライアント	Financial Managementには、エンタープライズの財務情報の統合ビューが用意されており、グローバル・ソースのパフォーマンスと運用の主要なメトリックが集計されます。 HFMクライアント層にはユーザー・インタフェースが含まれ、アプリケーション層と通信できます。データおよびメタデータを表示して、この層にデータを入力できます。	参照: <ul style="list-style-type: none"> • Oracle Hyperion Financial Managementユーザー・ガイド • Oracle Hyperion Financial Management管理者ガイド
Financial Management Analytic Data Modeling (ADM)ドライバ	データ・ソースには、データ・ソースの特性を一般的なADMモデルにマッピング	次を参照してください:

コンポーネント	説明	関連ドキュメント
	<p>グするコンポーネントであるADMドライバがアクセスします。ADMドライバは、Oracle BIサーバーへの接続を作成し、認証や認可など、データ・アクセス操作および取得操作を可能にします。</p> <p>注:</p> <p>Financial Management ADMシン・ドライバは、Hyperion Financial Managementリリース11.1.2.3.000以降からサポートされます。</p>	<p><i>Oracle Hyperion Financial Management</i> 管理者ガイド</p>
Financial Close Management	<p>Financial Close ManagementのClose Mangerモジュールは、企業が決算期間の相互依存アクティビティを定義、実行およびレポートするのに役立ちます。決算プロセス・タスクを集中モニタリングし、決算プロセスの実行を記録するための目に見える自動化された繰り返し可能なシステムを提供します。Close Managerモジュールからの情報は、次のレポートを表示するために使用されます: ステータスの要約ダッシュボード・ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「スケジュールの要約」レポート • 「スケジュールの傾向」レポート <p>遅延状況およびマイルストーン・ダッシュボード・ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> • スケジュールのマイルストーン • スケジュールの遅延状況 <p>スケジュールの比較ダッシュボード・ページには、「スケジュールの比較」レポートが含まれています Close Managerモジュール: ユーザー・パフォーマンス・ダッシュボード・ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「ユーザーの下位リスト」のレポートおよび傾向 • 「ユーザーの上位リスト」のレポートおよび傾向 	<p>参照:</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>Oracle(R) Financial Close Management</i> ユーザー・ガイド • <i>Oracle(R) Financial Close Management</i> 管理者ガイド

コンポーネント	説明	関連ドキュメント
	<p>Financial Close Management のAccount Reconciliation Managerモジュールは、企業が財務情報の正確性の検証、特定の取引の処理の確認、またはデータの検証を行う際に役立ちます。勘定科目調整の追跡は、決算サイクルの一部として管理されます。Account Reconciliation Managerモジュールからの情報は、次のレポートを表示するために使用されます: 調整要約ダッシュボード・ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「調整要約」レポート • 「パフォーマンス分析」レポート • 「トレンド分析」レポート <p>プロ・フォーマ試算表および調整分析 ダッシュボード・ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「プロ・フォーマ試算表」レポート • 「調整分析」レポート <p>Account Reconciliation Manager モジュール: ユーザー・パフォーマンス・ ダッシュボード・ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「ユーザーの下位リスト」のレポートおよび傾向 • 「ユーザーの上位リスト」のレポートおよび傾向 	
Tax Provision	<p>Oracle Hyperion Tax Provision は、企業のグローバルな税引当、有効税率、税引当を目的とした繰延税金に関する全体的な状況を示します。ダッシュボードの数量情報を使用して、現在の年に関する企業の税引当を分析し、異なる地域全体にわたってTaxのデータをスライスできます。Tax Provisionアプリケーションからの情報は、次のレポートに使用されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 有効税率ダッシュボード・ページ <ul style="list-style-type: none"> ○「地域別ETR」レポート ○「ETR - 実績vs計画」レポート ○「現金課税ETR」レポート 	<p><i>Oracle Hyperion Tax Provision</i> ユーザー・ガイド</p>

コンポーネント	説明	関連ドキュメント
	<ul style="list-style-type: none"> • 課税損失および評価引当金ダッシュボード・ページ <ul style="list-style-type: none"> ○「課税損失」レポート ○「評価引当金合計」レポート • キー・パフォーマンス・インディケータ・ダッシュボード・ページ <ul style="list-style-type: none"> ○「税KPI」レポート ○「税KPI傾向」レポート 	
Oracle BI EE	<p>Oracle BI EEにはビジネス・インテリジェンス機能が備わっており、組織の最新データの収集、わかりやすい形式(表やグラフ)でのデータの表示、および従業員への適切なデータの配信が可能になります。次のOracle BI EEコンポーネントが使用されます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • BIサーバー: Oracle BI分析サーバーは、高度な計算と統合のエンジンを提供し、ユーザー要求やデータ・ソースの基礎となる問合せの処理に使用されます。 • BI管理ツール: データ・ソースへの接続の作成、およびリポジトリ・ファイル(RPD)の作成に使用されます。 <p>管理ツールには次の3つのレイヤーがあります:</p> <ul style="list-style-type: none"> ○物理レイヤー ○ビジネス・モデルとマッピング・レイヤー ○プレゼンテーション・レイヤー <ul style="list-style-type: none"> • BIプレゼンテーション・サービス: アドホック分析および対話型ダッシュボードを作成します。 	<p>次のドキュメントを参照してください:</p> <ul style="list-style-type: none"> • BIサーバーの場合は、<i>Oracle(R) Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Editionインテグレート・ガイド</i>を参照してください • BI管理ツールの場合は、『<i>Oracle(R) Fusion Middleware管理者ガイド</i>』を参照してください • BIプレゼンテーション・サービスの場合は、<i>Oracle(R) Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Edition開発者ガイド</i>を参照してください
Oracle BIプレゼンテーション・カタログまたはWebカタログ	<p>アプリケーション・ダッシュボードおよびレポート定義が格納され、権限やダッシュボードのアクセスに関するグループごとの情報が含まれます。</p> <p>24ページのOracle BIプレゼンテーション・カタログを参照してください。</p>	<p><i>Oracle(R) Business Intelligence Presentation Services管理ガイド</i></p>

コンポーネント	説明	関連ドキュメント
Shared Services (HSS)	Oracle Financial Management Analyticsの認可されたすべてのユーザーには、Financial Management に対する権限が必要です。 ユーザー・プロビジョニングおよびデータの認証は、Oracle Hyperion Shared Servicesを使用して Financial Managementで管理されます。	<i>Oracle(R) Hyperion Enterprise Performance Management System ユーザーおよび役割セキュリティガイド</i>
Oracle Financial Management Analytics	ダッシュボードにFinancial Management, Tax ProvisionおよびFinancial Close Managementのデータが表示されます。	<i>Oracle(R) Financial Management Analyticsユーザーガイド</i>

Oracle BIリポジトリ(RPDファイル)

サブトピック

- [物理レイヤー](#)
- [ビジネス・モデルとマッピング・レイヤー](#)
- [プレゼンテーション・レイヤー](#)

Oracle BIリポジトリ(RPDファイル)には、BIサーバーのメタデータが格納されます。メタデータは、論理スキーマ、物理スキーマ、物理から論理へのマッピング、集計表ナビゲーションやその他の構成体を定義します。Oracle BIリポジトリは、Oracle BI管理ツールを使用して編集できます。

Oracle Financial Management Analyticsでは、初めて構成ユーティリティを実行する際にFinancialManagementAnalytics.rpdが作成され、2回目以降の場合は更新されます。

Oracle BI管理ツールの3つのレイヤーがOracle Financial Management Analyticsダッシュボードの管理に使用されます:

- [22ページの物理レイヤー](#)
- [23ページのビジネス・モデルとマッピング・レイヤー](#)
- [24ページのプレゼンテーション・レイヤー](#)

*Oracle Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Editionメタデータリポジトリビルダーガイド*を参照してください。

物理レイヤー

物理レイヤーは、BIサーバーが問合せを送信するデータ・ソース、および物理データベースと、複数のデータ・ソース問合せの処理に使用されるその他のデータ・ソース間の関係を定義します。物理ディメンションの各物理階層には、物理データベースまたはキューブの列が含まれます。

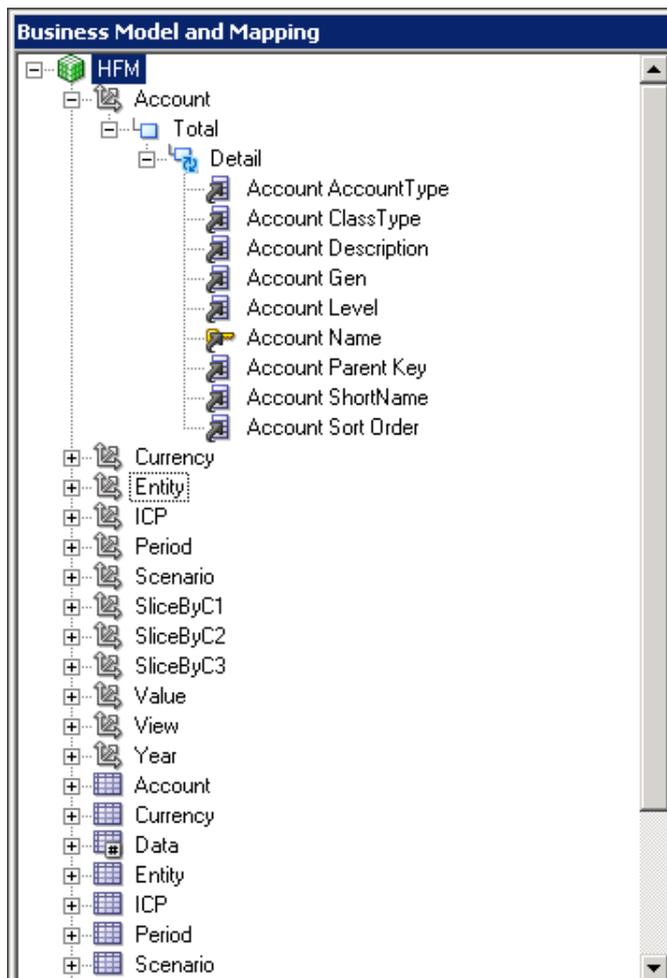
FinancialManagementAnalytics.rpdでは、3つのデータ・ソースがデータおよびメタデータを定義します。Financial Management, Tax ProvisionおよびFinancial Close Management。これらには一意のデータ・ソースが含まれている必要があります。これらのデータ・ソースには、表、ファクトおよびビューを取得するために製品データベースに接続可能な接続文字列およびユーザー資格証明が含まれています。

ビジネス・モデルとマッピング・レイヤー

ビジネス・モデルとマッピング・レイヤーは、ビジネスまたは論理のデータ・モデルを定義し、ビジネス・モデルと物理レイヤー・スキーマ間のマッピングを指定します。このレイヤーには、1つ以上のビジネス・モデルが含まれます。

ビジネス・モデルとマッピング・レイヤーにより、ユーザーが参照する分析動作が決定され、ユーザーが使用可能なオブジェクトのセットが定義されます。

ビジネス・モデルとマッピング・レイヤーには、論理表が存在します。各ビジネス・モデルに定義されている論理スキーマには、少なくとも2つの論理表が含まれている必要があり、それらの関係を定義する必要があります。各論理表には、論理列と、それに関連付けられた論理表ソースがあります。



Oracle® Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Editionメタデータ・リポジトリ・ビルダー・ガイドを参照してください。

プレゼンテーション・レイヤー

プレゼンテーション・レイヤーでは、カスタマイズされた安全な役割ベースのビジネス・モデルのビューを作成します。

プレゼンテーション・レイヤー・ビューはサブジェクト・エリアと呼ばれ、これはビジネス・モデルと同一にすることも可能ですが、1つのサブジェクトを表示する、またはビジネス役割をサポートする、より小規模で役割ベースのサブジェクト・エリアにすることも可能です。サブジェクト・エリアを形成するために様々な表、列、属性をグループ化することで、ユーザーにわかりやすいようにコンテンツを編成できます。

サブジェクト・エリアは、プレゼンテーション・サービスおよびアンサーで使用でき、ユーザーはこれを使用してメタデータの分析を作成できます。*Oracle Business Intelligence Enterprise Edition*を参照してください。

既存のOracle BIアプリケーションのリポジトリを使用し、そのコンテンツをカスタマイズしている場合は、カスタマイズされた既存のリポジトリを、Oracle BIアプリケーションとともに受け入れる新しいOracle Financial Management Analyticsのリポジトリとマージできます。

*Oracle® Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Editionメタデータ・リポジトリ・ビルダー・ガイド*を参照してください。

Oracle BIプレゼンテーション・カタログ

Oracle BIプレゼンテーション・カタログ(Webカタログ)には、アプリケーション・ダッシュボードおよびレポート定義が格納され、権限やダッシュボードのアクセスに関するグループごとの情報が含まれます。Oracle Financial Management Analyticsの場合、カタログはFinancialManagementAnalyticsフォルダにあります。

Oracle BIプレゼンテーション・カタログは、ビジネス・インテリジェンス・オブジェクトを格納し、ユーザーがオブジェクトの作成、アクセスおよび管理を行うインタフェースを提供して、オブジェクト・ベースの特定のタスク(エクスポート、印刷、編集など)を実行します。カタログは、共有または個人のいずれかのフォルダに編成されます。

Oracle BI EEがその他のOracleアプリケーションと統合されている場合、それらのアプリケーション内で作成されたオブジェクトもカタログに格納されます。たとえば、Oracle BI PublisherがOracle BI EEと統合されている場合、データ・モデル、レポート、およびスタイル・テンプレートとサブテンプレートもカタログに格納され、カタログからアクセスすることが可能です。

Oracle BIプレゼンテーション・カタログで実行可能な多くの操作は、Oracle BIプレゼンテーション・サービス外に存在するカタログ・マネージャで実行できます。*Oracle Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Editionシステム管理者ガイド*を参照してください。

4

ハードウェアおよびソフトウェアの前提条件の設定

この項の内容:

Oracle Financial Management Analytics管理者に対する認可	25
システムおよびハードウェアの前提条件	25
ソフトウェアの前提条件	26
サポートされているコンポーネント	26

Oracle Financial Management Analytics管理者に対する認可

Oracle Financial Management Analyticsをインストールする前に、Oracle Financial Management Analyticsの管理ユーザー(*admin*)に次の認可があることを確認します:

- ・ インストールに使用されるディレクトリへの書込みアクセス権
- ・ 関連付けられたすべてのソフトウェアに対する管理権限



注:

Financial Close Managementデータベースに対する管理権限が必要なのは構成時のみで、OFMAのインストール時には不要です。

システムおよびハードウェアの前提条件

ターゲット・マシンでOracle Financial Management Analyticsのインストーラを実行するのに必要な互換性のあるハードウェア・システム。

表3 ハードウェア前提条件

Oracle Financial Management Analytics	オペレーティング・システム
11.1.2.4.000	32ビットおよび64ビットのオペレーティング・システムをサポート: Windowsの場合: <ul style="list-style-type: none">・ Windows 2008 R2・ Windows 2012

Oracle Financial Management Analytics	オペレーティング・システム
	Linuxの場合: <ul style="list-style-type: none"> • Oracle Enterprise Linux 5.0 • Oracle Enterprise Linux 6.0



注:

詳細は、[26ページのサポートされているコンポーネント](#)を参照してください

ソフトウェアの前提条件

Oracle Financial Management Analyticsのインストールの前に、次の製品がインストールおよび構成され、Oracle Financial Management Analytics管理者が製品を使用できることを確認します。次のコンポーネントは同じマシンにインストールする必要があります:

- Oracle BI EE 11.1.1.7.xと最新のパッチ
- Financial Managementを構成するには、Financial Management ADMドライバ・コンポーネントをインストールおよび構成する必要があります

バージョンのリストについては、[26ページのサポートされているコンポーネント](#)を参照してください。



注:

分散環境の場合は、HFM ADMドライバとHFMサーバーは同じドメインに存在する必要があります。

サポートされているコンポーネント

Oracle Financial Management Analyticsのインストールの前に、コンポーネント製品がインストールおよび構成され、Oracle Financial Management Analytics管理者がコンポーネント製品を使用できることを確認します。[26ページの表 4](#)に記載されているように、一部のコンポーネントは、Oracle Financial Management Analyticsがインストールされているのと同じシステムにインストールする必要があります。

このリリースのOracle Financial Management Analyticsでは、次のコンポーネントがサポートされています:

表4 サポートされているコンポーネント: Oracle BI EEとOracle Financial Management Analyticsは、同じシステムにインストールする必要があります。

コンポーネント	サポートされているバージョン
Oracle BI EE 11gとそのコンポーネント	11.1.1.7.xと最新のパッチ
Financial Management ADMドライバ	<ul style="list-style-type: none"> • リリース11.1.2.1.xxx • リリース11.1.2.2.300

コンポーネント	サポートされているバージョン
	<ul style="list-style-type: none"> リリース11.1.2.3.xxx <p>(このリリースではネイティブ・ドライバおよびシン・ドライバがサポートされます)</p> <ul style="list-style-type: none"> リリース11.1.2.4.000 <p>(このリリースではシン・ドライバのみがサポートされます)</p>



注:

Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition 11gリリース(11.1.1.7.x)のシステム要件とサポートされているプラットフォームを参照してください

表5 サポートされているコンポーネントは、データの取得やOFMAとの接続に必要です。

コンポーネント	サポートされているバージョン
Financial Management	<ul style="list-style-type: none"> リリース11.1.2.1.xxx リリース11.1.2.2.300 リリース11.1.2.3.xxx リリース11.1.2.4.000
Financial Close Management	リリース11.1.2.4.000 (このリリースでは、OracleとMS SQLの両方をサポートしています。)
Tax Provision	リリース11.1.2.3.501

5

Oracle Financial Management Analyticsのインストール

この項の内容:

デフォルトのインストール・パス	29
中央インベントリ・ファイルの表示	30
完全なインストールの実行	30
Oracle Financial Management Analyticsのアンインストール	32
サイレント・アンインストールの実行	34
アプリケーション言語の設定	34

Oracle Financial Management Analyticsは独立した製品としてインストールされます。Oracle Financial Management Analyticsでは構成ユーティリティがインストールされますが、これにより、事前定義済の分析にEPMアプリケーション固有のメタデータをマップできます。また、構成ユーティリティを使用して、EPMアプリケーションとOracle BI EEの統合もできます。組込み済のダッシュボードをOracle BI EEに表示するには、リポジトリ・ファイルおよびカタログ・フォルダをOracle BI EEにアップロードする必要があります。[105ページのBIサーバーへのカタログおよびリポジトリのアップロード](#)を参照してください

インストール後、[37ページの第6章「Oracle Financial Management Analyticsの構成」](#)に記載のように、カスタム・アプリケーションを反映して製品を構成します。

各ダッシュボードの詳細は、『*Oracle Financial Management Analyticsユーザー・ガイド*』を参照してください。

インストール時、Oracle Financial Management Analyticsインストーラによって、構成ユーティリティ・ファイル、およびレポートとダッシュボードが含まれたFinancialManagementAnalyticsカタログ・フォルダがOracle Financial Management Analyticsホームに配置されます。

次の項を参照してください:

- [29ページのデフォルトのインストール・パス](#)
- [30ページの完全なインストールの実行](#)
- [32ページのOracle Financial Management Analyticsのアンインストール](#)

デフォルトのインストール・パス

インストール中に、インストーラにより最大空きディスク・スペースが計算され、デフォルトのパスが設定されます: OFMAHome_x (xは、OFMAの旧インストールに1を足した数を表します)。

Windows: インストーラは、Oracle Financial Management AnalyticsのデフォルトのOracleホームの場所を設定するために、最も空きスペースがあるマシンのドライブを選択します。例: c:ドライブに最大の空きディスク・スペース

スがあり、古いOFMAのインストールがない場合、デフォルトのパスはC:/OFMAHome_1になります。デフォルトのインストール・パスは変更できます。

Linux: デフォルトのパスは/home/user_id/OFMAHome_xです。

xは、OFMAの旧インストールに1を足した数、user_idは、ユーザーのマシンにマップされているユーザー資格証明です。例: デフォルトのインストール・パスは/home/john/OFMAHome_1です。

中央インベントリ・ファイルの表示

中央インベントリには、ホストにインストールされているすべてのOracle製品に関する情報が含まれています。インベントリ・ファイルおよびOUIとOPatchのログが含まれているlogsフォルダがあります。

- Windows: 中央インベントリはシステム・ドライブ/program files/Oracle/inventoryにあります
- Linux: 中央インベントリの場所は、/etcフォルダにあるoraInst.locファイルで指定されます。

中央インベントリ・ログ・ファイルは、次の形式で保存されます: ActionTimestamp.log。たとえば、次のログには、2010年5月17日午前6時45分に行われたAttachHome操作が記録されています: AttachHome2010-05-17_06-45-00AM.log。

[111ページの中央インベントリ・ファイルの作成](#)を参照してください

完全なインストールの実行

サブトピック

- [サイレント・インストールの実行](#)
- [応答ファイルの変更](#)

Oracle Financial Management Analyticsの完全なインストールでは、次のコンポーネントが自動的にインストールされます:

- 構成ユーティリティ
- カタログ - レポートおよびダッシュボードが含まれるFinancialManagementAnalyticsフォルダ



注:

カタログ・フォルダは、構成が完了するまで使用できません。



注:

OFMA製品のインストール後に、診断ユーティリティを実行することをお勧めします。 [123ページの診断ユーティリティの実行](#)を参照してください

▶ Oracle Financial Management Analyticsの完全なインストールを実行するには:

1. システムおよびソフトウェアのすべての前提条件を満たしていることを確認します。参照:

- [26ページのソフトウェアの前提条件](#)
- [26ページのサポートされているコンポーネント](#)

2. Oracle BI EEがインストールされていることを確認します。

[26ページのサポートされているコンポーネント](#)を参照してください。

3. Oracle Software Delivery CloudのWebページ(<https://edelivery.oracle.com/>)からOFMAのインストーラ・ファイルをダウンロードします。

4. 32ビットまたは64ビットのどちらのバージョンを使用している場合でも、オペレーティング・システムに基づいて、次のオプションを選択します:

- Windows: 次の場所にあるsetup.exeを実行します: OFMA Installer Unzipped Location/Disk1/install。
- Linux: ターミナルを開き、ディレクトリをOFMAのインストーラを解凍した場所/Disk1/installに変更して、bash runInstaller.shを実行します。

「アクセス権限が拒否されました」というエラーが返される場合は、[112ページのインストール・フォルダへの権限の付与](#)を参照してください。



注:

デフォルトのインストール・パスについては、[29ページのデフォルトのインストール・パス](#)を参照してください。

5. Oracle Universal Installer (OUI)の「ようこそ」画面で、「次」をクリックします。

6. 「ホームの詳細の指定」画面で、新しいインストールの詳細を入力します:

- 「名前」に、インストールの名前を入力します。デフォルトではOra_OFMAxと設定されています。xは、OFMAの旧インストールに1を足した数を表します。
- 「パス」で、Oracle Financial Management Analyticsをインストールする場所のパスを入力するか、場所を参照します。

○Windowsのデフォルト・パス: c:/OFMAHome_1

○Linuxのデフォルト・パス: /home/user_id/OFMAHome_1

7. 「次」をクリックします。

8. 「要約」で、選択したインストール・オプションを確認します。

変更が必要な場合は、「戻る」をクリックして変更を行います。

9. 「インストール」をクリックします。

10. インストールの終了で、「終了」をクリックします。

11. 「終了」ダイアログ・ボックスで「はい」をクリックして、インストールを終了します。

12. [37ページの第6章「Oracle Financial Management Analyticsの構成」](#)に記載のように、アプリケーションを構成します。

サイレント・インストールの実行

サイレント・インストールではインストール・プロセスが自動化されるため、UIを使用せずに、Oracle Financial Management Analyticsをインストールできます。応答ファイルに保存されたインストール・オプションを使用して、コマンド・ラインからサイレント・インストールを実行します。応答ファイルは次の場所にあります: `OFMA_INSTALLER location/Disk1/stage/Response/oracle.epm.ofma_Complete.rsp`



注:

応答ファイルは、Oracle Universal InstallerのUI経由の情報を含む仕様ファイルです。それぞれの回答は、応答ファイルで識別される変数の値として格納されます。



注:

`oracle.epm.ofma_Complete.rsp`に、Oracleホームの場所、Oracleホーム名および `REMOVE_HOMES` を指定し、インストールする製品コンポーネントのみを残す必要があります。

▶ サイレント・インストールを実行するには:

1. 応答ファイルとOFMAインストール・ファイルを、インストールの場所にコピーします。
2. Windows: コマンド・プロンプトを開き、ディレクトリをOFMAインストーラに変更します。`setup.exe`を探し、次を実行します: `setup -responseFile 応答ファイルのパス -silent`
3. Linux: 新しいターミナルを開き、ディレクトリをOFMAインストーラに変更します。`runInstaller.sh`ファイルを探し、次を実行します: `./runInstaller.sh -responseFile 応答ファイルのパス -silent`



注:

Oracle製品がインストールされていないLinuxマシンでサイレント・インストールを実行しようとすると、エラー・メッセージが返されます。[111ページのLinuxにおけるOFMAインストールのトラブルシューティングのヒント](#)を参照してください

インストールはバックグラウンドで実行され、Oracle Financial Management Analyticsは、デフォルト設定でインストールされます。

応答ファイルの変更

応答ファイルを変更して、インストール・オプションを特定のマシン用にカスタマイズできます。たとえば、すべての製品用にマスター・サイレント・ファイルを作成し、各マシン用にOracleホームの場所とOracleホーム名を変更し、そのマシンにインストールする製品コンポーネントのみを残します。

Oracle Financial Management Analyticsのアンインストール

▶ Oracle Financial Management Analyticsをアンインストールするには:

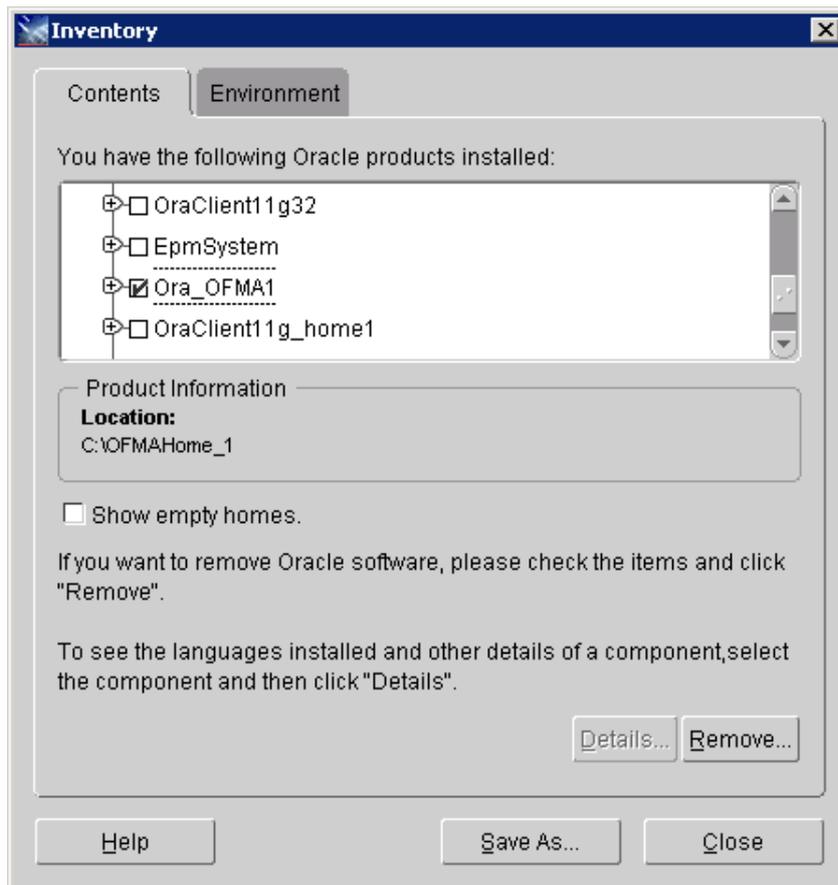
1. アンインストールするアプリケーションのカタログおよびリポジトリ・ファイルをバックアップします。

アンインストール中には、最後のインストール以降に変更されたものを除き、カタログおよびリポジトリ・ファイルが削除されます。

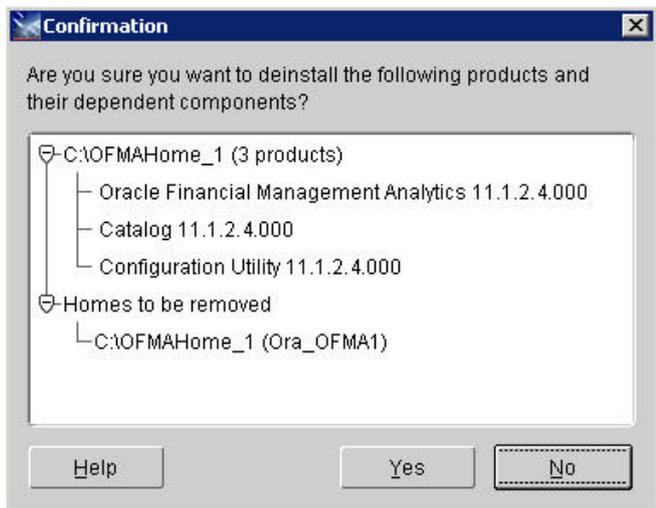
2. 次の手順を実行します:

- Windows: メイン・メニューから、「スタート」、「すべてのプログラム」、「Oracle Financial Management Analytics」、「Uninstaller」の順に選択します。
- Linux: 次の場所からbash runInstaller.shを実行します: OFMA INSTALLED location/
OFMAHome_1/oui/bin

「インベントリ」ダイアログ・ボックスが表示されます。



3. 「コンテンツ」タブの「在庫」ダイアログ・ボックスで、Oracle Financial Management Analyticsのインストール・ディレクトリ(ora_OFMA1など)を選択し、「削除」をクリックします。
4. 「確認」画面で、アンインストール対象として、適切な製品と依存コンポーネントが選択されていることを確認し、「はい」をクリックします。



Oracle Financial Management Analyticsがアンインストールされます。

サイレント・アンインストールの実行

Oracle Financial Management Analyticsをアンインストールするには、コマンド・ライン・パラメータを指定してOracle Financial Management Analyticsインストーラを使用します。

▶ サイレント・アンインストールを実行するには:

1. Windows: コマンド・プロンプトを開いて、`setup.exe`があるOFMAインストーラの場所にディレクトリを変更し、次を実行します: `setup -responseFile 応答ファイルのパス -silent -deinstall`。
2. Linux: 新しいターミナルを開いて、`runInstaller.sh`があるOFMAインストーラの場所にディレクトリを変更し、次を実行します: `./runInstaller.sh -responseFile 応答ファイルのパス -silent -deinstall`。

アンインストールはバックグラウンドで実行され、Oracle Financial Management Analyticsがアンインストールされます。

アプリケーション言語の設定

構成を開始する前に、アプリケーションを表示する言語を設定し、優先通貨を指定します。

アプリケーション言語の場合は、言語フォルダを作成し、アプリケーション言語の選択を有効にする必要があります。ローカライズされたすべてのファイルは、`OFMA_Installed_Location/OFMA/Localization_File`にあります。

Oracle® Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Editionシステム管理者ガイドのOracle Business Intelligenceのローカライズに関する項を参照してください。



注:

HFMワークスペースに設定されている言語プリファレンスに基づいて、OBIEEからアクセスされるすべてのHFMメタデータが表示されるため、HFMユーザーは言語プリファレンスを設定する必要があります。

▶ アプリケーション言語の選択を有効にするには:

1. オプション: BIサービスが停止していない場合は、「スタート」、「すべてのプログラム」、「**Oracle Business Intelligence**」、「**Stop BI Services**」の順に選択します。
2. ORACLE_INSTANCE/bifoundation/OracleBIPresentationServicesComponent/coreapplication_obipsn/msgdb/l_xx/captions (xxは言語の拡張子)に移動し、msgdbを開きます。

たとえば、このファイルは、C:/BIEE111171/instances/instance1/bifoundation/OracleBIPresentationServicesComponent/coreapplication_obips1/にあります。

3. msgdbに、使用する各言語の言語フォルダ(l_xx)を作成します(xxは言語を表します):
 - l_en (英語)
 - l_de (ドイツ語)
 - l_fr (フランス語)
 - l_it (イタリア語)
 - l_sv (スウェーデン語)
 - l_pl (ポーランド語)
 - l_fi (フィンランド語)
 - l_ko (韓国語)
 - l_da (デンマーク語)
 - l_nl (オランダ語)
 - l_tr (トルコ語)
 - l_ru (ロシア語)
 - l_zh-TW (繁体字中国語)
 - l_zh-CN (簡体字中国語)
 - l_ja (日本語)
 - l_pt-BR (ポルトガル語(ブラジル))
 - l_es (スペイン語)
4. 各言語のフォルダ(l_xx)に、「captions」フォルダを作成します。
5. インストール・ディレクトリのLocalization_Fileに移動し、必要な言語フォルダをコピーします。デフォルトで、ファイルはOFMA_Installed_Location/OFMA/Localization_Fileにあります。
6. コピーしたローカライズ・ファイルを、各言語の「captions」フォルダに貼り付けます。
 - C:/BIEE111171/instances/instance1/bifoundation/OracleBIPresentationServicesComponent/coreapplication_obips1/msgdb/l_fr/captions/ofmacaptions_fr.xml
 - C:/BIEE111171/instances/instance1/bifoundation/OracleBIPresentationServicesComponent/coreapplication_obips1/msgdb/l_de/captions/ofmacaptions_de.xml
 - C:/BIEE111171/instances/instance1/bifoundation/OracleBIPresentationServicesComponent/coreapplication_obips1/msgdb/l_it/captions/ofmacaptions_it.xml
7. 「スタート」、「すべてのプログラム」、「**Oracle Business Intelligence**」、「**Start BI Services**」の順に選択します。
8. BIサービスを再度開始したら、アプリケーションとデータを表示する言語をリストから選択し、「**ユーザーID**」および「**パスワード**」を入力します。

選択した言語と通貨を使用してアプリケーションが表示されます。

9. 「サインイン」をクリックします。

6

Oracle Financial Management Analyticsの構成

この項の内容:

構成ユーティリティでの選択	37
構成チェックリスト	38
構成ユーティリティの実行	39

インストールおよび事前構成作業が完了したら、サーバー・マシンの構成を完了する必要があります。

構成を実行するには、構成ユーティリティを実行します。

構成ユーティリティでの選択

構成ユーティリティを使用している場合、勘定科目やエンティティなどを選択する際には注意してください。選択されたディメンションまたはメンバーへの完全なアクセス権がレポートにあることを確認してください。構成設定のリストは、次の場所にあるOFMA.logで確認できます:

- Windows: システム・ドライブ:/OFMAHome_x/OFMA
- Linux: /home/ユーザーID/OFMAHome_x/OFMA

xは、OFMAの旧インストールに1を足した数を表示します。

階層からディメンションおよびメンバーを選択するには、次のオプションを使用します:

- 階層内で親を選択し、レポートに親メンバーのみを表示します。その親の子は選択しません。
-  をクリックして、「シナリオの選択」画面で行を追加するか、「ディメンション・メンバー・リスト」画面でメンバーを追加します。
-  をクリックして、メンバー・リストを削除します。
-  をクリックして、「ディメンション・メンバー・リスト」画面で既存のメンバー・リストを変更します。
-  をクリックして、メンバー・リストをフォーマットします。
- 階層から子を選択するには、親メンバーを選択してから、下矢印  をクリックし、子を選択します。
- 階層で兄弟を選択するには、任意のノード・メンバーを選択してから、下矢印  をクリックし、兄弟を選択します。
- 階層で子を選択し、レポートに子のみを別途表示します。

- ある範囲のディメンション・メンバーを選択するには、**[Shift]**を押しながら範囲内の最初と最後のエントリを選択します。
- 複数のディメンション・メンバーをランダムに選択するには、**[Ctrl]**を押しながら個々のエントリを選択します。
- 選択された行をリストの一番上に移動するには、をクリックします。
- 選択された行を現在のリストの1レベル上に移動するには、をクリックします。
- 選択された行を現在のリストの1レベル下に移動するには、をクリックします。
- 選択された行をリストの一番下に移動するには、をクリックします。

構成チェックリスト

Oracle Financial Management Analyticsを構成するには、構成ユーティリティ・ウィザードを実行してから、手動の手順を実行します。

構成の手順は、次のチェックリストに記載されています。

表6 構成チェックリスト

タスク	リファレンス
構成ユーティリティの実行	<p>構成ユーティリティ・ウィザードで、次の各タスクを実行します:</p> <p>OFMA構成ユーティリティの起動。39ページの構成ユーティリティの実行を参照してください</p> <p>製品構成の実行: 左パネルから、「OFMA」ノードを展開し、製品構成を選択します。</p>
製品構成の設定	<p>製品構成では、次を実行します: Financial Management構成の設定。45ページのFinancial Managementの構成を参照してください HFM構成(45ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> • ビジネス・モデル(46ページ) <ul style="list-style-type: none"> ○ シナリオの選択(47ページ) ○ ディメンション・メンバー・リスト(49ページ) ○ デフォルト・ディメンション(50ページ) ○ 要約および保存構成(51ページ) • ダッシュボードの構成(52ページ) <ul style="list-style-type: none"> ○ 貸借対照表(53ページ) ○ 損益計算書(59ページ) ○ キャッシュ・フロー(66ページ) ○ パフォーマンス・インディケータ(72ページ) ○ プロセス管理(79ページ) • アラート(82ページ)

タスク	リファレンス
	<ul style="list-style-type: none"> • HFMシステム設定(86ページ) <p>Tax構成の設定。89ページのTax Provisionの構成を参照してください Tax構成(89ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> • ダッシュボードの構成(90ページ) • シナリオの選択(91ページ) • 地域の選択(92ページ) • レポート標準(93ページ) • デフォルト・ディメンション(94ページ) • KPI関連勘定科目(95ページ) • 要約および保存構成(96ページ) <p>Financial Close Management (CM/ARM)構成の設定。99ページのFinancial Close Managementの構成を参照してください FCM構成(99ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> • モジュールの選択(100ページ) • 要約および保存構成(101ページ)
ワークスペース統合	ワークスペース統合の構成。103ページのワークスペース統合の構成を参照してください
RPDおよびカタログ・ファイルのアップロード	BIサーバーへのカタログおよびリポジトリのアップロード。105ページのBIサーバーへのカタログおよびリポジトリのアップロードを参照してください

構成ユーティリティの実行

Oracle Financial Management Analyticsのインストール後に、構成ユーティリティを使用して、ダッシュボード、ダッシュボード・プロンプト、レポートでの表示に必要なFinancial Management、Tax ProvisionおよびFinancial Close Managementのメタデータをマップします。また、構成ユーティリティを使用して、Financial Close Managementのデータ・ソースを接続します。

構成ユーティリティは、Oracle Financial Management Analyticsの構成の変更、または構成の作成に使用できます。既存のリポジトリをOracle Financial Management Analyticsリポジトリとマージするには、『*Oracle(R) Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Editionメタデータ・リポジトリ作成者ガイド*』を参照してください。



注意

構成ユーティリティを完全に実行できるのは、Oracle Financial Management Analyticsのシステム管理者のみです。構成を完了するには、Financial Management、Tax ProvisionおよびFinancial Close Managementなどのアプリケーションに関する業務上の深い知識を持っていることをお勧めします。



注:

構成ユーティリティを実行する前に、BI管理サーバーとFinancial Managementアプリケーションが実行中であることを確認してください。

構成ユーティリティを実行する前に、HFM ADMドライバがインストールされていることを確認します。

▶ 構成ユーティリティを実行するには:

1. 次のいずれかのアクションを実行します:

- Windows: メイン・メニューから、「スタート」、「すべてのプログラム」、「Oracle Financial Management Analytics」、「Configuration Utility」の順に選択します。
- Linux: ターミナルを開き、ディレクトリをOFMAがインストールされている場所/OFMAHome_1/OFMAに変更して、`bash config_utility.sh`を実行します。

2. 初めて構成する場合は、Oracle Financial Management Analytics - パスの詳細の設定の情報を指定します。

-  をクリックし、EPM Systemがインストールされている場所を選択し、EPM ORACLE HOMEの場所を指定します。

例:

- Linux:EPMがインストールされている場所/Oracle/Middleware/EPMSystem11R1
- Windows:EPMがインストールされている場所/Oracle/Middleware/EPMSystem11R1

-  をクリックし、EPM Systemがインストールされている場所を選択し、EPM ORACLE INSTANCEの場所を指定します。

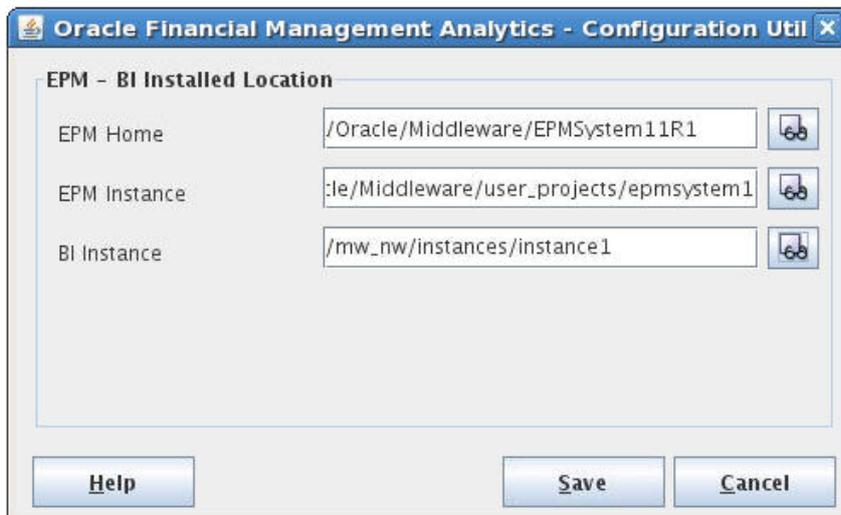
例:

- Linux:EPMがインストールされている場所/Oracle/Middleware/user_projects/epmsystem1
- Windows:EPMがインストールされている場所/Oracle/Middleware/user_projects/epmsystem1

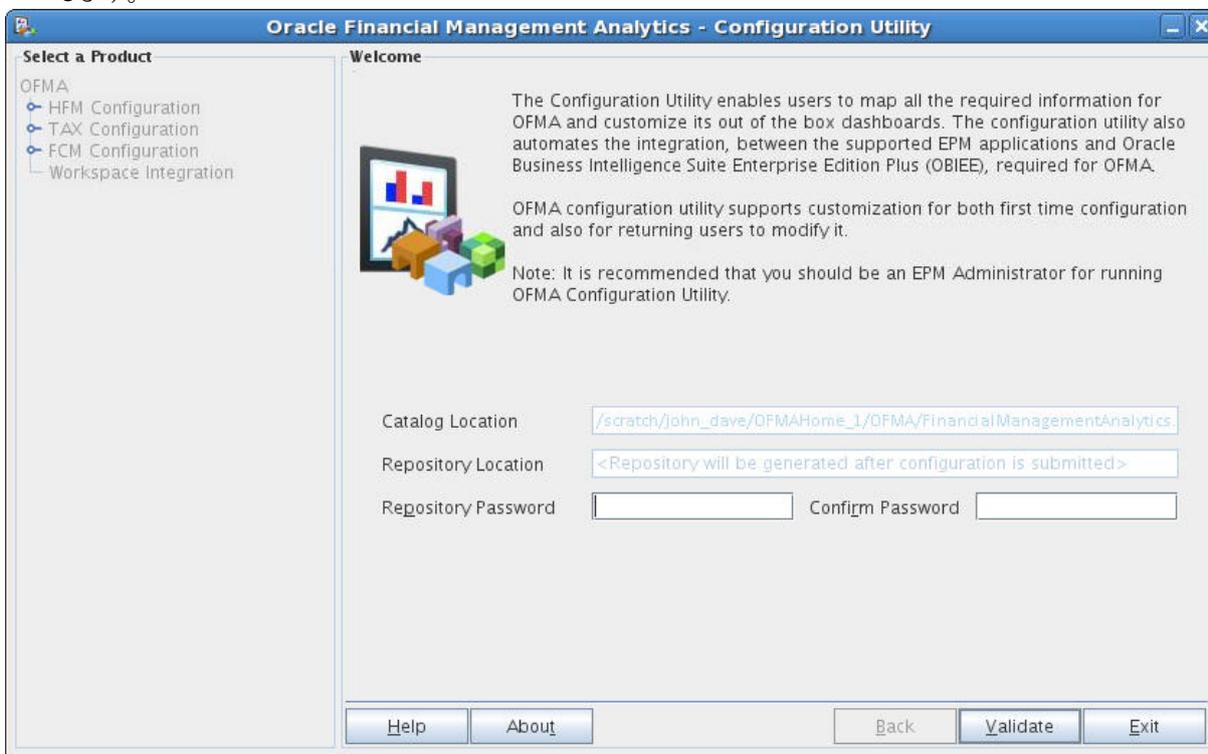
-  をクリックし、Oracle Business Intelligenceがインストールされている場所を選択し、BI HOMEの場所を指定します。

例:

- Linux:BIがインストールされている場所/OBIEE/instances/instance1
- Windows:BIがインストールされている場所/OBIEE/instances/instance1



- 「保存」をクリックして、OFMA.xmlのEPMホーム、EPM OracleインスタンスおよびBIホームのパス詳細を更新します。



- 「ようこそ」画面に、「カタログの場所」および「リポジトリの場所」のデフォルトのパスが表示されます。パスの詳細は変更できません。



注:

構成ユーティリティを初めて実行する場合には、リポジトリ・パスの場所に次のメッセージが表示されます:「リポジトリは、構成の送信後に生成されます」。2回目以降のユーザーの場合は、リポジトリの場所が自動的に取得されます。

デフォルトでは、カタログおよびリポジトリのパスは同じです。

Windows: OFMAがインストールされている場所/OFMAHome_1/OFMA

Linux: OFMAがインストールされている場所/OFMAHome_1/OFMA

5. 「RPDパスワード」および「パスワードの確認」を入力します。



注:

構成ユーティリティを初めて実行する場合は、パスワードがリポジトリ・パスワードとして設定されます。

2回目以降のユーザーが構成の変更を行う場合、パスワードは、最初の構成時に指定したリポジトリ・パスワードに対して検証されます。

6. 「検証」をクリックして、左側のパネルから製品を選択します。

- HFM構成の場合、[45ページのFinancial Managementの構成](#)を参照してください
- Tax Provision構成の場合、[89ページのTax Provisionの構成](#)を参照してください
- FCM構成の場合、[99ページのFinancial Close Managementの構成](#)を参照してください
- ワークスペース統合の場合、[103ページのワークスペース統合の構成](#)を参照してください



注:

リポジトリ・パスワードが無効であるというエラー・メッセージが表示される場合、またはリポジトリ・パスワードを忘れた場合は、システム管理者に問い合わせてください。

7

製品の構成

この章では、次のような様々な製品と正常に連携するように、Oracle Financial Management Analyticsの製品構成の情報を説明します: Financial Management, Tax Provision, Financial Close Management (Close ManagerとAccount Reconciliation Managerのモジュールを含む)。OFMAダッシュボードにレポートを表示するには、これらの製品の設定が必要です。

Oracle Financial Management Analyticsダッシュボードでデータを制限するために、必要な製品のみを構成できます。必要な場合には、Oracle Financial Management Analytics構成ユーティリティを再度起動し、残りの製品を構成できます。



注:

Financial Managementの製品構成を実行する前に、Financial Management ADMドライバがインストールされていることを確認します。



注:

HFM、Tax、FCMなどの製品に必要な構成手順がすべて実行されて保存されるまで、製品の構成設定は不完全です。



注:

Financial ManagementおよびTax Provisionアプリケーションが、同じFinancial Managementサーバーまたはクラスタ上に存在する必要があります。Oracle Financial Management Analyticsでは、複数のFinancial Managementサーバー構成はサポートされていません。



注:

OFMA構成ユーティリティの実行中に問題が発生した場合は、診断ユーティリティを実行することをお勧めします。[123ページの診断ユーティリティの実行](#)を参照してください

8

Financial Managementの構成

この項の内容:

ビジネス・モデリングの実行	46
ダッシュボードの構成	52
アラートの作成	82
Financial Managementシステム設定の実行	86

構成ユーティリティを使用すると、ダッシュボード・プロンプトおよびレポートで表示するFinancial Managementメタデータを定義できます。

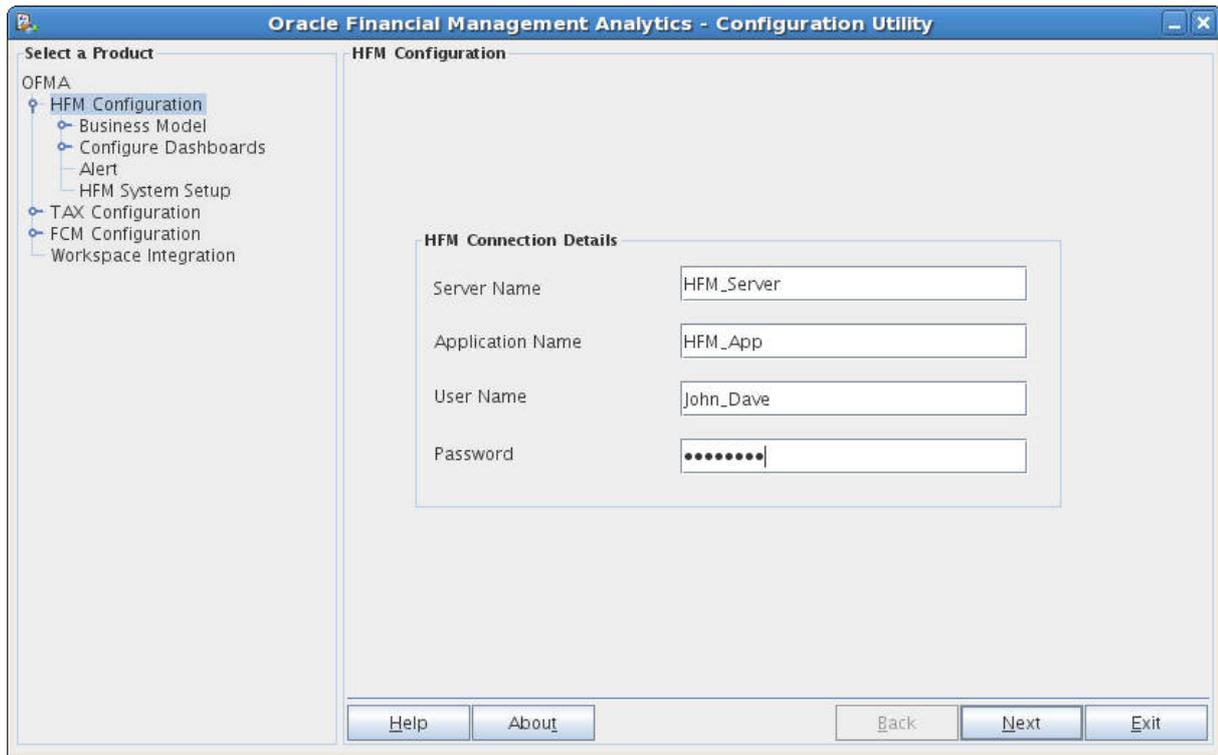
- ▶ Financial Management構成を設定するには、Financial Managementサーバーの詳細を指定する必要があります。

1. 「**HFM構成**」画面で、次を行います:

HFM構成の詳細で、次の詳細を指定します:

- クラスタ名、またはFinancial Managementアプリケーションが存在するサーバー名を入力します。
- Oracle Financial Management Analyticsで使用するFinancial Managementアプリケーションのアプリケーション名を入力します。
- Financial Managementアプリケーションに関連付けられているユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーには、Financial Managementデータにアクセスするための権限と役割が必要です。

2. 「次」をクリックします。



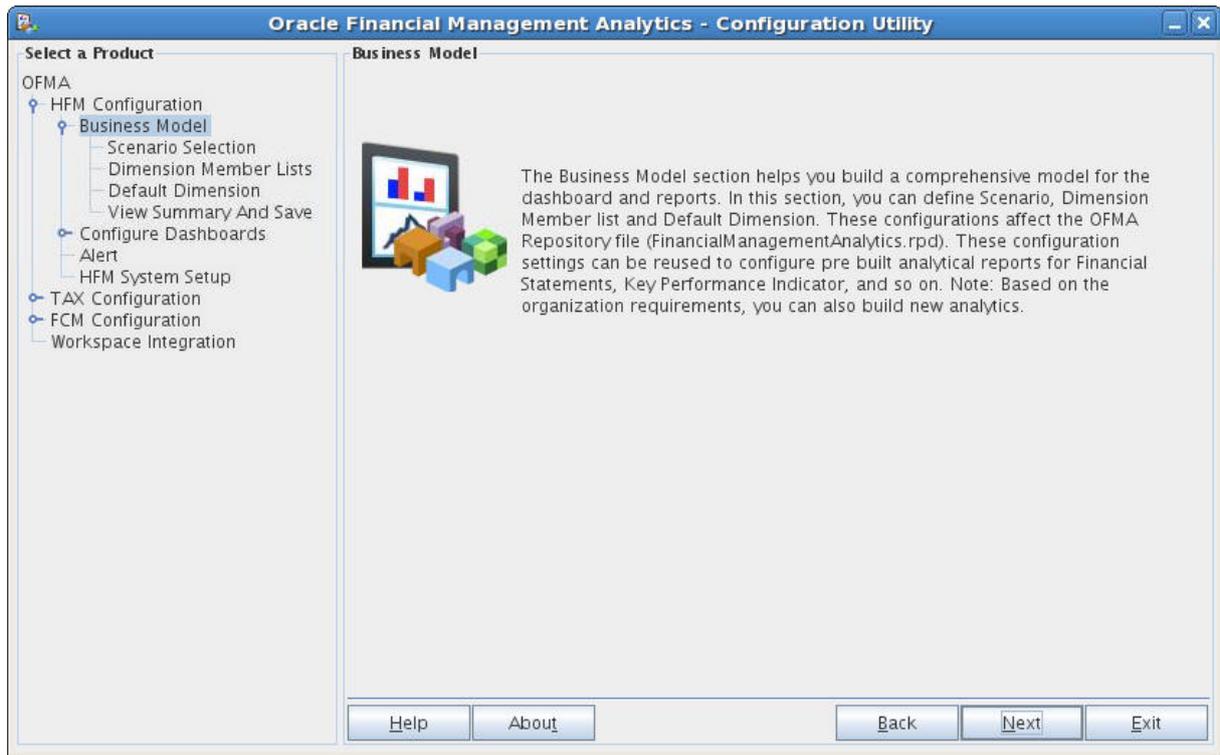
ビジネス・モデリングの実行

サブトピック

- [シナリオの選択](#)
- [ディメンション・メンバー・リストの作成](#)
- [「デフォルト・ディメンション」画面のマッピング](#)
- [Financial Managementの「要約」画面の表示](#)

シナリオ、ディメンション・メンバー・リストおよびデフォルト・ディメンションを定義します。このメタデータを再利用して、財務諸表およびキー・パフォーマンス・インディケータ(KPI)用のあらかじめ組み込まれた分析レポートを構成できます。レポートリFinancialManagementAnalytics.rpdには、これらすべてのメタデータが含まれています。

▶ 「ビジネス・モデル」画面で情報を確認し、「次」をクリックします。



注:

表示される勘定科目のメンバーは、Financial Managementのセキュリティ・クラスを使用して構成されているユーザー権限によって決まります。

シナリオの選択

選択されたシナリオ・メンバーは、Oracle Financial Management Analyticsのダッシュボードまたはレポートで使用されます。

▶ 「シナリオの選択」を設定するには:

1. 「**選択したメンバー**」ボックスで、メンバーをマップする「**メンバー**」列のセルを選択し、「**使用可能なメンバー**」から必要なシナリオ・メンバーを選択します。



注:

シナリオ「**Actual**」はデフォルトで存在します。デフォルトのシナリオ名を変更できます。

2. オプション:  をクリックして行を追加します。
3. 「シナリオ」列で、シナリオ名を入力し、「**使用可能なメンバー**」から、Financial Managementのシナリオ・メンバーをマップします。

各シナリオ・メンバーに対して手順1から3を実行します。



注:

シナリオ別名は無制限に作成できます。

同じFinancial Managementのシナリオ・メンバーに、2つの異なるシナリオ別名をマップできます。例: シナリオ別名CurrentActualはActual12012にマップされます。同様に、別のシナリオ別名RealActualを、同じFinancial Managementのシナリオ・メンバーActual12012にマップできます。シナリオ・メンバーの選択は相互に排他的ではありません。



注:

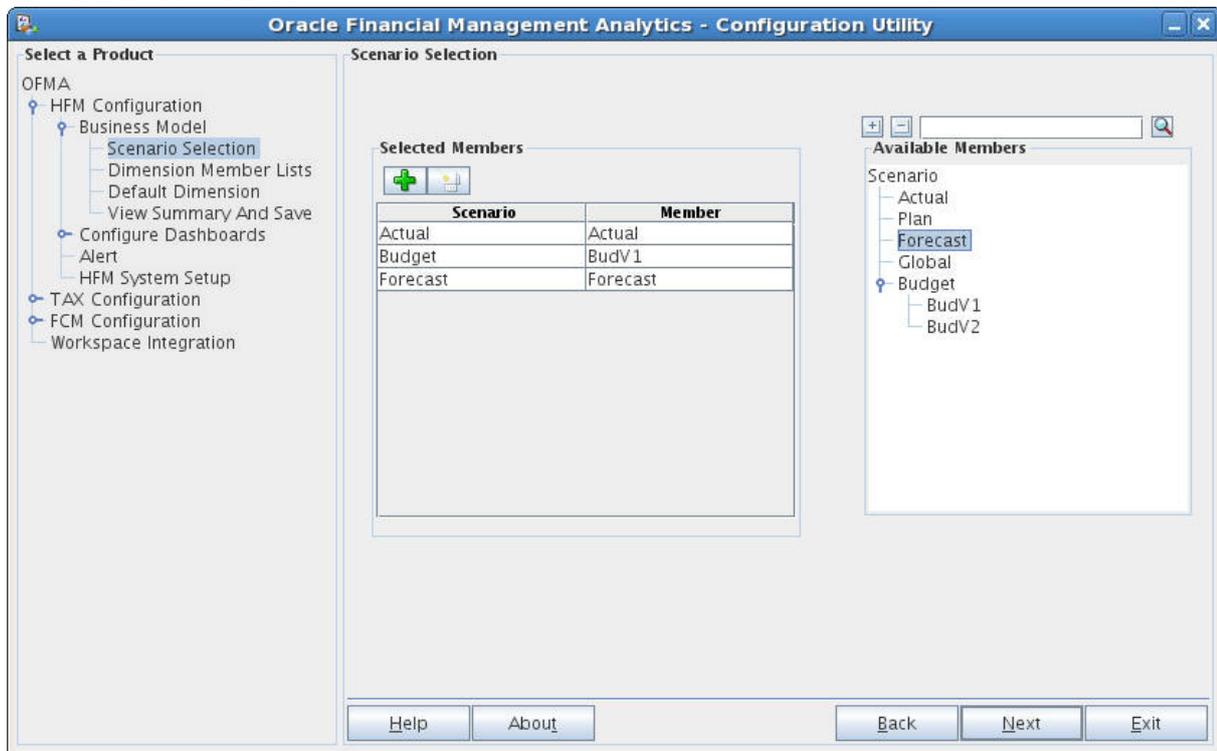
行を削除するには、をクリックします。Oracle Financial Management Analyticsのパッケージ化されたダッシュボードまたはレポートによって使用されていないシナリオ・メンバーのみを削除できます。



注:

2回目以降のユーザーとして、既存のHFMシナリオ・マッピングを別のHFMシナリオ・メンバーに変更できます。次の例を考えてみます: シナリオ別名CurrentActualは、HFMシナリオ・メンバーのActual12012にマップされます。既存のHFMシナリオ・マッピングをActual12012からActual12013に変更できます。

4. 「次」をクリックします。



ディメンション・メンバー・リストの作成

ディメンション・リストは、Oracle Financial Management Analyticsのダッシュボードまたはレポートで使用されます。

▶ 「ディメンション・メンバー・リスト」を選択するには:

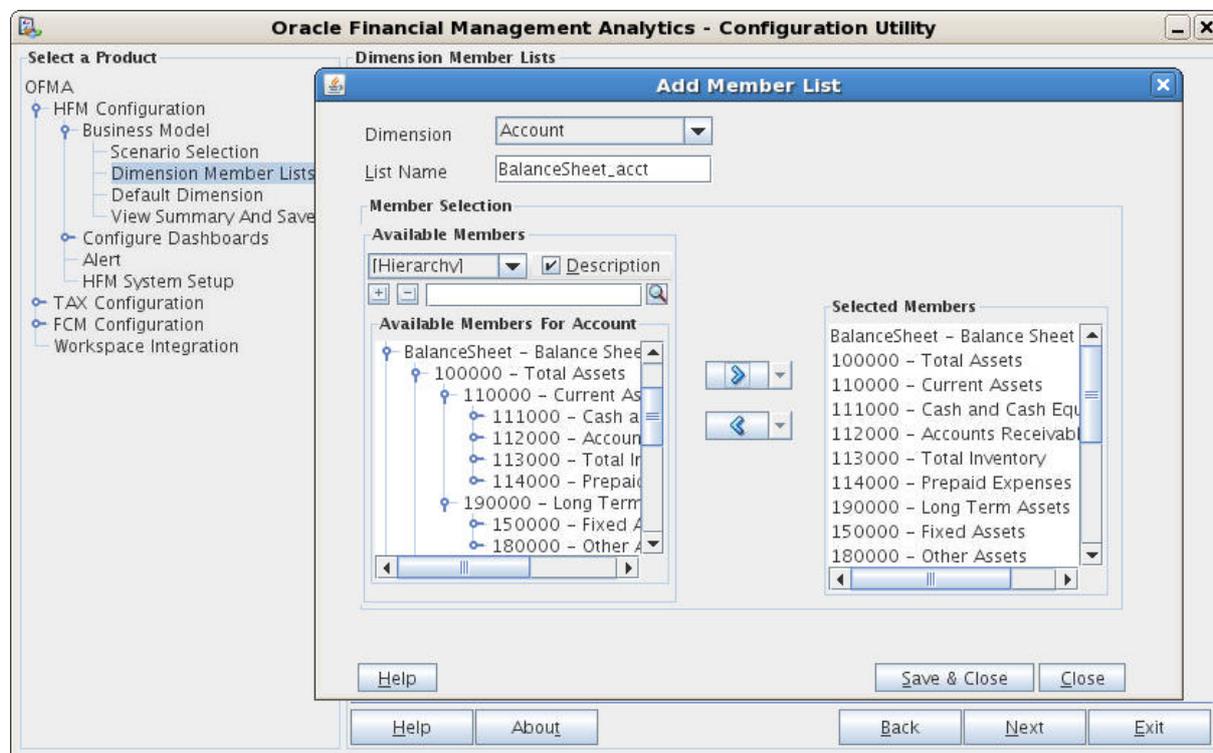
1. 「ディメンション・メンバー・リスト」で、 をクリックします。
2. 「メンバー・リストの追加」で、次を実行します:
 - a. 「ディメンション」ドロップダウン・リストから、ディメンションを選択します。たとえば、次のいずれかのオプションを選択できます: 「勘定科目」、「エンティティ」および「カスタム・ディメンション」。
 - b. 「リスト名」を入力します。
 - c. オプション: **HFM**メンバー・リストを選択して、「使用可能なメンバー」でディメンション・メンバーを表示します。



注:

デフォルトで「階層」が選択されますが、「子孫」または「親」を選択して、「使用可能なメンバー」にディメンション・メンバーを表示できます。

- d. オプション: 「説明」を選択して、ディメンション・メンバーの詳細な説明を表示します。
- e. ダッシュボードに表示する「ディメンション」メンバーを選択し、 をクリックして、「使用可能なメンバー」から「選択したメンバー」に必要なディメンション・メンバーを移動してから、「保存して閉じる」をクリックします。

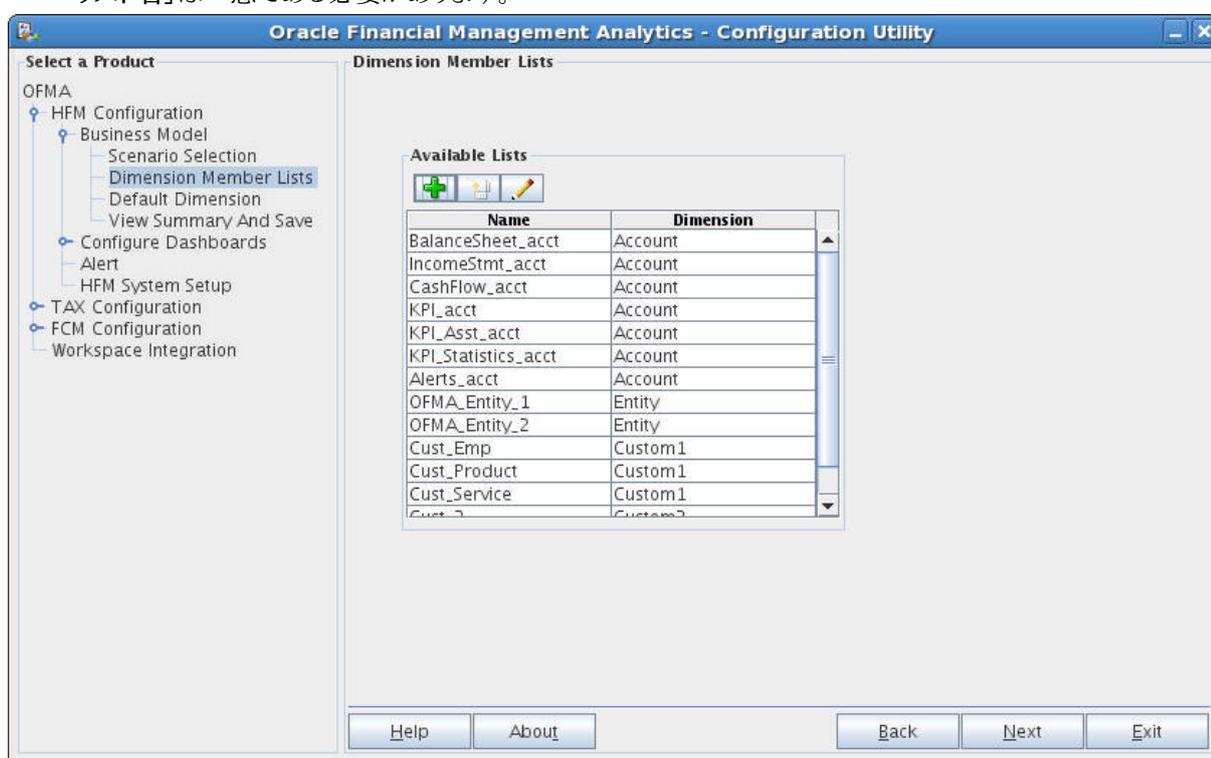


既存の「リスト名」は編集できません。リスト内の既存のディメンション・メンバーは変更できません。「ディメンション・メンバー・リスト」は削除できません。削除するディメンション・リストを選択し、をクリックします。「ディメンション・メンバー」リストがOracle Financial Management Analyticsのダッシュボードまたはレポートで使用されている場合、それは削除できません。

「勘定科目」、「エンティティ」および「カスタム・ディメンション」の無制限の「ディメンション・メンバー・リスト」を作成できます。これらのユーザー定義の「ディメンション・メンバー・リスト」を再利用して、レポートおよびダッシュボードを構成できます。

たとえば、次のイメージを参照できます。ユーザー定義の「ディメンション・メンバー・リスト」は、**Balance_Sheet_Account**、**Income_Statement_Account**、**OFMA_Entity_1**、**OFMA_Entity_2**などに対して作成されます。

「リスト名」は一意である必要があります。



3. 「次」をクリックします。

「デフォルト・ディメンション」画面のマッピング

選択されたディメンション・リストは、ダッシュボードのデフォルトの視点(POV)として設定されます。

▶ 「デフォルト・ディメンション」画面をマップするには:

1. 「選択したメンバー」で、メンバーをマップするセルを選択し、「使用可能なメンバー」から、ディメンション・メンバーを選択します。

例: 「シナリオ」の「デフォルト・メンバー」を選択し、「使用可能なメンバー」から「実績」を選択します。

「年」、「期間」、「表示」、「エンティティ」、「値」、「勘定科目」、「ICP」および「カスタム・ディメンション」などの各ディメンションについて、前述の手順を実行します。



注:

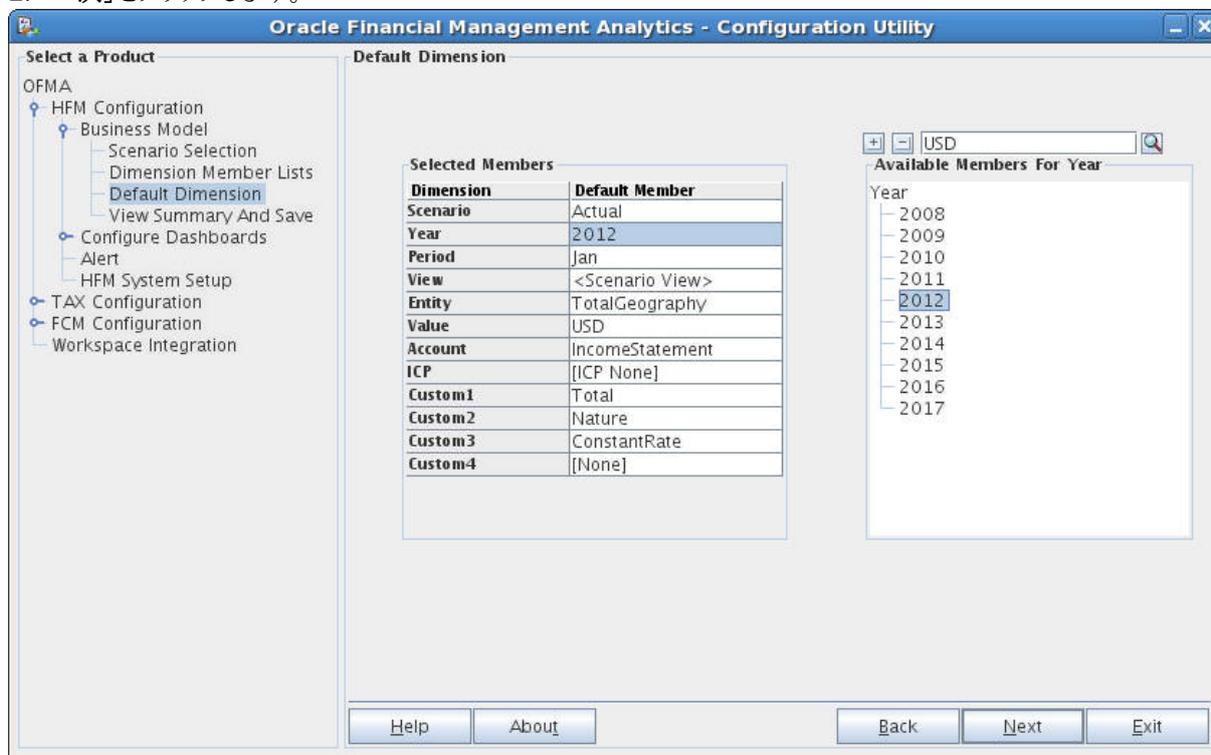
「使用可能なメンバー」リストのデフォルトの「期間」ディメンションによって、基本メンバーのみが表示されます。



注:

Oracle Financial Management Analyticsレポートは、月次の頻度で表示するよう最適化されています。基本期間が四半期ごとの頻度のアプリケーションはサポートされていません。

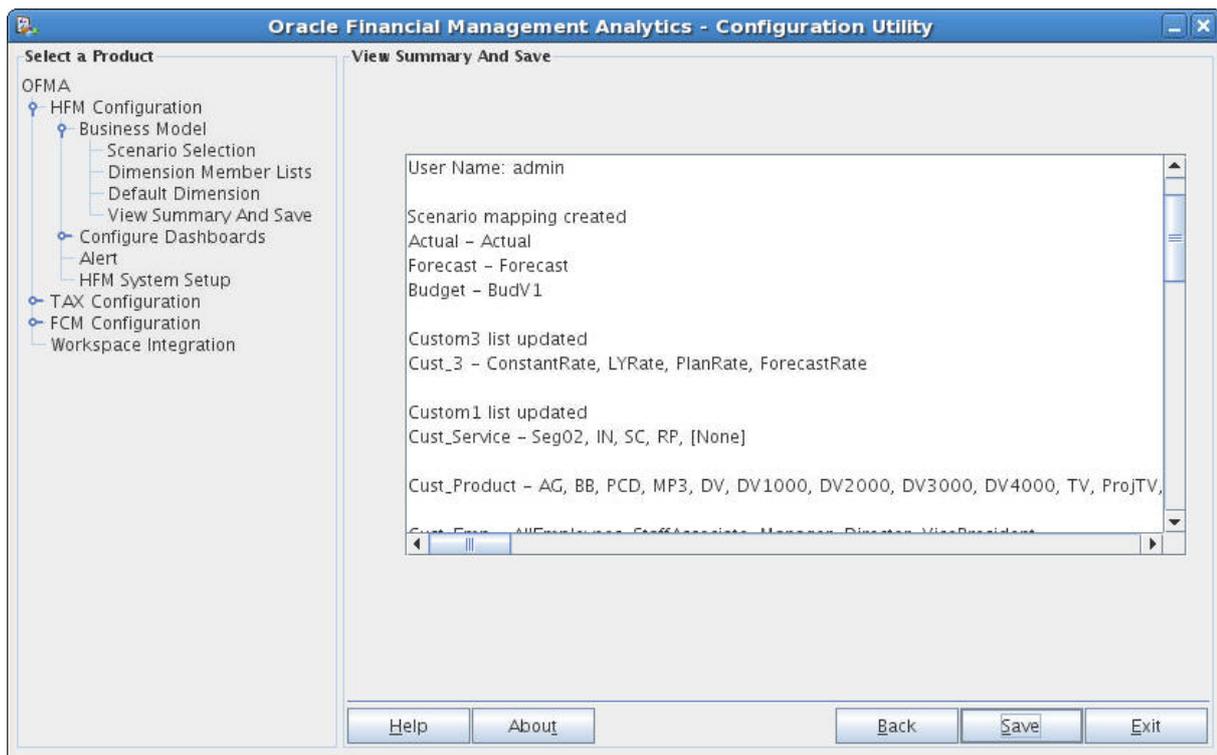
2. 「次」をクリックします。



Financial Managementの「要約」画面の表示

Financial Managementの「要約」画面には、Financial Managementの構成の詳細、および構成ユーティリティを使用して行われた選択の内容が表示されます。

- ▶ Financial Management構成の詳細の要約を確認したら、「保存」をクリックします。



注意

正しい構成の詳細が指定されていることを確認してください。「保存」をクリックする前に、必要に応じて構成設定を変更できます。

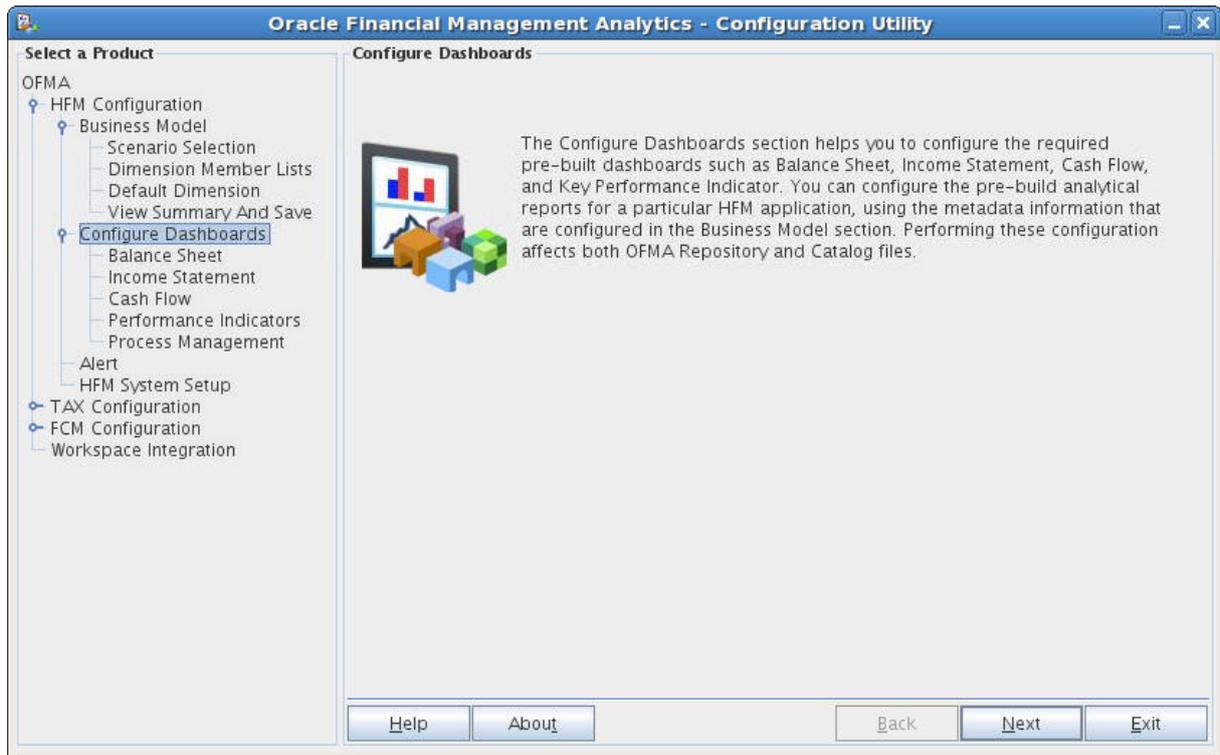
ダッシュボードの構成

サブトピック

- [貸借対照表ダッシュボードの構成](#)
- [損益計算書ダッシュボードの構成](#)
- [キャッシュ・フローの構成](#)
- [パフォーマンス・インディケータの構成](#)
- [プロセス管理の構成](#)

この項では、「貸借対照表」、「損益計算書」、「キャッシュ・フロー」、「キー・パフォーマンス・インディケータ」および「プロセス管理」などの必要なダッシュボードの構成が可能になります。ビジネス・モデルで構成されたメタデータ情報を使用して、特定のFinancial Managementアプリケーションのあらかじめ組み込まれた分析レポートを構成できます。これらの構成を実行すると、Oracle Financial Management Analytics (OFMA)のカタログ・ファイルにのみ影響を及ぼします。

- ▶ 「ダッシュボードの構成」画面で情報を確認し、「次へ」をクリックします。

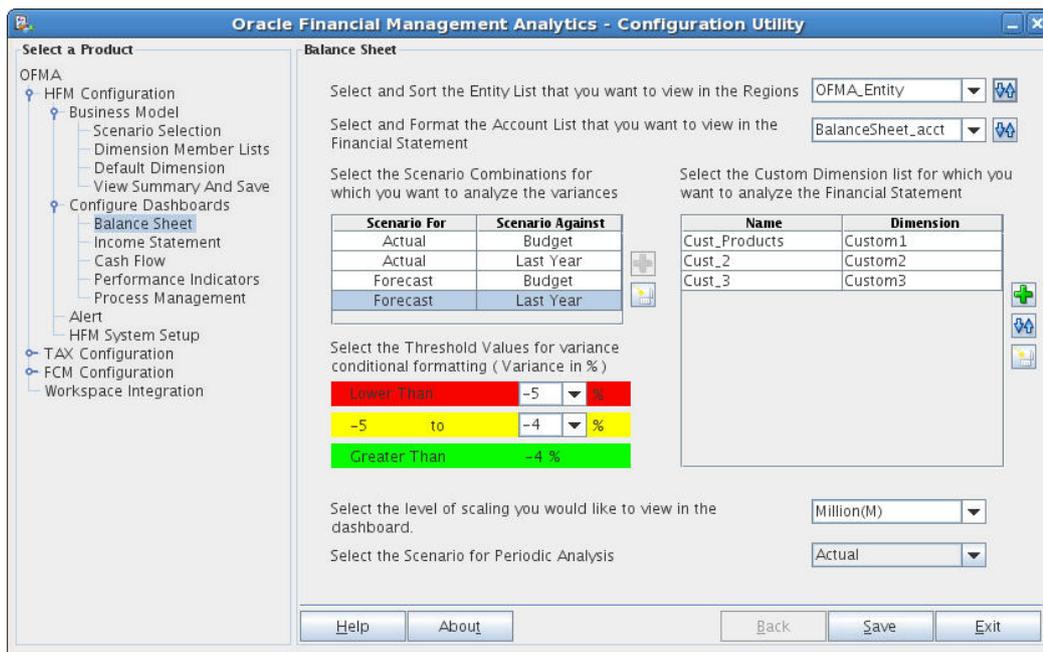


貸借対照表ダッシュボードの構成

サブトピック

- エンティティ・リストの選択およびソート
- 勘定科目リストの選択およびフォーマット
- シナリオの組合せの選択
- カスタム・ディメンション・リストの選択
- しきい値の設定
- スケーリング値の選択
- 期別分析のシナリオの選択

この選択により、貸借対照表ダッシュボードのレポートを構成できます。この画面では、エンティティ・リスト、勘定科目リスト、シナリオの組合せ、カスタム・ディメンション・リスト、条件付きフォーマットのしきい値、スケーリング係数、および期別分析の実績シナリオなどの必要なレポート要素を選択できます。これらの選択されたレポート要素は、Oracle Financial Management Analyticsのダッシュボードまたはレポートで使用されます。



注意

正しい構成の詳細が指定されていることを確認してください。「保存」をクリックする前に、必要に応じて構成設定を変更できます。

エンティティ・リストの選択およびソート

これにより、エンティティ・リストの選択およびソートが可能になり、選択されたエンティティ・リストは、貸借対照表ダッシュボードおよびレポート内で使用されます。

▶ 「エンティティ・リスト」を選択およびソートするには、次の手順を実行します:

1. ドロップダウンから「エンティティ・リスト」を選択し、エンティティ・リストをソートするには、をクリックします。エンティティ・リストの選択およびソート・ダイアログ・ボックスが表示されます。

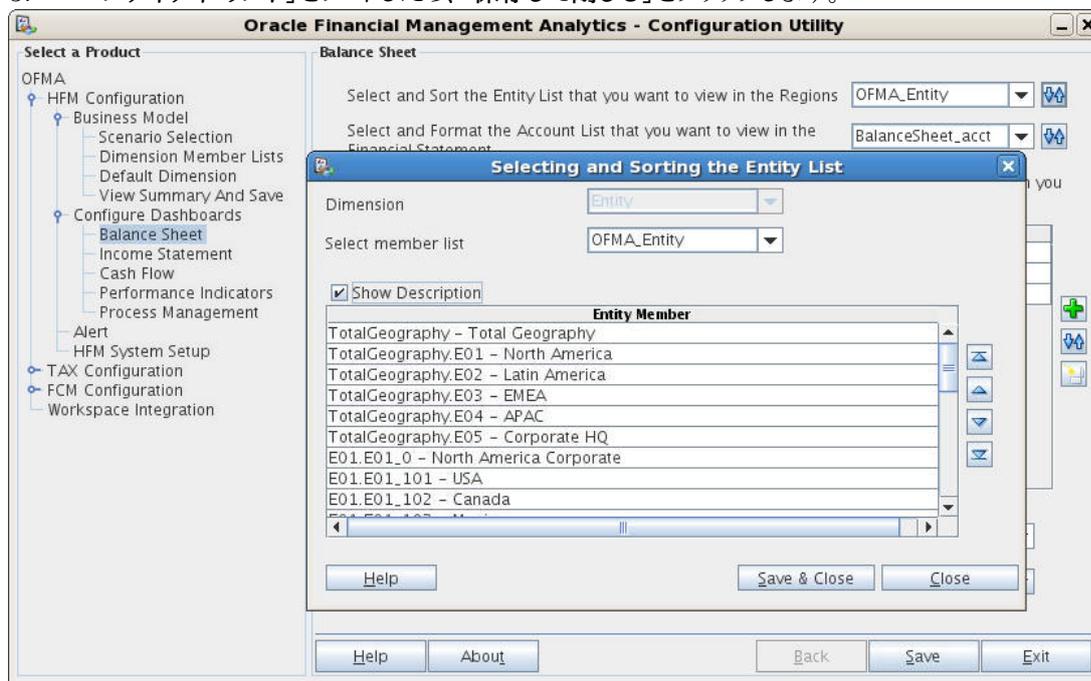


注:

「ビジネス・モデル」画面でエンティティ・リストの番号を作成した場合、構成されたすべてのエンティティ・リストがドロップダウンに表示されます。

2. エンティティ・リストの選択およびソート・ダイアログ・ボックスで、次の手順を実行します:
 - a. デフォルトでは、「ディメンション」は「エンティティ」に選択されています。
 - b. 「地域」に表示する、必要な「メンバー・リスト」を選択します。
 - c. オプション: 「説明の表示」オプションを選択して、エンティティ・メンバーの詳細な説明を表示します。
 - d. オプション: 選択された行をリストの一番上に移動するには、をクリックします。
 - e. オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル上に移動するには、をクリックします。

- f. オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル下に移動するには、をクリックします。
- g. オプション: 選択された行をリストの一番下に移動するには、をクリックします。
3. 「エンティティ・リスト」をソートしたら、「保存して閉じる」をクリックします。



注:

2回目以降のユーザーとして、既存のエンティティ・リストを変更できます。

勘定科目リストの選択およびフォーマット

これにより、勘定科目リストの選択およびフォーマットが可能になり、選択された勘定科目リストは、貸借対照表ダッシュボードおよびレポート内で使用されます。

▶ 「勘定科目リスト」を選択およびフォーマットするには、次の手順を実行します:

1. ドロップダウンから「勘定科目リスト」を選択し、勘定科目リストをフォーマットするには、をクリックします。勘定科目リストの選択およびフォーマット・ダイアログ・ボックスが表示されます。



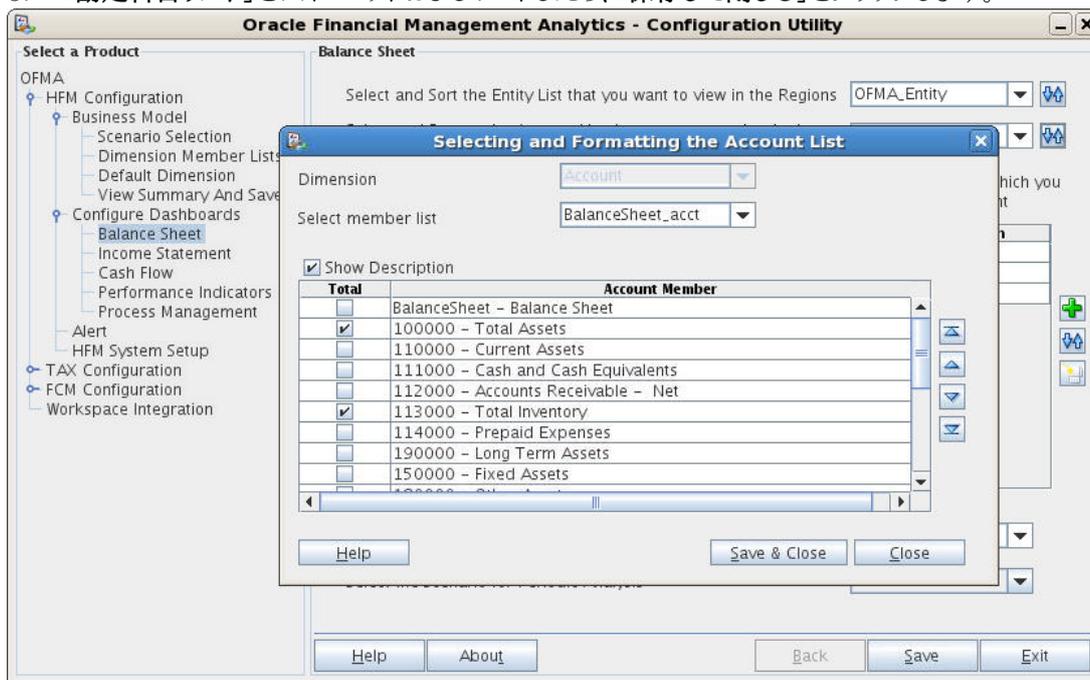
注:

「ビジネス・モデル」画面で勘定科目リストの番号を作成した場合、構成されたすべての勘定科目リストがドロップダウンに表示されます。

2. 勘定科目リストの選択およびフォーマット・ダイアログ・ボックスで、次の手順を実行します:

- a. デフォルトでは、「ディメンション」は「勘定科目」に選択されています。
- b. 貸借対照表ダッシュボードに表示する、必要な「メンバー・リスト」を選択します。

- c. オプション:「説明の表示」オプションを選択して、勘定科目メンバーの詳細な説明を表示します。
 - d. オプション:「合計」チェック・ボックスを選択して、勘定科目メンバーをフォーマットします。
 - e. オプション: 選択された行をリストの一番上に移動するには、をクリックします。
 - f. オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル上に移動するには、をクリックします。
 - g. オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル下に移動するには、をクリックします。
 - h. オプション: 選択された行をリストの一番下に移動するには、をクリックします。
3. 「勘定科目リスト」をフォーマットおよびソートしたら、「保存して閉じる」をクリックします。



注:

2回目以降のユーザーとして、既存の勘定科目リストを変更できます。

シナリオの組合せの選択

この項では、貸借対照表ダッシュボードおよびレポートの比較プロンプトで使用される、必要なシナリオの組合せの選択が可能になります。

▶ シナリオの組合せを選択するには、次の手順を実行します:

1. シナリオ元列で、ドロップダウン・オプションを使用して、比較元とする必要なシナリオを選択します。
2. シナリオ対象列で、ドロップダウン・オプションを使用して、比較対象とする必要なシナリオを選択します。
3. オプション: 新しい行を追加するには、をクリックします。

同様に、比較プロンプトに表示する各シナリオの組合せについて、前述の手順を実行します。



注:

最大で4つのシナリオの組合せを選択できます。

4. オプション: 行を削除するには、をクリックします。

Select the Scenario Combinations for which you want to analyze the variances

Scenario For	Scenario Against	
Actual	Budget	
Actual	Last Year	
Forecast	Budget	
Forecast	Last Year	



注:

2回目以降のユーザーとして、既存のHFMシナリオの組合せを変更できます。

カスタム・ディメンション・リストの選択

この項では、貸借対照表ダッシュボードおよびレポートで使用される、必要なカスタム・ディメンション・リストの選択が可能になります。



注:

最大で10個のカスタム・ディメンションを選択できます。

- ▶ カスタム・ディメンション・リストを選択およびソートするには、次の手順を実行します:
1. オプション: 新規カスタム・ディメンション・リストを追加するには、をクリックします。
 2. カスタム・リストの選択およびソート・ダイアログ・ボックスで、次の手順を実行します:
 - a. ドロップダウンから、必要な「カスタム・ディメンション」を選択します。
 - b. レポートに表示する、必要な「メンバー・リスト」を選択します。

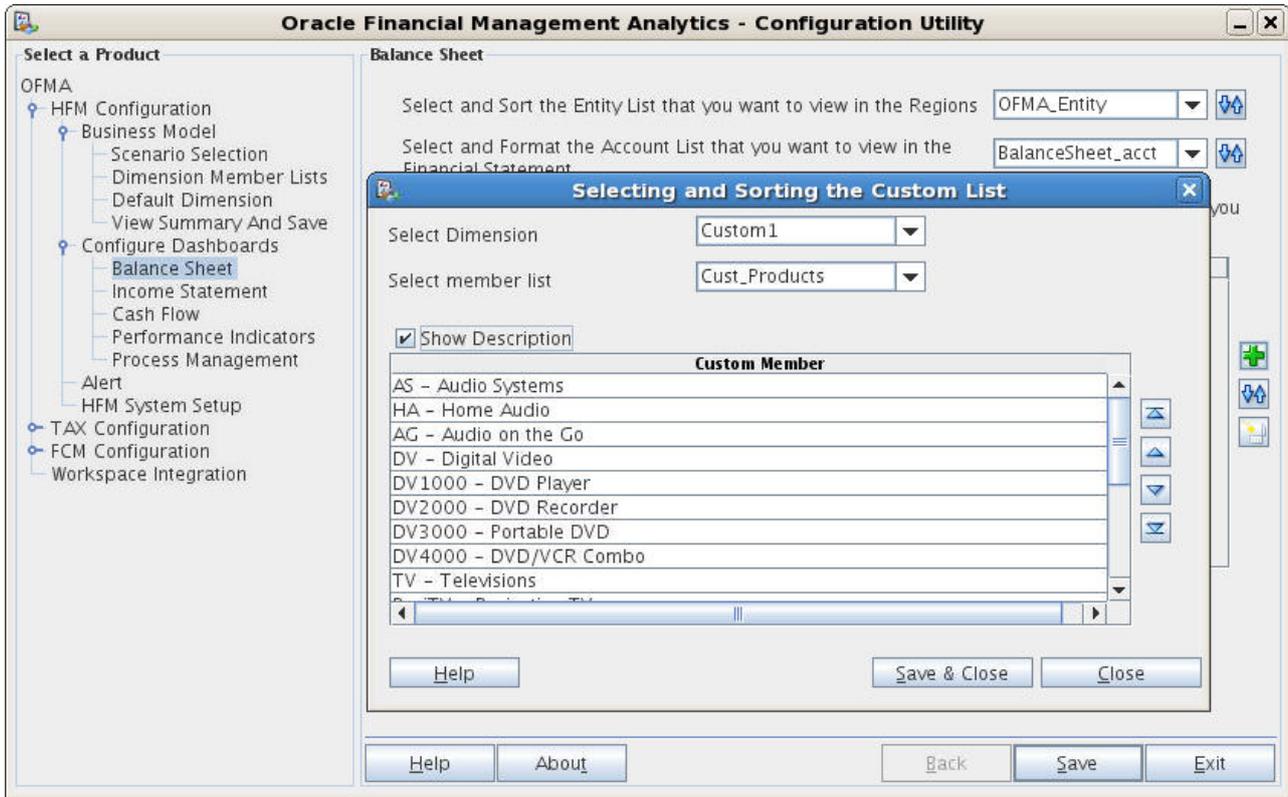


注:

「ビジネス・モデル」画面でカスタム・ディメンション・リストの番号を作成した場合、構成されたすべてのカスタム・ディメンション・リストがドロップダウンに表示されます。

- c. オプション: 「説明の表示」オプションを選択して、カスタム・メンバーの詳細な説明を表示します。
- d. オプション: 選択された行をリストの一番上に移動するには、をクリックします。
- e. オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル上に移動するには、をクリックします。

- f. オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル下に移動するには、をクリックします。
- g. オプション: 選択された行をリストの一番下に移動するには、をクリックします。
3. カスタム・ディメンション・リストをソートしたら、「保存して閉じる」をクリックします。



注:

2回目以降のユーザーとして、既存のカスタム・ディメンション・リストのソートのみ可能です。

しきい値の設定

この項では、差異条件付きフォーマット(%単位の差異)のしきい値の選択が可能になり、選択されたしきい値の範囲は、貸借対照表ダッシュボードの様々なレポートで使用されます。

条件付きフォーマットに対して、特定のしきい値の範囲を特定の色コードに定義できます。条件付きフォーマットに基づいて、しきい値の外観をカスタマイズできます。これらのしきい値は、記号として異なる形式(タイルの色、フラグ、ゲージの円周に沿ってなど)で表されます。詳細は、*Oracle Financial Management Analyticsユーザーガイド*を参照してください。

- ▶ 差異条件付きフォーマット(%単位の差異)のしきい値を設定するには、次の手順を実行します:
 1. 赤色の行で値を選択します。差異パーセンテージが指定された値より小さい場合、これらの値は記号として赤色で表されます。例: 赤のフラグ。
 2. 黄色の行で値を選択します。差異パーセンテージが指定された値の範囲内である場合、これらの値は記号として黄色で表されます。例: 黄色のフラグ。



注:

緑色の行の値は、黄色の行で選択された値に基づいて自動的に移入されます。

差異パーセンテージが指定された値より大きい場合、これらの値は記号として緑色で表されます。
例: 緑のフラグ。

Select the Threshold Values for variance conditional formatting (Variance in %)

Lower Than	-5	%
-5 to	-4	%
Greater Than	-4	%

スケーリング値の選択

これにより、ダッシュボードおよびレポートに表示するスケーリング係数の選択が可能になります。

- ▶ ダッシュボードおよびレポートに表示する、必要なスケーリング係数を選択します。

例: 百万(M)を選択した場合、レポートのすべての財務値は、100万に換算して表示されます。詳細は、*Oracle Financial Management Analyticsユーザーガイド*を参照してください。

期別分析のシナリオの選択

これにより、期別分析レポートで財務値を表示するシナリオの選択が可能になります。

- ▶ 期別分析レポートですべての財務値を表示する、必要なシナリオを選択します。

例: 「実績」を選択した場合、期別分析レポートのすべての財務値は、実績値に換算して表示されます。



注意

正しい構成の詳細が指定されていることを確認してください。「保存」をクリックする前に、必要に応じて構成設定を変更できます。

損益計算書ダッシュボードの構成

サブトピック

- エンティティ・リストの選択およびソート
- 勘定科目リストの選択およびフォーマット
- シナリオの組合せの選択
- カスタム・ディメンション・リストの選択
- しきい値の設定
- スケーリング値の選択

・ 期別分析のシナリオの選択

この選択により、損益計算書のレポートを構成できます。この画面では、エンティティ・リスト、勘定科目リスト、シナリオの組合せ、カスタム・ディメンション・リスト、条件付きフォーマットのしきい値、スケーリング係数、および期別分析の実績シナリオなどの必要なレポート要素を選択できます。これらの選択されたレポート要素は、Oracle Financial Management Analyticsのダッシュボードまたはレポートで使用されます。

Scenario For	Scenario Against
Actual	Last Year
Forecast	Last Year
Actual	Budget

Name	Dimension
Cust_Products	Custom1
Cust_2	Custom2
Cust_3	Custom3



注意

正しい構成の詳細が指定されていることを確認してください。「保存」をクリックする前に、必要に応じて構成設定を変更できます。

エンティティ・リストの選択およびソート

これにより、エンティティ・リストの選択およびソートが可能になり、選択されたエンティティ・リストは、損益計算書ダッシュボードおよびレポート内で使用されます。

▶ 「エンティティ・リスト」を選択およびソートするには、次の手順を実行します:

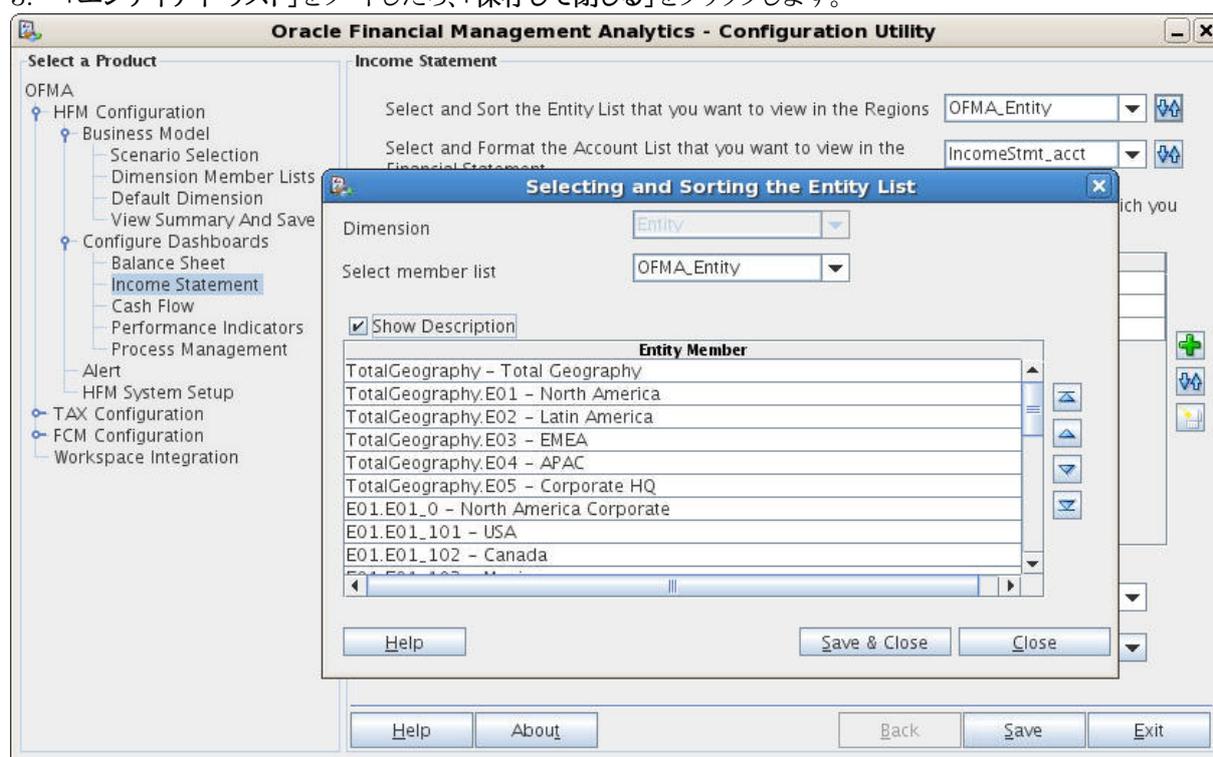
1. ドロップダウンから「エンティティ・リスト」を選択し、エンティティ・リストをソートするには、をクリックします。エンティティ・リストの選択およびソート・ダイアログ・ボックスが表示されます。



注:

「ビジネス・モデル」画面でエンティティ・リストの番号を作成した場合、構成されたすべてのエンティティ・リストがドロップダウンに表示されます。

2. エンティティ・リストの選択およびソート・ダイアログ・ボックスで、次の手順を実行します:
 - a. デフォルトでは、「ディメンション」は「エンティティ」に選択されています。
 - b. 「地域」に表示する、必要な「メンバー・リスト」を選択します。
 - c. オプション: 「説明の表示」オプションを選択して、エンティティ・メンバーの詳細な説明を表示します。
 - d. オプション: 選択された行をリストの一番上に移動するには、をクリックします。
 - e. オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル上に移動するには、をクリックします。
 - f. オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル下に移動するには、をクリックします。
 - g. オプション: 選択された行をリストの一番下に移動するには、をクリックします。
3. 「エンティティ・リスト」をソートしたら、「保存して閉じる」をクリックします。



注:

2回目以降のユーザーとして、既存のエンティティ・リストを変更できます。

勘定科目リストの選択およびフォーマット

これにより、勘定科目リストの選択およびフォーマットが可能になり、選択された勘定科目リストは、損益計算書ダッシュボードおよびレポート内で使用されます。

▶ 「勘定科目リスト」を選択およびソートするには、次の手順を実行します:

1. ドロップダウンから「勘定科目リスト」を選択し、勘定科目リストをフォーマットするには、をクリックします。勘定科目リストの選択およびフォーマット・ダイアログ・ボックスが表示されます。



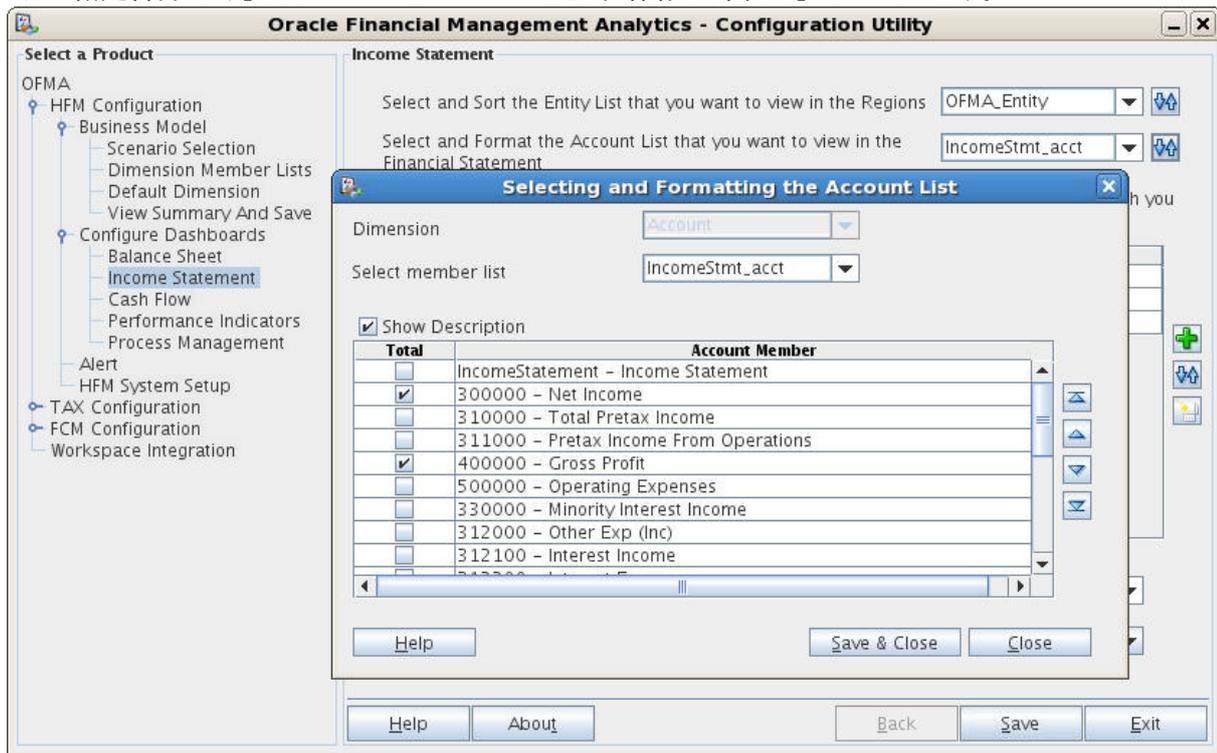
注:

「ビジネス・モデル」画面で勘定科目リストの番号を作成した場合、構成されたすべての勘定科目リストがドロップダウンに表示されます。

2. 勘定科目リストの選択およびフォーマット・ダイアログ・ボックスで、次の手順を実行します:

- デフォルトでは、「ディメンション」は「勘定科目」に選択されています。
- 損益計算書ダッシュボードに表示する、必要な「メンバー・リスト」を選択します。
- オプション: 「説明の表示」オプションを選択して、勘定科目メンバーの詳細な説明を表示します。
- オプション: 「合計」チェック・ボックスを選択して、勘定科目メンバーをフォーマットします。
- オプション: 選択された行をリストの一番上に移動するには、をクリックします。
- オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル上に移動するには、をクリックします。
- オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル下に移動するには、をクリックします。
- オプション: 選択された行をリストの一番下に移動するには、をクリックします。

3. 「勘定科目リスト」をフォーマットおよびソートしたら、「保存して閉じる」をクリックします。



Total	Account Member
<input type="checkbox"/>	IncomeStatement - Income Statement
<input checked="" type="checkbox"/>	300000 - Net Income
<input type="checkbox"/>	310000 - Total Pretax Income
<input type="checkbox"/>	311000 - Pretax Income From Operations
<input checked="" type="checkbox"/>	400000 - Gross Profit
<input type="checkbox"/>	500000 - Operating Expenses
<input type="checkbox"/>	330000 - Minority Interest Income
<input type="checkbox"/>	312000 - Other Exp (Inc)
<input type="checkbox"/>	312100 - Interest Income



注:

2回目以降のユーザーとして、既存の勘定科目リストを変更できます。

シナリオの組合せの選択

この項では、シナリオの組合せの選択が可能になり、選択されたシナリオの組合せは、損益計算書ダッシュボードおよびレポートの比較プロンプトで使用されます。

▶ シナリオの組合せを選択するには、次の手順を実行します:

1. シナリオ元列で、ドロップダウン・オプションを使用して、比較元とする必要なシナリオを選択します。
2. シナリオ対象列で、ドロップダウン・オプションを使用して、比較対象とする必要なシナリオを選択します。
3. オプション: 新しい行を追加するには、 をクリックします。

同様に、比較プロンプトに表示する各シナリオの組合せについて、前述の手順を実行します。



注:

最大で4つのシナリオの組合せを選択できます。

4. オプション: 行を削除するには、 をクリックします。

Select the Scenario Combinations for which you want to analyze the variances

Scenario For	Scenario Against
Actual	Last Year
Forecast	Last Year
Actual	Budget



注:

2回目以降のユーザーとして、既存のHFMシナリオの組合せを変更できます。

カスタム・ディメンション・リストの選択

この項では、損益計算書ダッシュボードおよびレポートで使用される、必要なカスタム・ディメンション・リストの選択が可能になります。



注:

最大で10個のカスタム・ディメンションを選択できます。

▶ カスタム・ディメンション・リストを選択およびソートするには、次の手順を実行します:

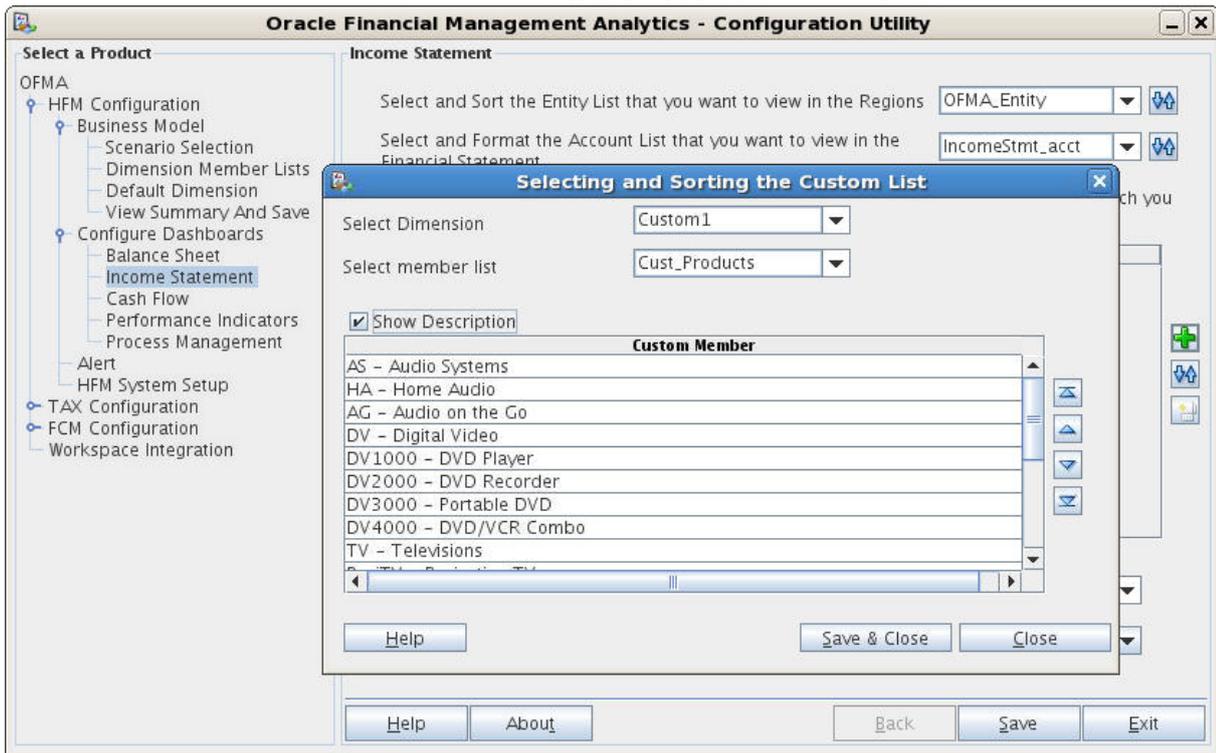
1. オプション: 新規カスタム・ディメンション・リストを追加するには、 をクリックします。
2. カスタム・リストの選択およびソート・ダイアログ・ボックスで、次の手順を実行します:
 - a. ドロップダウンから、必要な「カスタム・ディメンション」を選択します。
 - b. レポートに表示する、必要な「メンバー・リスト」を選択します。



注:

「ビジネス・モデル」画面でカスタム・ディメンション・リストの番号を作成した場合、構成されたすべてのカスタム・ディメンション・リストがドロップダウンに表示されます。

- c. オプション: 「説明の表示」オプションを選択して、カスタム・メンバーの詳細な説明を表示します。
 - d. オプション: 選択された行をリストの一番上に移動するには、 をクリックします。
 - e. オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル上に移動するには、 をクリックします。
 - f. オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル下に移動するには、 をクリックします。
 - g. オプション: 選択された行をリストの一番下に移動するには、 をクリックします。
3. カスタム・ディメンション・リストをソートしたら、「保存して閉じる」をクリックします。



注:

2回目以降のユーザーとして、既存のカスタム・ディメンション・リストのソートのみ可能です。

しきい値の設定

この項では、差異条件付きフォーマット(%単位の差異)のしきい値の選択が可能になり、選択されたしきい値の範囲は、損益計算書ダッシュボードの様々なレポートで使用されます。

条件付きフォーマットに対して、特定のしきい値の範囲を特定の色コードに定義できます。条件付きフォーマットに基づいて、しきい値の外観をカスタマイズできます。これらのしきい値は、記号として異なる形式(タイルの色、フラグ、ゲージの円周に沿ってなど)で表されます。詳細は、*Oracle Financial Management Analyticsユーザーガイド*を参照してください。

▶ 差異条件付きフォーマット(%単位の差異)のしきい値を設定するには、次の手順を実行します:

1. 赤色の行で値を選択します。差異パーセンテージが指定された値より小さい場合、これらの値は記号として赤色で表されます。例: 赤のフラグ。
2. 黄色の行で値を選択します。差異パーセンテージが指定された値の範囲内である場合、これらの値は記号として黄色で表されます。例: 黄色のフラグ。



注:

緑色の行の値は、黄色の行で選択された値に基づいて自動的に移入されます。

差異パーセンテージが指定された値より大きい場合、これらの値は記号として緑色で表されます。例: 緑のフラグ。

Select the Threshold Values for variance conditional formatting (Variance in %)			
Lower Than	-4	▼	%
-4 to	-2	▼	%
Greater Than	-2		%

スケーリング値の選択

これにより、ダッシュボードおよびレポートに表示するスケーリング係数の選択が可能になります。

▶ ダッシュボードおよびレポートに表示する、必要なスケーリング係数を選択します。

例: 百万(M)を選択した場合、レポートのすべての財務値は、100万に換算して表示されます。詳細は、*Oracle Financial Management Analyticsユーザーガイド*を参照してください。

期別分析のシナリオの選択

これにより、期別分析レポートで財務値を表示するシナリオの選択が可能になります。

▶ 期別分析レポートですべての財務値を表示する、必要なシナリオを選択します。

例: 「実績」を選択した場合、期別分析レポートのすべての財務値は、実績値に換算して表示されます。



注意

正しい構成の詳細が指定されていることを確認してください。「保存」をクリックする前に、必要に応じて構成設定を変更できます。

キャッシュ・フローの構成

サブトピック

- エンティティ・リストの選択およびソート
- 勘定科目リストの選択およびフォーマット
- シナリオの組合せの選択
- カスタム・ディメンション・リストの選択およびソート
- しきい値の設定
- スケーリング値の選択
- 期別分析のシナリオの選択

この選択により、キャッシュ・フローのレポートを構成できます。この画面では、エンティティ・リスト、勘定科目リスト、シナリオの組合せ、カスタム・ディメンション・リスト、条件付きフォーマットのしきい値、スケーリング係数、および期別分析の実績シナリオなどの必要なレポート要素を選択できます。これらの選択されたレポート要素は、Oracle Financial Management Analyticsのダッシュボードまたはレポートで使用されます。



注意

正しい構成の詳細が指定されていることを確認してください。「保存」をクリックする前に、必要に応じて構成設定を変更できます。

エンティティ・リストの選択およびソート

このオプションによって、エンティティ・リストの選択およびソートが可能になり、選択されたエンティティ・リストは、キャッシュ・フロー・ダッシュボードおよびレポート内で使用されます。

▶ 「エンティティ・リスト」を選択およびソートするには、次の手順を実行します：

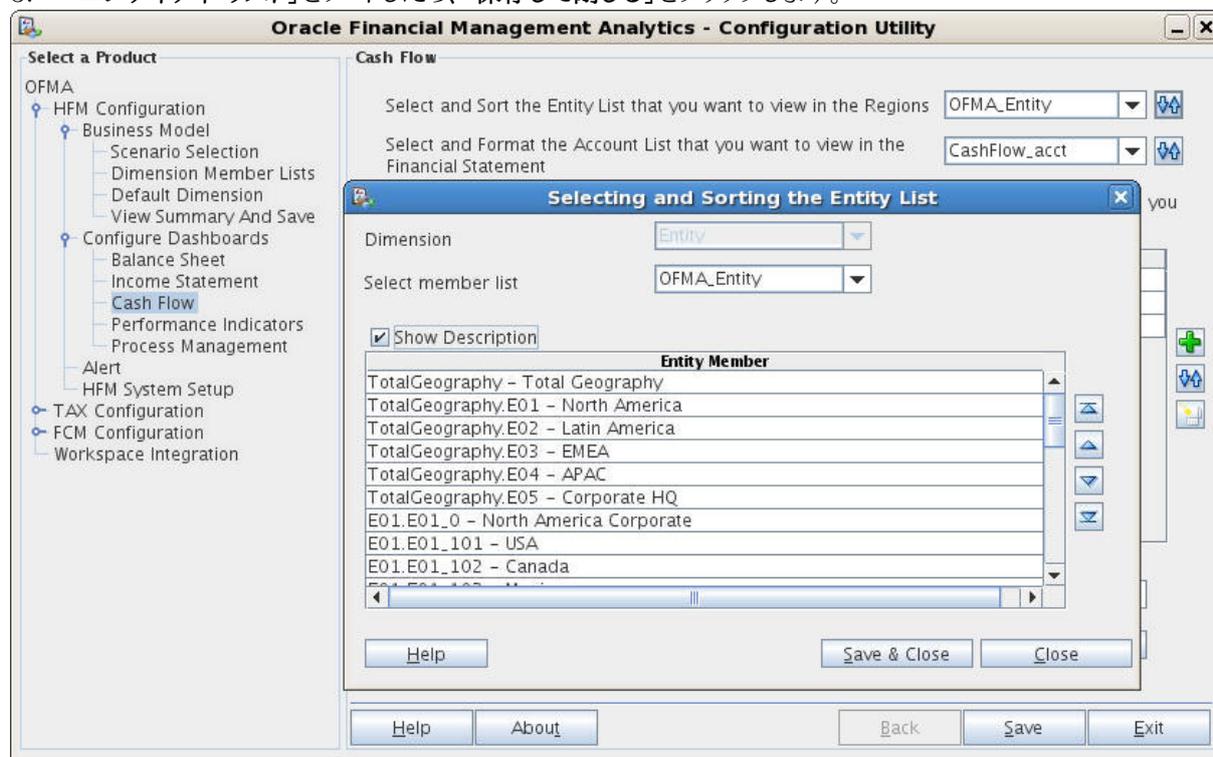
1. ドロップダウンから「エンティティ・リスト」を選択し、エンティティ・リストをソートするには、をクリックします。エンティティ・リストの選択およびソート・ダイアログ・ボックスが表示されます。



注：

「ビジネス・モデル」画面でエンティティ・リストの番号を作成した場合、構成されたすべてのエンティティ・リストがドロップダウンに表示されます。

2. エンティティ・リストの選択およびソート・ダイアログ・ボックスで、次の手順を実行します：
 - a. デフォルトでは、「ディメンション」は「エンティティ」に選択されています。
 - b. 「地域」に表示する、必要な「メンバー・リスト」を選択します。
 - c. オプション: 「説明の表示」オプションを選択して、エンティティ・メンバーの詳細な説明を表示します。
 - d. オプション: 選択された行をリストの一番上に移動するには、をクリックします。
 - e. オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル上に移動するには、をクリックします。
 - f. オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル下に移動するには、をクリックします。
 - g. オプション: 選択された行をリストの一番下に移動するには、をクリックします。
3. 「エンティティ・リスト」をソートしたら、「保存して閉じる」をクリックします。





注:

2回目以降のユーザーとして、既存のエンティティ・リストを変更できます。

勘定科目リストの選択およびフォーマット

このオプションによって、勘定科目リストの選択およびフォーマットが可能になり、選択された勘定科目リストは、キャッシュ・フロー・ダッシュボードおよびレポート内で使用されます。

▶ 「勘定科目リスト」を選択およびソートするには、次の手順を実行します:

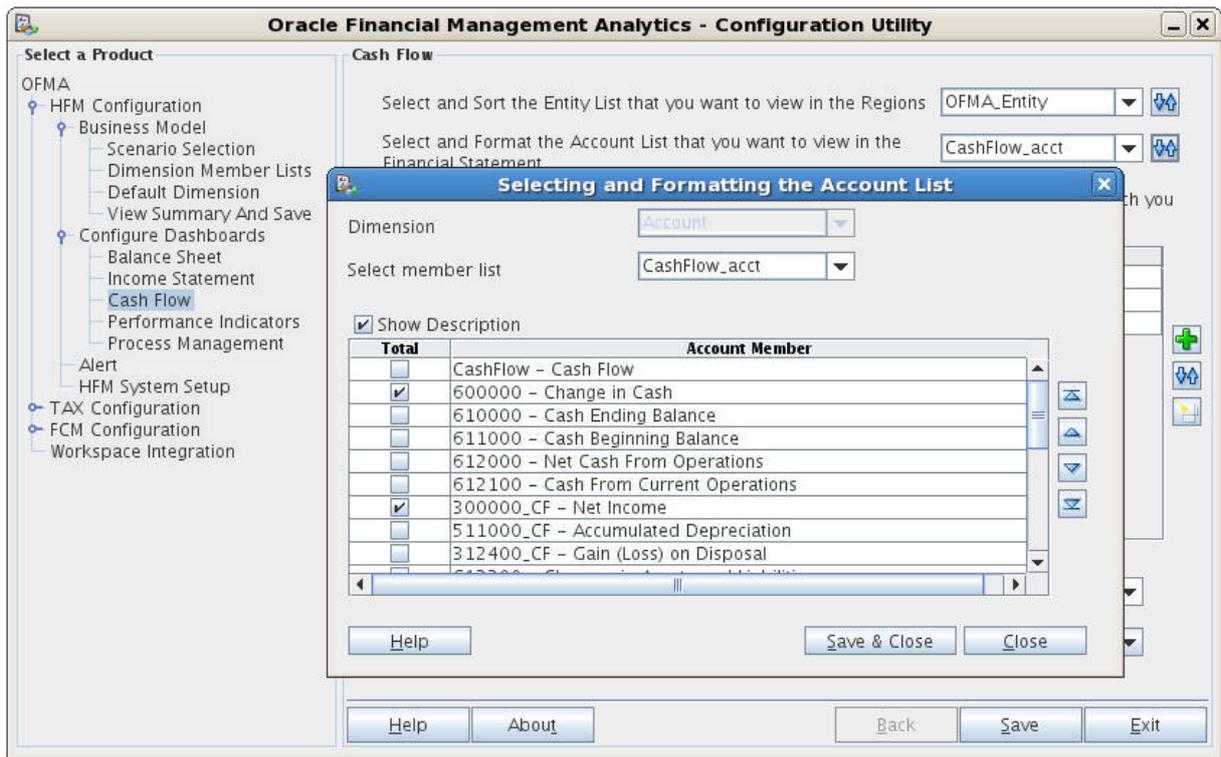
1. ドロップダウンから「勘定科目リスト」を選択し、勘定科目リストをフォーマットするには、をクリックします。勘定科目リストの選択およびフォーマット・ダイアログ・ボックスが表示されます。



注:

「ビジネス・モデル」画面で勘定科目リストの番号を作成した場合、構成されたすべての勘定科目リストがドロップダウンに表示されます。

2. 勘定科目リストの選択およびフォーマット・ダイアログ・ボックスで、次の手順を実行します:
 - a. デフォルトでは、「ディメンション」は「勘定科目」に選択されています。
 - b. キャッシュ・フロー・ダッシュボードに表示する、必要な「メンバー・リスト」を選択します。
 - c. オプション: 「説明の表示」オプションを選択して、勘定科目メンバーの詳細な説明を表示します。
 - d. オプション: 「合計」チェック・ボックスを選択して、勘定科目メンバーをフォーマットします。
 - e. オプション: 選択された行をリストの一番上に移動するには、をクリックします。
 - f. オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル上に移動するには、をクリックします。
 - g. オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル下に移動するには、をクリックします。
 - h. オプション: 選択された行をリストの一番下に移動するには、をクリックします。
3. 「勘定科目リスト」をフォーマットおよびソートしたら、「保存して閉じる」をクリックします。



注:

2回目以降のユーザーとして、既存の勘定科目リストを変更できます。

シナリオの組合せの選択

この項では、シナリオの組合せの選択が可能になり、選択されたシナリオの組合せは、キャッシュ・フロー・ダッシュボードおよびレポートの比較プロンプトで使用されます。

▶ シナリオの組合せを選択するには、次の手順を実行します:

1. シナリオ元列で、ドロップダウン・オプションを使用して、比較元とする必要なシナリオを選択します。
2. シナリオ対象列で、ドロップダウン・オプションを使用して、比較対象とする必要なシナリオを選択します。
3. オプション: 新しい行を追加するには、 をクリックします。

同様に、比較プロンプトに表示する各シナリオの組合せについて、前述の手順を実行します。



注:

最大で4つのシナリオの組合せを選択できます。

4. オプション: 行を削除するには、 をクリックします。

Select the Scenario Combinations for which you want to analyze the variances

Scenario For	Scenario Against
Actual	Budget
Actual	Last Year
Forecast	Budget
Forecast	Last Year



注:

2回目以降のユーザーとして、既存のHFMシナリオの組合せを変更できます。

カスタム・ディメンション・リストの選択およびソート

この項では、キャッシュ・フロー・ダッシュボードおよびレポートで使用される、必要なカスタム・ディメンション・リストの選択が可能になります。



注:

最大で10個のカスタム・ディメンションを選択できます。

▶ カスタム・ディメンション・リストを選択およびソートするには、次の手順を実行します:

1. オプション: 新規カスタム・ディメンション・リストを追加するには、 をクリックします。
2. カスタム・リストの選択およびソート・ダイアログ・ボックスで、次の手順を実行します:
 - a. ドロップダウンから、必要な「カスタム・ディメンション」を選択します。
 - b. レポートに表示する、必要な「メンバー・リスト」を選択します。

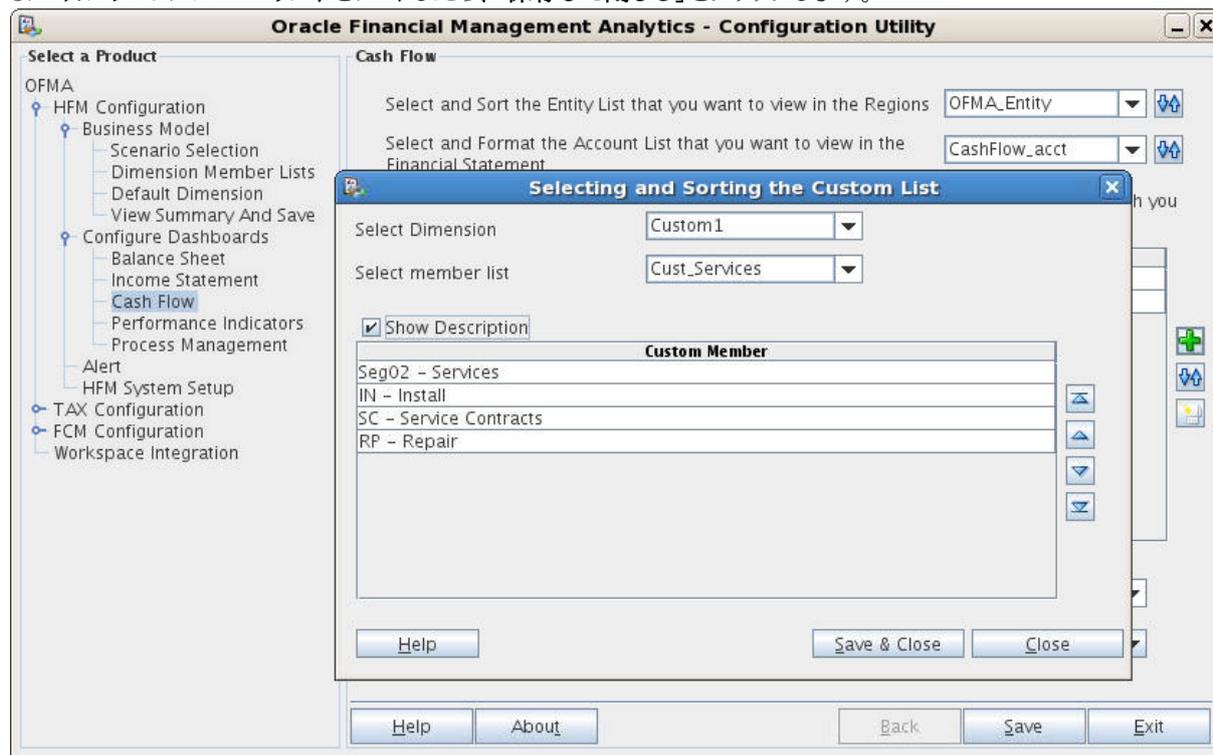


注:

「ビジネス・モデル」画面でカスタム・ディメンション・リストの番号を作成した場合、構成されたすべてのカスタム・ディメンション・リストがドロップダウンに表示されます。

- c. オプション: 「説明の表示」オプションを選択して、カスタム・メンバーの詳細な説明を表示します。
- d. オプション: 選択された行をリストの一番上に移動するには、 をクリックします。
- e. オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル上に移動するには、 をクリックします。
- f. オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル下に移動するには、 をクリックします。
- g. オプション: 選択された行をリストの一番下に移動するには、 をクリックします。

3. カスタム・メンバー・リストをソートしたら、「保存して閉じる」をクリックします。



注:

2回目以降のユーザーとして、既存のカスタム・ディメンション・リストのソートのみ可能です。

しきい値の設定

この項では、差異条件付きフォーマット(%単位の差異)のしきい値の選択が可能になり、選択されたしきい値の範囲は、キャッシュ・フロー・ダッシュボードの様々なレポートで使用されます。

条件付きフォーマットに対して、特定のしきい値の範囲を特定の色コードに定義できます。条件付きフォーマットに基づいて、しきい値の外観をカスタマイズできます。これらのしきい値は、記号として異なる形式(タイルの色、フラグ、ゲージの円周に沿ってなど)で表されます。詳細は、*Oracle Financial Management Analytics ユーザー・ガイド*を参照してください。

- ▶ 差異条件付きフォーマット(%単位の差異)のしきい値を設定するには、次の手順を実行します:

 1. 赤色の行で値を選択します。差異パーセンテージが指定された値より小さい場合、これらの値は記号として赤色で表されます。例: 赤のフラグ。
 2. 黄色の行で値を選択します。差異パーセンテージが指定された値の範囲内である場合、これらの値は記号として黄色で表されます。例: 黄色のフラグ。



注:

緑色の行の値は、黄色の行で選択された値に基づいて自動的に移入されます。

差異パーセンテージが指定された値より大きい場合、これらの値は記号として緑色で表されます。

例: 緑のフラグ。

Select the Threshold Values for variance conditional formatting (Variance in %)

Lower Than	-5	▼	%
-5	to	5	▼ %
Greater Than	5		%

スケーリング値の選択

これにより、ダッシュボードおよびレポートに表示するスケーリング係数の選択が可能になります。

- ▶ ダッシュボードおよびレポートに表示する、必要なスケーリング係数を選択します。

例: 百万(M)を選択した場合、レポートのすべての財務値は、100万に換算して表示されます。詳細は、*Oracle Financial Management Analyticsユーザーガイド*を参照してください。

期別分析のシナリオの選択

これにより、期別分析レポートで財務値を表示するシナリオの選択が可能になります。

- ▶ 期別分析レポートですべての財務値を表示する、必要なシナリオを選択します。

例: 「実績」を選択した場合、期別分析レポートのすべての財務値は、実績値に換算して表示されます。



注意

正しい構成の詳細が指定されていることを確認してください。「保存」をクリックする前に、必要に応じて構成設定を変更できます。

パフォーマンス・インディケータの構成

サブトピック

- エンティティ・リストの選択
- 勘定科目リストの選択およびフォーマット
- シナリオの組合せの選択
- カスタム・ディメンション・リストの選択およびソート
- しきい値の設定

この選択により、パフォーマンス・インディケータのレポートを構成できます。この画面では、エンティティ・リスト、勘定科目リスト、シナリオの組合せ、カスタム・ディメンション・リスト、および条件付きフォーマットのしきい値などの必要なレポート要素を選択できます。これらの選択されたレポート要素は、Oracle Financial Management Analytics のダッシュボードまたはレポートで使用されます。



注意

正しい構成の詳細が指定されていることを確認してください。「保存」をクリックする前に、必要に応じて構成設定を変更できます。

エンティティ・リストの選択

このオプションを使用すると、エンティティ・リストの選択が可能になり、選択されたエンティティ・リストは、パフォーマンス・インディケータ・ダッシュボードおよびレポート内で使用されます。

▶ 「エンティティ・リスト」を選択するには、次の手順を実行します:

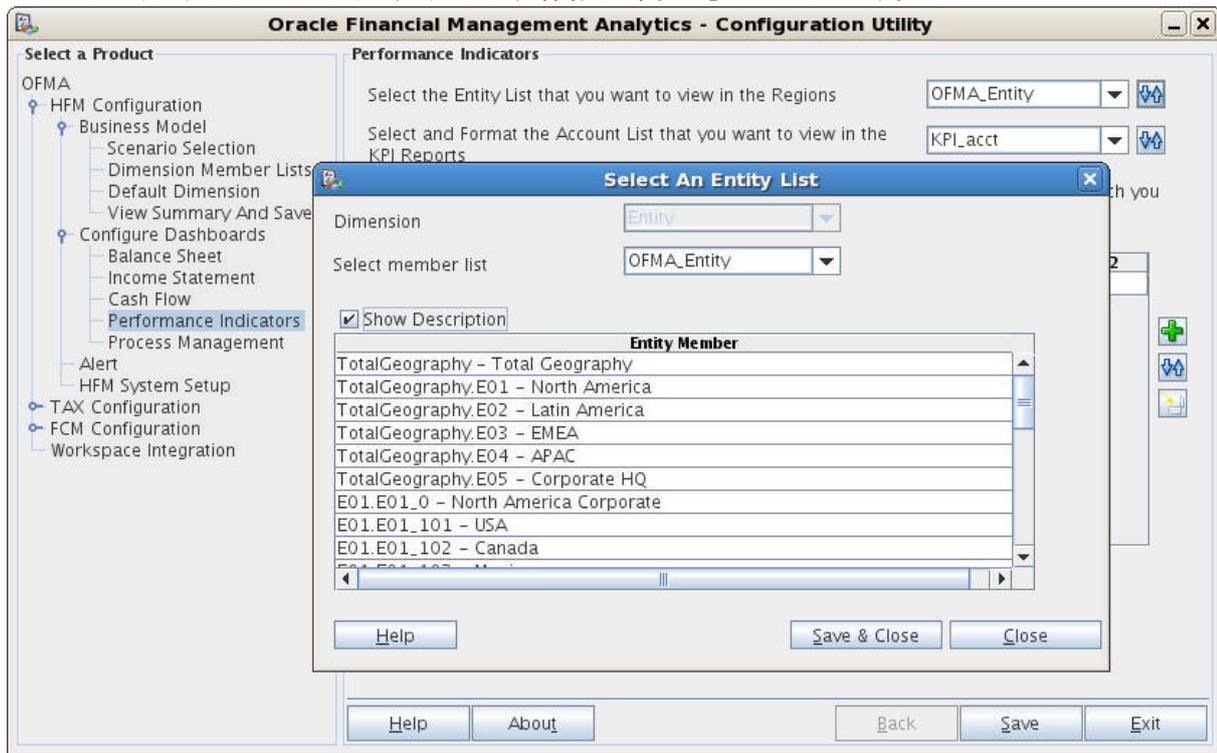
1. ドロップダウンから「エンティティ・リスト」を選択し、 をクリックして、エンティティ・リスト内のメンバーを表示します。



注:

「ビジネス・モデル」画面でエンティティ・リストの番号を作成した場合、構成されたすべてのエンティティ・リストがドロップダウンに表示されます。

2. 「エンティティ・リストの選択」ダイアログ・ボックスで、次の手順を実行します:
 - a. デフォルトでは、「ディメンション」は「エンティティ」に選択されています。
 - b. 「地域」に表示する、必要な「メンバー・リスト」を選択します。
 - c. オプション: 「説明の表示」オプションを選択して、エンティティ・メンバーの詳細な説明を表示します。
3. エンティティ・メンバー・リストを表示したら、「保存して閉じる」をクリックします。



注:

2回目以降のユーザーとして、既存のエンティティ・リストを変更できます。

勘定科目リストの選択およびフォーマット

このオプションを使用すると、勘定科目リストの選択およびフォーマットが可能になり、選択された勘定科目リストは、パフォーマンス・インディケーター・ダッシュボードおよびレポート内で使用されます。

- ▶ 「勘定科目リスト」を選択およびソートするには、次の手順を実行します:
1. ドロップダウンから「勘定科目リスト」を選択し、勘定科目リストをフォーマットするには、をクリックします。勘定科目リストの選択およびフォーマット・ダイアログ・ボックスが表示されます。



注:

「ビジネス・モデル」画面で勘定科目リストの番号を作成した場合、構成されたすべての勘定科目リストがドロップダウンに表示されます。

2. 勘定科目リストの選択およびフォーマット・ダイアログ・ボックスで、次の手順を実行します:

- a. KPIダッシュボードおよびレポートに表示する、必要な「メンバー・リスト」を選択します。
- b. オプション: KPIレポートに表示する、必要な関連するディメンション・リストを選択します。

例: 「総利益」勘定科目を考えてみます。「総利益」勘定科目は、「純収益」や「販売原価」など、関連付けられた勘定科目に基づいて計算できます。KPI係数レポートにこれらの勘定科目を表示するために必要な、関連するディメンション・リストを選択する必要があります。



注:

「ビジネス・モデル」画面で、個別のKPI勘定科目リストを作成する必要があります。

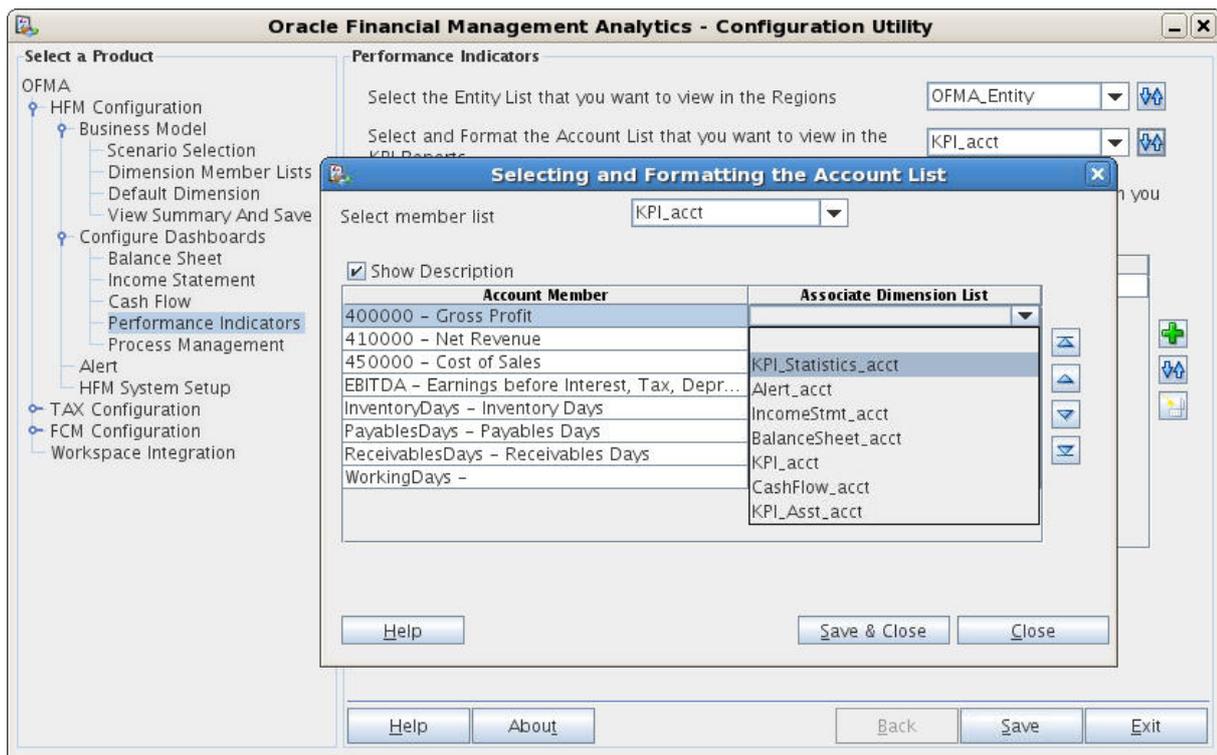
構成されたすべての勘定科目リストが、ドロップダウンに表示されます。



注:

関連するディメンション・リスト詳細を指定しない場合、KPI係数レポートはダッシュボードで非表示になります。

- c. オプション: 「説明の表示」オプションを選択して、勘定科目メンバーの詳細な説明を表示します。
 - d. オプション: 選択された行をリストの一番上に移動するには、をクリックします。
 - e. オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル上に移動するには、をクリックします。
 - f. オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル下に移動するには、をクリックします。
 - g. オプション: 選択された行をリストの一番下に移動するには、をクリックします。
3. 「勘定科目リスト」をフォーマットおよびソートしたら、「保存して閉じる」をクリックします。



注:

2回目以降のユーザーとして、既存の勘定科目リストを変更できます。

シナリオの組合せの選択

この項では、シナリオの組合せの選択が可能になり、選択されたシナリオの組合せは、パフォーマンス・インディケーター・ダッシュボードおよびレポートの比較プロンプトで使用されます。

▶ シナリオの組合せを選択するには、次の手順を実行します:

1. シナリオ元列で、ドロップダウン・オプションを使用して、比較元とする必要なシナリオを選択します。
2. シナリオ対象列で、ドロップダウン・オプションを使用して、比較対象とする必要なシナリオを選択します。
3. オプション: 新しい行を追加するには、 をクリックします。

同様に、比較プロンプトに表示する各シナリオの組合せについて、前述の手順を実行します。



注:

最大で4つのシナリオの組合せを選択できます。

4. オプション: 行を削除するには、 をクリックします。

Select the Scenario Combinations for which you want to analyze the variances

Scenario For	Scenario Against
Actual	Budget
Forecast	Budget
Actual	Last Year
Forecast	Last Year



注:

2回目以降のユーザーとして、既存のHFMシナリオの組合せを変更できます。

カスタム・ディメンション・リストの選択およびソート

この項では、パフォーマンス・インディケータ・ダッシュボードおよびレポートで使用される、必要なカスタム・ディメンション・リストを選択できます。



注:

最大で10個のカスタム・ディメンションを選択できます。

▶ カスタム・ディメンション・リストを選択およびソートするには、次の手順を実行します:

1. オプション: 新規カスタム・ディメンション・リストを追加するには、 をクリックします。
2. カスタム・リストの選択およびソート・ダイアログ・ボックスで、次の手順を実行します:
 - a. ドロップダウンから、必要な「ディメンション1」を選択します。
 - b. レポートに表示する、必要な「ディメンション・リスト」を選択します。



注:

「ビジネス・モデル」画面で構成されたエンティティおよびカスタム・ディメンション・リストが、ドロップダウンに表示されます。

- c. オプション: 「説明の表示」オプションを選択して、カスタム・メンバーの詳細な説明を表示します。
- d. オプション: 選択された行をリストの一番上に移動するには、 をクリックします。
- e. オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル上に移動するには、 をクリックします。
- f. オプション: 選択された行を現在のリストの1レベル下に移動するには、 をクリックします。

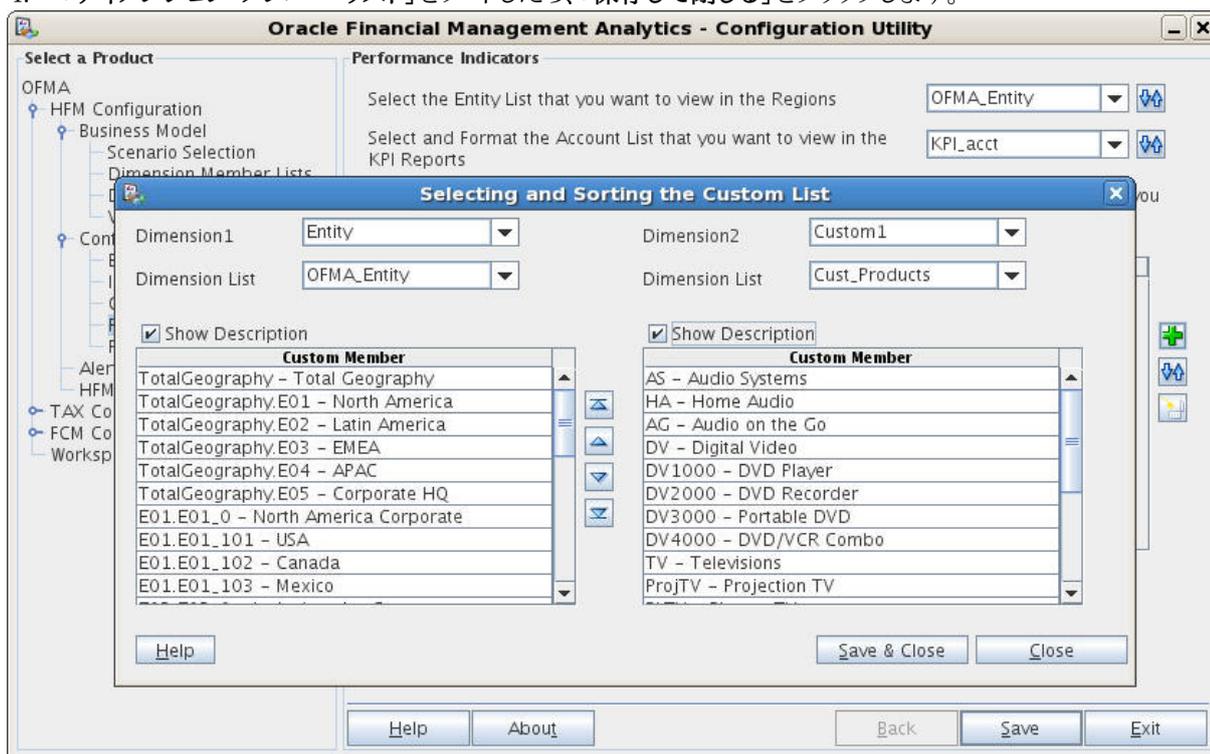
- g. オプション: 選択された行をリストの一番下に移動するには、をクリックします。
3. a. ドロップダウンから、必要な「ディメンション2」を選択します。
b. レポートに表示する、必要な「ディメンション・リスト」を選択します。



注:

「ビジネス・モデル」画面で構成されたエンティティおよびカスタム・ディメンション・リストが、ドロップダウンに表示されます。

- c. オプション: 「説明の表示」オプションを選択して、カスタム・メンバーの詳細な説明を表示します。
4. 「ディメンション・メンバー・リスト」をソートしたら、「保存して閉じる」をクリックします。



注:

2回目以降のユーザーとして、既存のカスタム・メンバー・リストのソートのみ可能です。

しきい値の設定

この項では、差異条件付きフォーマット(%単位の差異)のしきい値の選択が可能になり、選択されたしきい値の範囲は、パフォーマンス・インディケータ・ダッシュボードの様々なレポートで使用されます。

条件付きフォーマットに対して、特定のしきい値の範囲を特定の色コードに定義できます。条件付きフォーマットに基づいて、しきい値の外観をカスタマイズできます。これらのしきい値は、記号として異なる形式(タイルの色、フラグ、ゲージの円周に沿ってなど)で表されます。詳細は、*Oracle Financial Management Analyticsユーザー・ガイド*を参照してください。

- ▶ 差異条件付きフォーマット(%単位の差異)のしきい値を設定するには、次の手順を実行します:
1. 赤色の行で下限と上限の値を選択します。差異パーセンテージが指定された値の範囲内である場合、これらの値は記号として赤色で表されます。たとえば、ゲージ・メーターの赤色などです。
 2. 黄色の行で上限を選択します。差異パーセンテージが指定された値の範囲内である場合、これらの値は記号として黄色で表されます。たとえば、ゲージ・メーターの黄色などです。
 3. 緑色の行で上限の値を選択すると、下限の値は、黄色の行で選択された値に基づいて自動的に移入されます。差異パーセンテージが指定された値の範囲内である場合、これらの値は記号として緑色で表されます。たとえば、ゲージ・メーターの緑色などです。

Select the Threshold Values for variance conditional formatting (Variance in %)

-50	▼	to Less than	-33	▼	%
-33		to Less than	33	▼	%
33		to	50	▼	%



注意

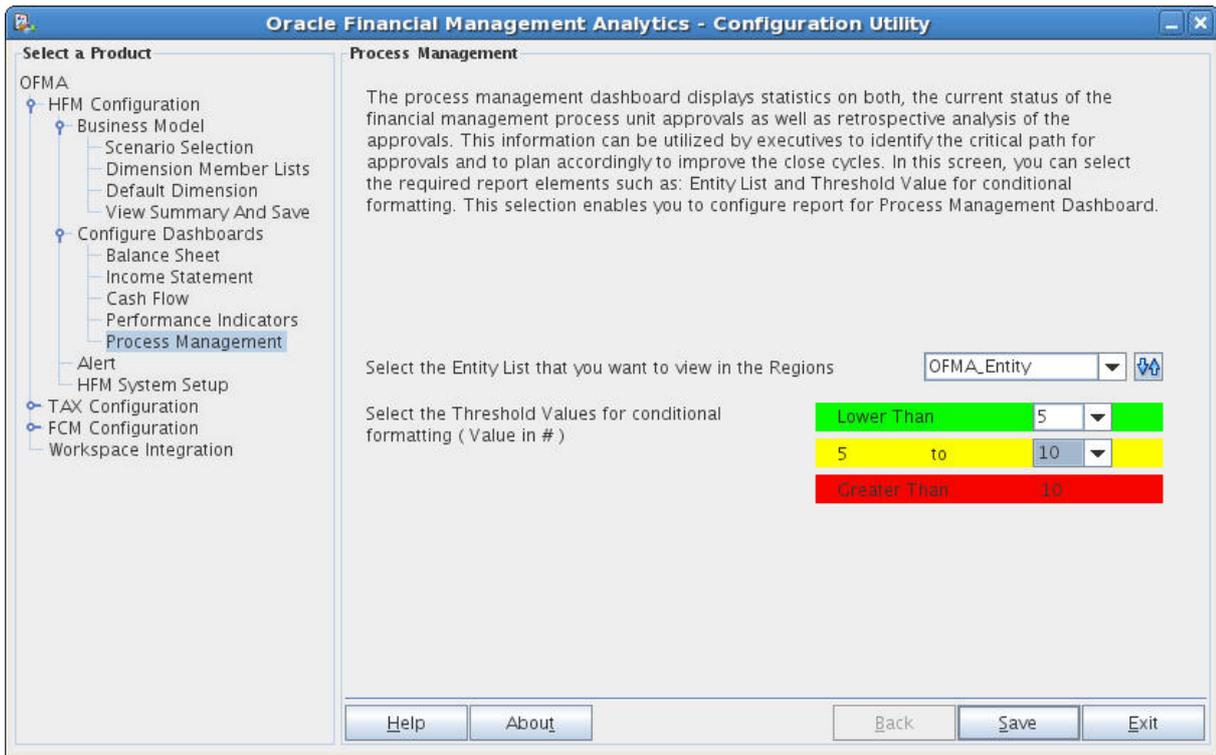
正しい構成の詳細が指定されていることを確認してください。「保存」をクリックする前に、必要に応じて構成設定を変更できます。

プロセス管理の構成

サブトピック

- [エンティティ・リストの選択](#)
- [しきい値の設定](#)

この選択により、プロセス管理のレポートを構成できます。この画面では、エンティティ・リスト、および条件付きフォーマットのしきい値などの必要なレポート要素を選択できます。これらの選択されたレポート要素は、Oracle Financial Management Analyticsのダッシュボードまたはレポートで使用されます。



注意

正しい構成の詳細が指定されていることを確認してください。「保存」をクリックする前に、必要に応じて構成設定を変更できます。

エンティティ・リストの選択

このオプションを使用すると、エンティティ・リストの選択が可能になり、選択されたエンティティ・リストは、プロセス管理ダッシュボードおよびレポート内で使用されます。

▶ 「エンティティ・リスト」を選択するには、次の手順を実行します:

1. ドロップダウンから「エンティティ・リスト」を選択し、 をクリックして、エンティティ・リスト内のメンバーを表示します。

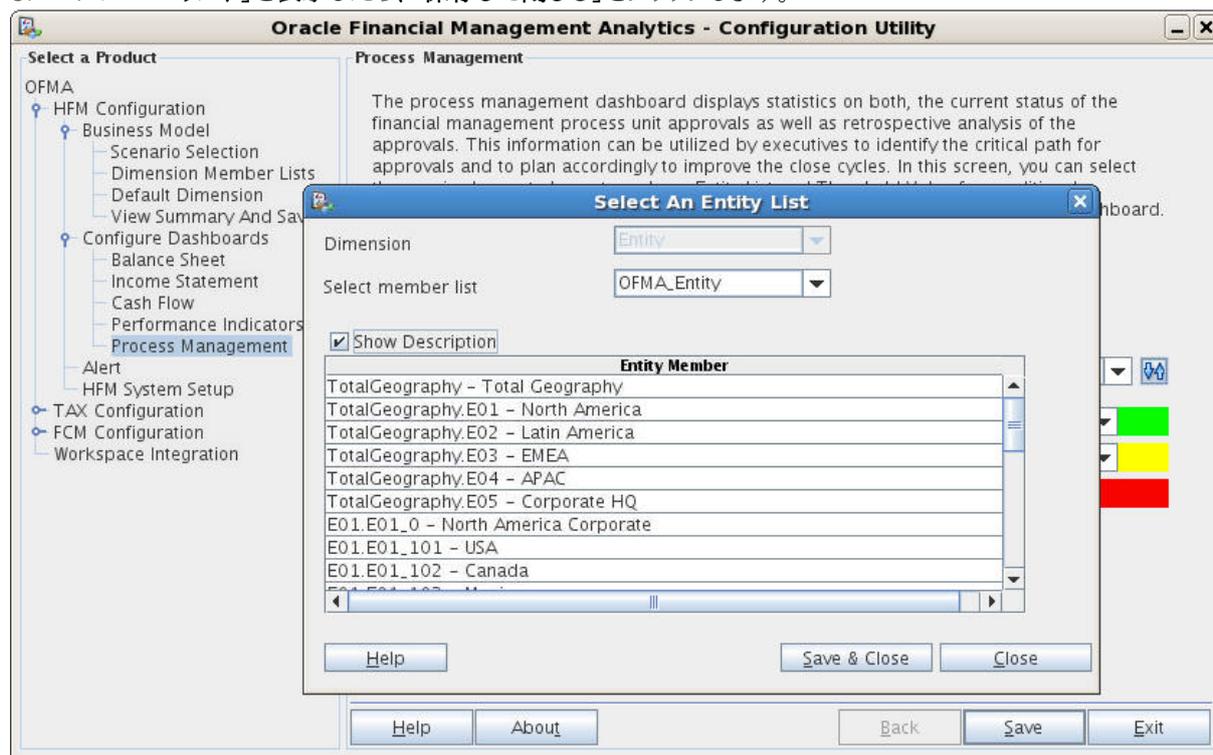


注:

「ビジネス・モデル」画面でエンティティ・リストの番号を作成した場合、構成されたすべてのエンティティ・リストがドロップダウンに表示されます。

2. 「エンティティ・リストの選択」ダイアログ・ボックスで、次の手順を実行します:
 - a. デフォルトでは、「ディメンション」は「エンティティ」に選択されています。
 - b. 「地域」に表示する、必要な「メンバー・リスト」を選択します。
 - c. オプション: 「説明の表示」オプションを選択して、エンティティ・メンバーの詳細な説明を表示します。

3. 「メンバー・リスト」を表示したら、「保存して閉じる」をクリックします。



注:

2回目以降のユーザーとして、既存のエンティティ・リストを変更できます。

しきい値の設定

この項では、差異条件付きフォーマット(#単位の差異)のしきい値の選択が可能になり、選択されたしきい値の範囲は、プロセス管理ダッシュボードの様々なレポートで使用されます。

条件付きフォーマットに対して、特定のしきい値の範囲を特定の色コードに定義できます。条件付きフォーマットに基づいて、しきい値の外観をカスタマイズできます。これらのしきい値は、記号として異なる形式(タイルの色、フラグ、ゲージの円周に沿ってなど)で表されます。詳細は、*Oracle Financial Management Analyticsユーザー・ガイド*を参照してください。

- ▶ 差異条件付きフォーマット(#単位の差異)のしきい値を設定するには、次の手順を実行します:

 1. 緑色の行で値を選択します。差異値が指定された値より小さい場合、これらの値は記号として緑色で表されます。例: 緑のフラグ。
 2. 黄色の行で値を選択します。差異値が指定された値の範囲内である場合、これらの値は記号として黄色で表されます。例: 黄色のフラグ。



注:

赤色の行の値は、黄色の行で選択された値に基づいて自動的に移入されます。

差異値が指定された値より大きい場合、これらの値は記号として赤色で表されます。例: 赤のフラグ。

Select the Threshold Values for conditional formatting (Value in #)

Lower Than	5	▼
5	to	10
Greater Than	10	



注意

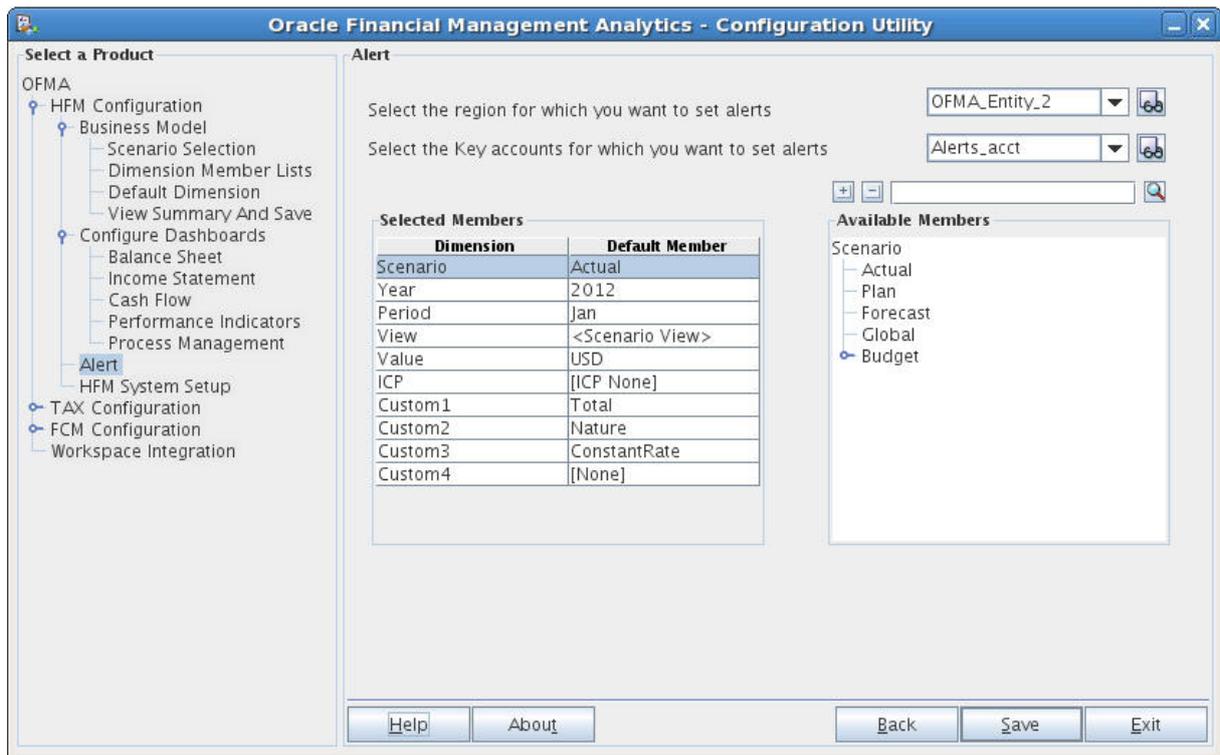
正しい構成の詳細が指定されていることを確認してください。「保存」をクリックする前に、必要に応じて構成設定を変更できます。

アラートの作成

サブトピック

- [アラート用のエンティティ・リストの選択](#)
- [アラート用の勘定科目リストの選択](#)
- [アラート用のPOVディメンション・メンバーの選択](#)

この項では、エンティティ、勘定科目、POVメンバーなどの主要要素のアラートを作成できます。アラートは、勘定科目メンバーごとに適用される論理条件およびしきい値に基づいてトリガーされます。



注:

このリリースでは、電子メール・モードのアラートのみがサポートされます。



注意

正しい構成の詳細が指定されていることを確認してください。「保存」をクリックする前に、必要に応じて構成設定を変更できます。

アラート用のエンティティ・リストの選択

このオプションを使用すると、アラート用のエンティティ・リストを選択できます。

▶ 「エンティティ・リスト」を選択するには、次の手順を実行します:

1. ドロップダウンから「エンティティ・リスト」を選択し、 をクリックして、エンティティ・リスト内のメンバーを表示します。

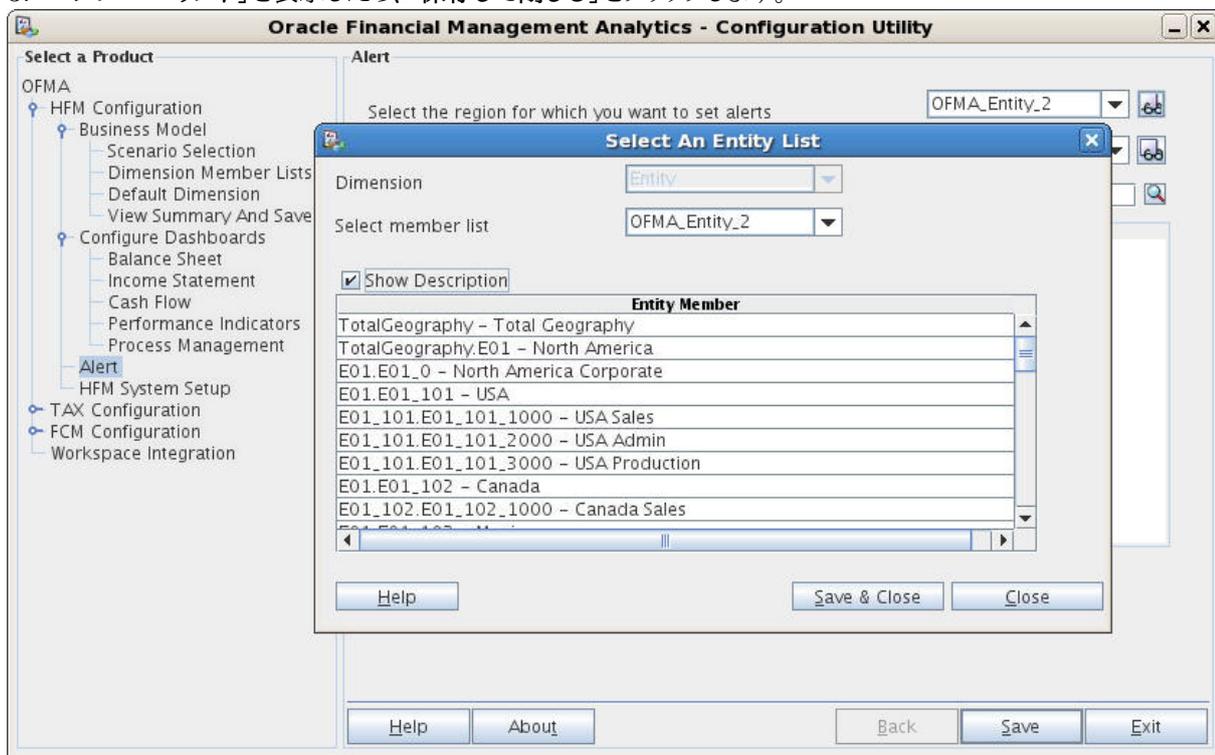


注:

「ビジネス・モデル」画面でエンティティ・リストの番号を作成した場合、構成されたすべてのエンティティ・リストがドロップダウンに表示されます。

2. 「エンティティ・リストの選択」ダイアログ・ボックスで、次の手順を実行します:

- a. デフォルトでは、「ディメンション」は「エンティティ」に選択されています。
 - b. 「地域」に表示する、必要な「メンバー・リスト」を選択します。
 - c. オプション: 「説明の表示」オプションを選択して、エンティティ・メンバーの詳細な説明を表示します。
3. 「メンバー・リスト」を表示したら、「保存して閉じる」をクリックします。



注:

2回目以降のユーザーとして、既存のエンティティ・リストを変更できます。

アラート用の勘定科目リストの選択

このオプションを使用すると、選択された勘定科目リストをモニターするアラート設定に基づいて、アラート用の勘定科目リストを選択できます。

▶ 「勘定科目リスト」を選択するには、次の手順を実行します:

1.

ドロップダウンから「勘定科目リスト」を選択し、をクリックして、勘定科目リスト内のメンバーを表示します。「勘定科目リストの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。

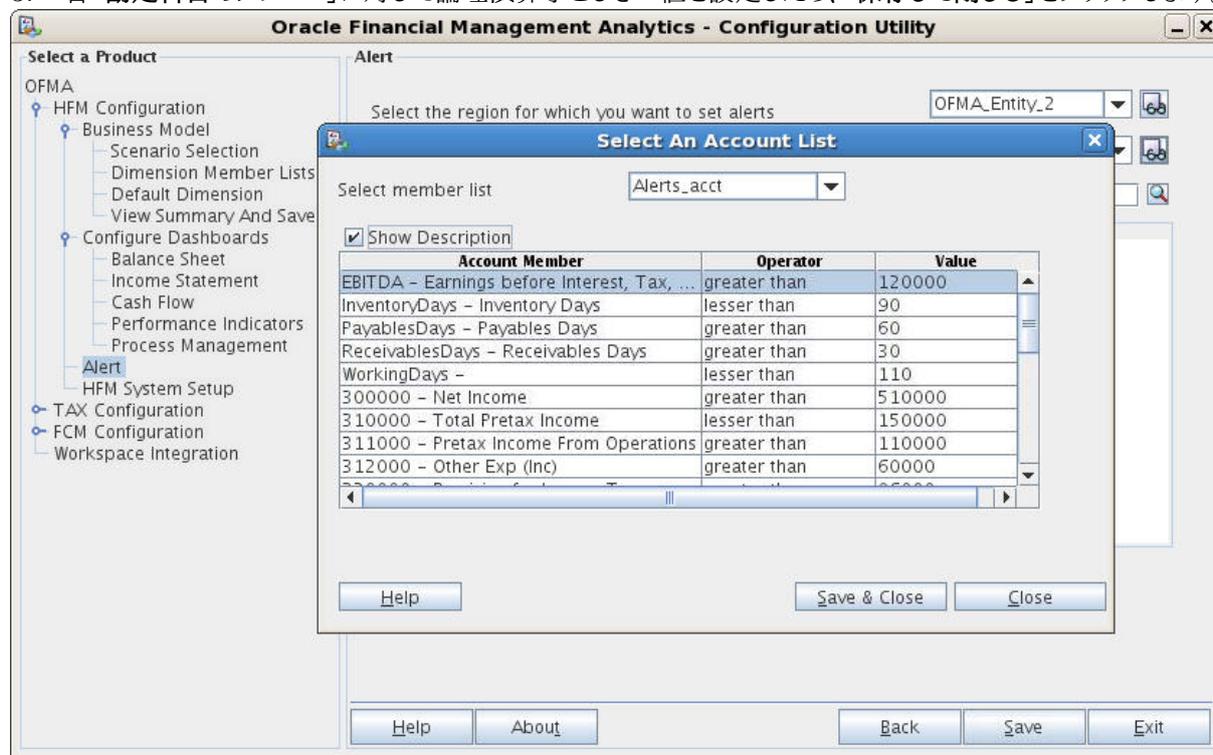


注:

「ビジネス・モデル」画面で勘定科目リストの番号を作成した場合、構成されたすべての勘定科目リストがドロップダウンに表示されます。

2. 「勘定科目リストの選択」ダイアログ・ボックスで、次の手順を実行します:

- a. アラートを設定する、必要な勘定科目メンバー・リストを選択します。
 - b. オプション:「説明の表示」オプションを選択して、勘定科目メンバーの詳細な説明を表示します。
 - c. しきい値を設定する、必要な「演算子」を選択します。
 - d. しきい値を設定する「値」を入力します。
3. 各「勘定科目のメンバー」に対して論理演算子としきい値を設定したら、「保存して閉じる」をクリックします。



注:

正しい構成の詳細が指定されていることを確認してください。「保存して閉じる」をクリックする前に、必要に応じて構成設定を変更できます。



注:

2回目以降のユーザーとして、既存の構成設定を変更できます。

アラート用のPOVディメンション・メンバーの選択

この項では、アラート用のPOVディメンション・メンバーを選択できます。

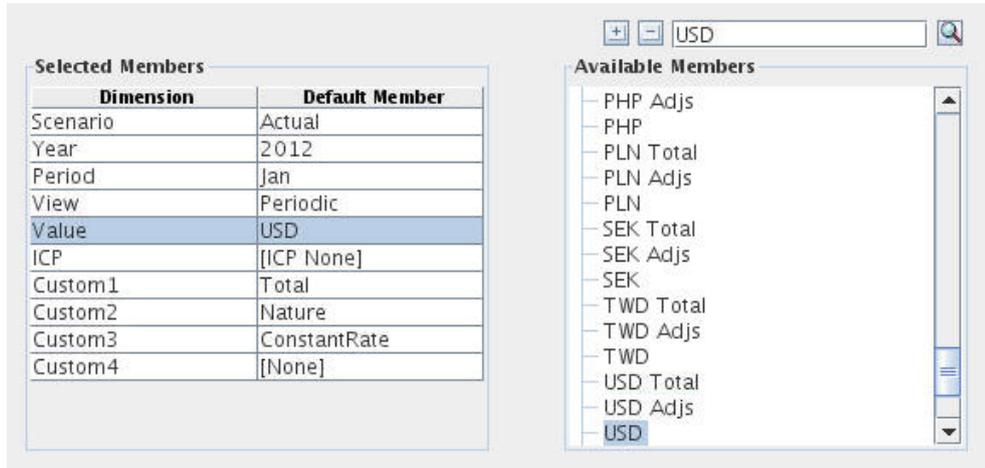
▶ 「POVメンバー」にアラートを設定するには、次の手順を実行します:

1. メンバーをマップする「選択したメンバー」ボックス内のセルを選択し、「使用可能なメンバー」リスト(右側)からディメンション・メンバーを選択します。

例: 「シナリオ」ディメンションの「POVメンバー」セルを選択し、「使用可能なメンバー」リスト(右側)から「実績」ディメンション・メンバーを選択します。

「年」、「期間」、「表示」、「値」、「ICP」および「カスタム・ディメンション」などの各ディメンションについて、前述の手順を実行します。

2. 「保存」をクリックします。



Financial Managementシステム設定の実行

この項では、Financial Managementのシステム設定の構成関連の情報を説明します。

HFMシステム設定の構成中には、次のアクティビティを実行できます：

Oracle BI EEとFinancial Managementを統合するには、次のタスクを実行する必要があります：

- OPMN.xmlファイル・エントリを更新します
- NQSConfig.iniファイル・エントリを更新します

Financial Management Workspace内のOracle Financial Management Analytics (OFMA)を統合するには、「分析」オプションが有効になっている必要があります。このオプションは、EMレジストリのanalyticsEnabledとanalyticsURLの両方のプロパティを設定する際に役立ちます：

- analyticsEnabledオプションをTrueに設定します
- analyticsURLをOFMA Webページに設定します

OFMA.EARファイルがOracle BI EE設定にデプロイされた場所。

例: `http://<AdminServerHost>:<AdminServerPort>/OFMA/faces/hfmAnalytics.jspx`



注：

「分析」オプションを有効化する前に、すべての前提条件を満たしていることを確認する必要があります。103ページのワークスペース統合の構成を参照してください

OFMA構成ユーティリティを使用すると、テスト環境から本番環境へリポジトリやカタログを移動するための様々なサポートが可能になります。



注:

正常に移行するために、マシンにはOBIEEの互換性のあるバージョンをインストールする必要があります。

テスト環境から本番環境への移行アクティビティの実行中には、マシンで次のチェックリストが検証されていることを確認する必要があります:

- ターゲット・マシンにOBIEEがインストールされていること
- Financial Management ADMドライバがインストールおよび構成されていること
- テスト・マシンで問題が発生することなく、既存のRPDおよびカタログが正常に機能すること



注:

RPDの変更は、システム構成の影響を受けません。

Financial Managementのシステム設定の実行

▶ Financial Managementのシステム構成を実行するには、次の手順に従います:

1. 左パネルから、「OFMA構成」ノードを展開し、「HFM構成」を選択して接続の詳細を指定し、「HFMシステム設定」を選択します。
2. 「HFMシステム設定」画面の「BI HFM統合の設定」ボックスで、次に示すFinancial Managementのシステム設定を完了します:

- Hyperion Financial Managementデータ・ソースに接続するOPMN.xmlおよびNQSCONFIG.INIファイルの更新を選択します。

更新されたOPMN.xmlファイルが、次の場所にアップロードされます:

○Windowsの場合: OBIEEがインストールされている場所/instances/<instance name>/config/OPMN/opmn/opmn.xml

○Linuxの場合: OBIEEがインストールされている場所/instances/<instance name>/config/OPMN/opmn/opmn.xml



注:

「HFMシステム設定」画面の「BI HFM統合の設定」で、「OPMN.xmlファイルの構成」の隣に「構成済」というテキストが表示されている場合、OPMN.xmlファイルはそれぞれの場所ですでに構成および更新されており、「実行」をクリックして続行できます。

- HFMワークスペース内のOFMAボックスで、次に示すOracle BI EEの設定を完了します:



注:

「分析」オプションを有効化する前に、すべての前提条件を満たしていることを確認する必要があります。[103ページのワークスペース統合の構成](#)を参照してください

- HFMワークスペース内のOFMAの隣に(無効)というテキストが表示されている場合、「EPMワークスペース内で「Analytics」を有効にしますか?」を選択します

「Analytics」オプションを有効にすると、EPMワークスペース内でHFMアプリケーションのOFMAダッシュボードにアクセスできます。

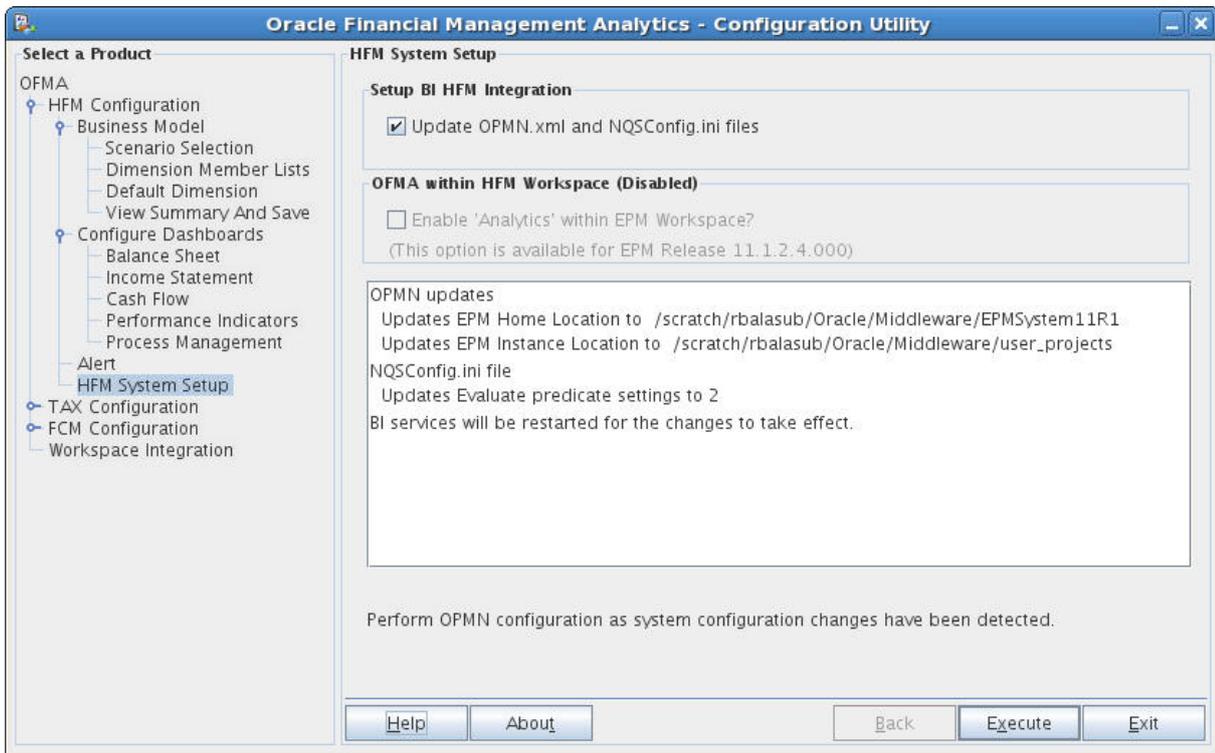
- HFMワークスペース内のOFMAの隣に(有効)というテキストが表示されている場合、「EPMワークスペース内で「Analytics」を無効にしますか?」を選択します

「Analytics」オプションを無効にすると、EPMワークスペース内でHFMアプリケーションのOFMAダッシュボードを表示できません。



注:

このオプションは、EPMリリース11.1.2.4.000以降にのみ適用可能です。



3. 「実行」をクリックして続行します。

9

Tax Provisionの構成

この項の内容:

ダッシュボードの構成	90
Tax Provisionシステム設定の実行	96

この章では、Tax Provisionの製品構成を実行できます。構成ユーティリティを使用すると、ダッシュボード・プロンプトおよびレポート内に表示するために必要なTax Provisionメタデータを定義できます。構成ユーティリティを使用してTaxアプリケーションに接続できますが、メタデータ情報のみを抽出できるように、Financial Managementサーバーの詳細を指定する必要があります。

「TAX構成」セクションは次の2つの部分に分かれています:

- ダッシュボードの構成
- Taxシステム設定

▶ Tax構成を設定するには、次の手順に従います:

1. 「**TAX構成**」画面で、次の手順に従います:

Tax構成の詳細で、必要なオプションを選択します:

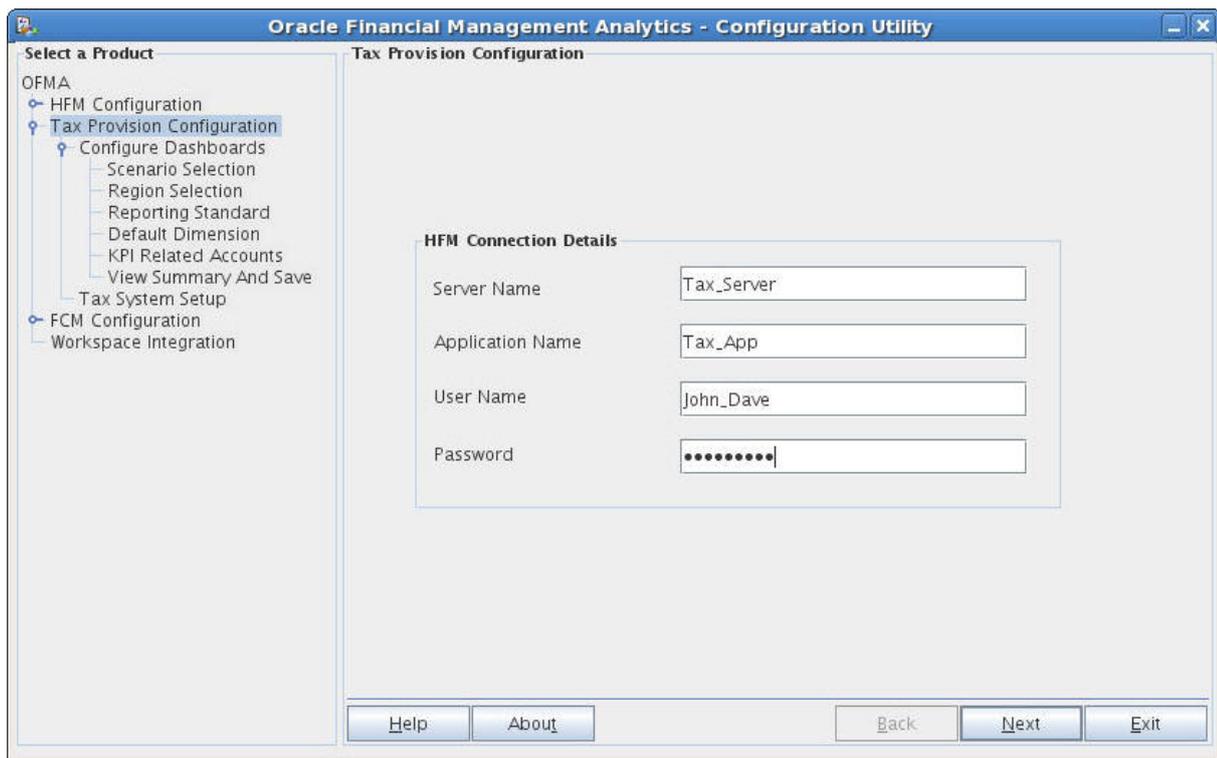
- クラスタ名、またはTaxアプリケーションが存在するサーバー名を入力します。



注:

誤ったアプリケーション名を指定すると、次の検証メッセージが表示されます: これはTax構成に対して有効なアプリケーションではありません。有効なアプリケーション詳細を指定する必要があります。

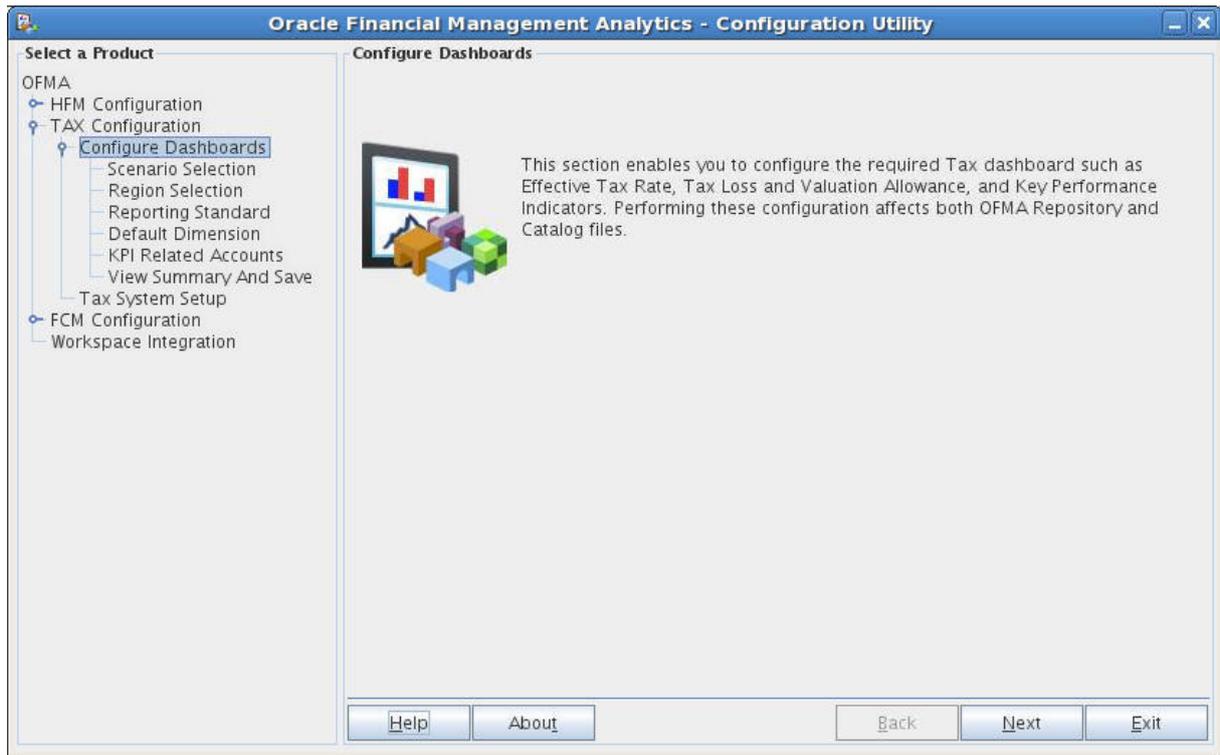
- Oracle Financial Management Analyticsとともに使用するTaxアプリケーションの**アプリケーション名**を入力します。
 - Taxアプリケーションに関連付けられている**ユーザー名**と**パスワード**を入力します。このユーザーがTaxのデータにアクセスするには、適切な権限と役割が必要です。
2. 「次」をクリックします。



ダッシュボードの構成

この項では、「有効税率」、「課税損失および評価引当金」および「キー・パフォーマンス・インディケータ」などの必要な税ダッシュボードの構成が可能になります。これらの構成を実行すると、Oracle Financial Management Analytics (OFMA)のリポジトリ・ファイルとカタログ・ファイルの両方に影響を及ぼします。

- ▶ 「ダッシュボードの構成」画面で情報を確認し、「次へ」をクリックします。

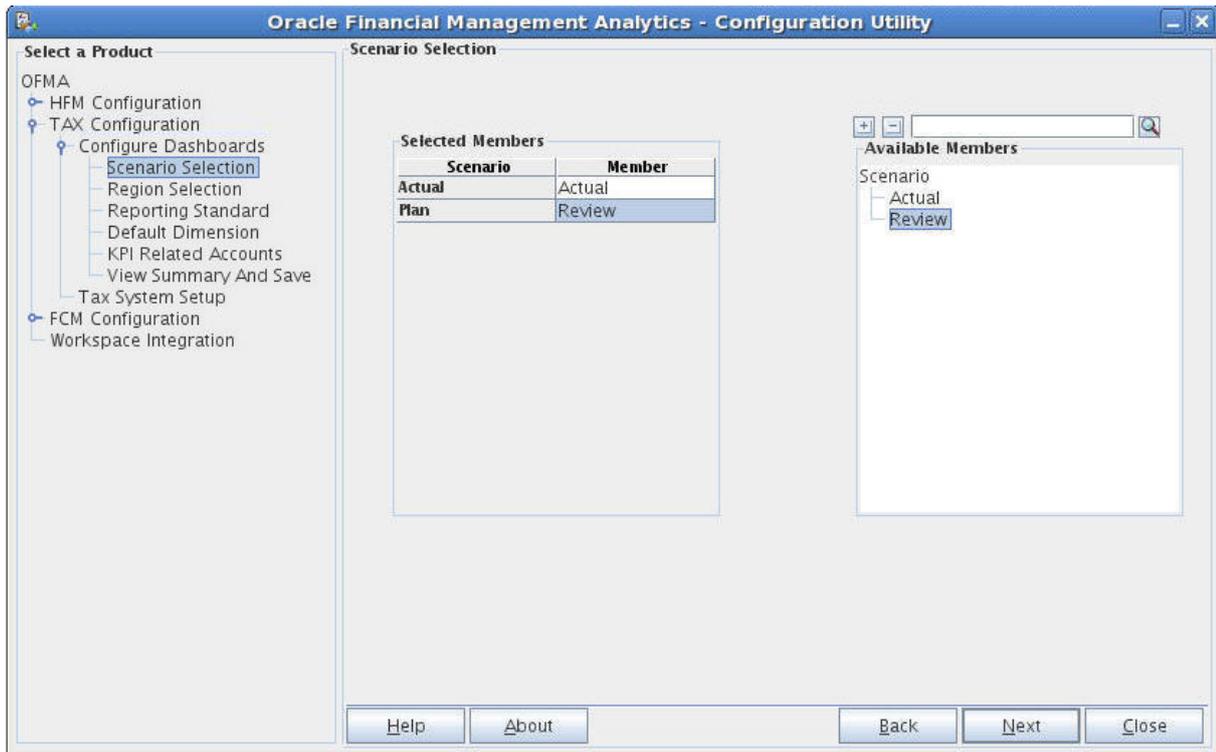


「シナリオの選択」の実行

この項では、税ダッシュボードで使用される、必要なシナリオ・メンバーを選択できます。

▶ 「シナリオの選択」でメンバーをマップするには、次の手順を実行します：

1. メンバーをマップする「**選択したメンバー**」ボックス内のセルを選択するか強調表示し、「**使用可能なメンバー**」から必要なシナリオ・メンバーを選択します。
2. 同様に、シナリオ・メンバーごとに上の手順を実行し、「**次へ**」をクリックします。



注:

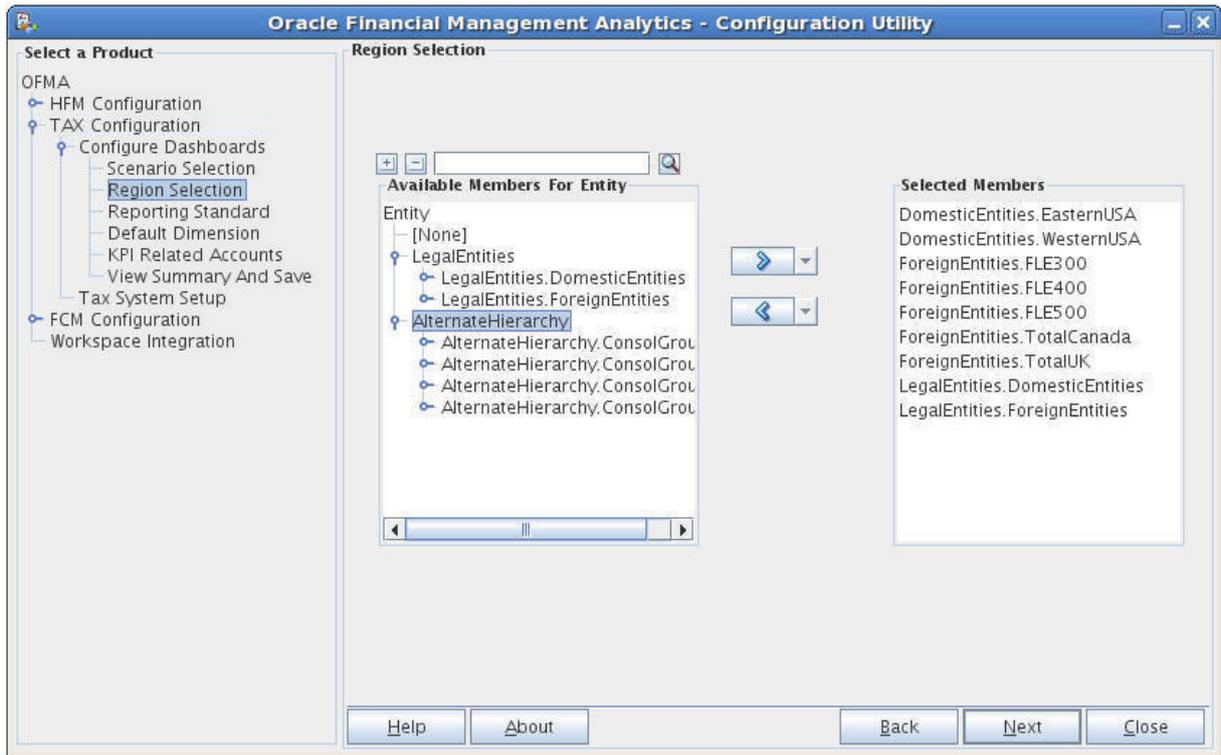
シナリオの選択は相互に排他的であるため、慎重に行う必要があります。

「地域の選択」の選択

この項では、税ダッシュボードに表示する、必要な地域を選択できます。

▶ 税ダッシュボードの地域を選択するには、次の手順を実行します:

1. ダッシュボードに表示する、必要な地域を選択し、矢印ボタンを使用して、エンティティに使用可能なメンバーから「選択したメンバー」に必要な地域を移動します。
2. 「次」をクリックします



注:

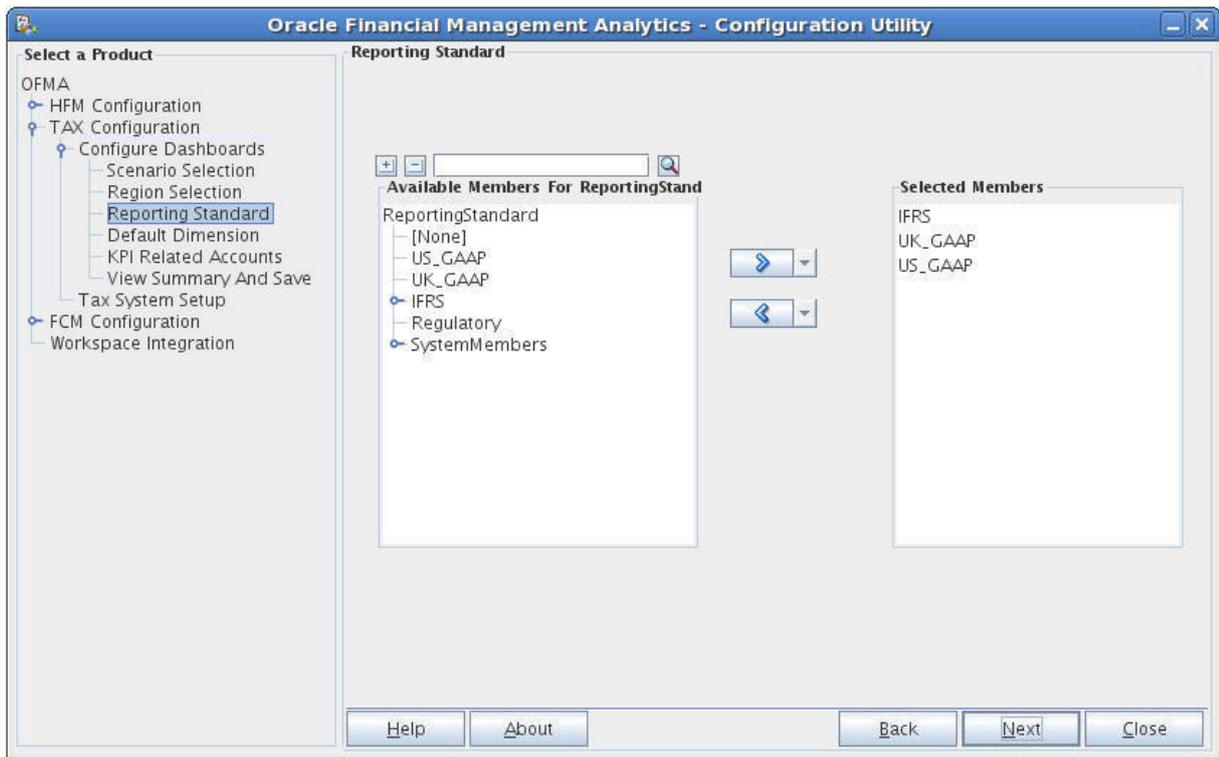
最大10の地域を選択できます。

レポート標準の選択

この項では、税ダッシュボードに表示する、必要なレポート標準を選択できます。

▶ 税ダッシュボードのレポート標準を選択するには、次の手順を実行します:

1. ダッシュボードに表示する、必要なレポート標準を選択し、矢印ボタンを使用して、レポート標準に使用可能なメンバーから「選択したメンバー」に必要なレポート標準を移動します。
2. 「次」をクリックします。



デフォルト・ディメンションの実行

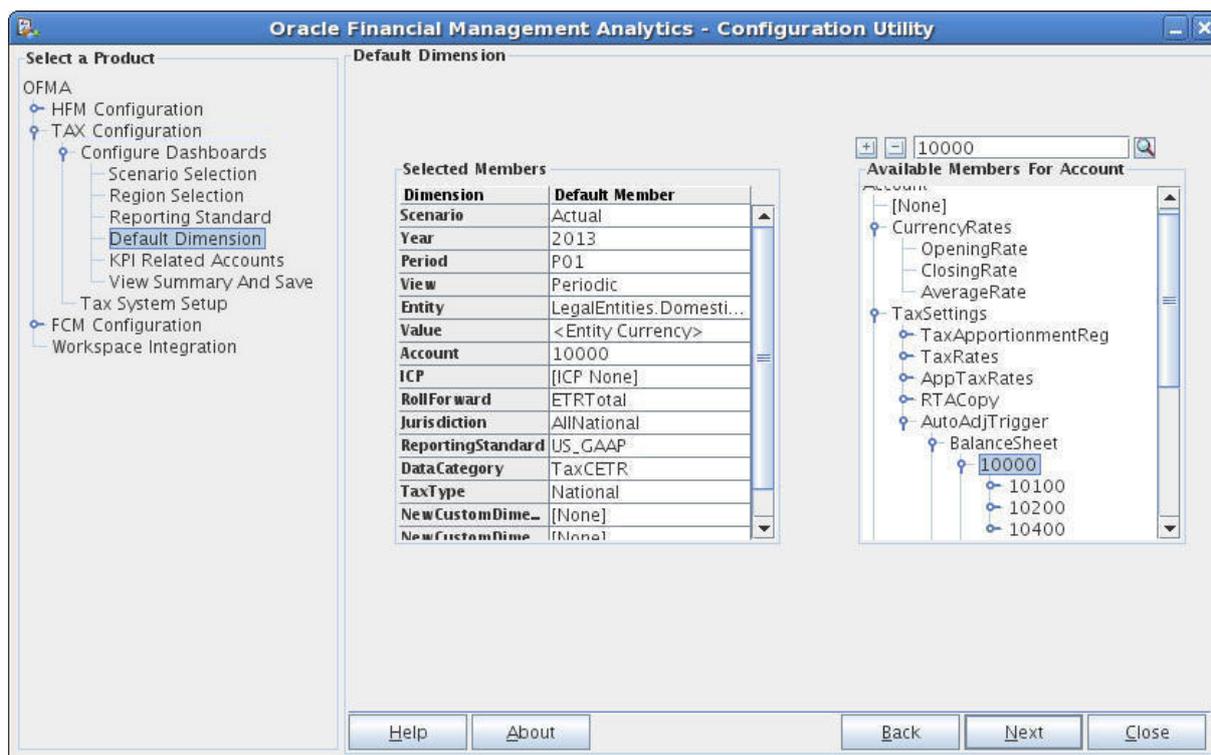
この項では、「デフォルト・ディメンション」選択の実行が可能になり、選択したディメンション・リストは、ダッシュボードのデフォルトの視点(POV)として設定されます。

▶ 「デフォルト・ディメンション」画面をマップするには、次の手順を実行します:

1. メンバーをマップする「**選択したメンバー**」ボックス内のセルを選択し、「**使用可能なメンバー**」リスト(右側)からディメンション・メンバーを選択します。

例: 「シナリオ」ディメンションの「**デフォルト・メンバー**」セルを選択し、「**使用可能なメンバー**」リスト(右側)から「**実績**」ディメンション・メンバーを選択します。

2. 「年」、「期間」、「表示」、「エンティティ」、「値」、「勘定科目」、「ICP」、「**RollForward**」、「**Jurisdiction**」、「**ReportingStandard**」、「**DataCategory**」および**TaxType**などの各ディメンションについて、前述の手順を実行します。
3. 「次」をクリックします。

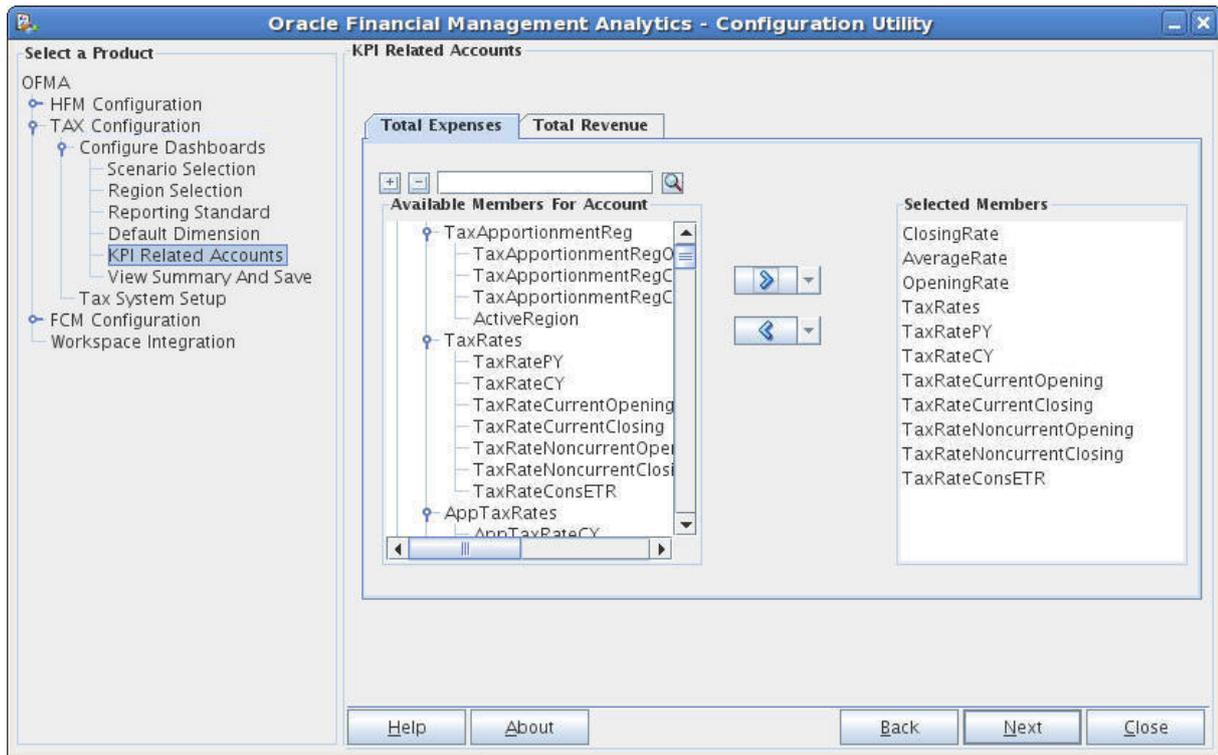


KPI関連勘定科目の選択

この項では、税ダッシュボードに表示されるKPI関連勘定科目を実行できます。

➤ 税ダッシュボードのKPI関連勘定科目を選択するには、次の手順を実行します：

1. 「支出合計」タブを選択し、「使用可能なメンバー」リストから必要な勘定科目メンバーを選択して、「選択したメンバー」ボックスに必要な勘定科目を移動します。
2. 「収益合計」タブを選択し、「使用可能なメンバー」リストから必要な勘定科目メンバーを選択して、「選択したメンバー」ボックスに必要な勘定科目を移動し、「次」をクリックします。



Tax Provisionの「要約」画面の表示

Tax Provisionの「要約」画面には、Financial Managementの構成の詳細、および構成ユーティリティを使用して行われた選択の内容が表示されます。

- ▶ Tax Provisionの構成の詳細の要約を確認したら、「保存」をクリックします。



注:

正しい構成の詳細が指定されていることを確認してください。「保存」をクリックする前に、必要に応じて構成設定を変更できます。

Tax Provisionシステム設定の実行

この項では、Tax Provisionのシステム設定の構成関連の情報を説明します。

Taxシステム設定の構成中には、次のアクティビティを実行できます:

Oracle BI EEとOracle Hyperion Tax Provisionを統合するには、次のタスクを実行する必要があります:

- OPMN.xmlファイル・エントリを更新します
- NQSConfig.iniファイル・エントリを更新します

OFMA構成ユーティリティを使用すると、テスト環境から本番環境へリポジトリやカタログを移動するための様々なサポートが可能になります。



注:

正常に移行するために、マシンにはOBIEEの互換性のあるバージョンをインストールする必要があります。

テスト環境から本番環境への移行アクティビティの実行中には、マシンで次のチェックリストが検証されていることを確認する必要があります。

- ターゲット・マシンにOBIEEがインストールされていること
- Financial Management ADMドライバがインストールおよび構成されていること
- テスト・マシンで問題が発生することなく、既存のRPDおよびカタログが正常に機能すること



注:

RPDの変更は、システム構成の影響を受けません。



注:

Financial Managementのシステム設定を構成した場合は、次の手順はオプションです。

Tax Provisionのシステム設定の実行

▶ Tax Provisionのシステム構成を実行するには、次の手順に従います:

1. 左パネルから、「**OFMA構成**」ノードを展開し、「**TAX構成**」、「**Taxシステム設定**」の順に選択します。
2. 「**Taxシステム設定**」画面の「**BI HFM統合の設定**」ボックスで、次に示すFinancial Managementのシステム設定を完了します:
 - Taxデータ・ソースに接続する**OPMN.xml**および**NQSCConfig.ini**ファイルの更新を選択します。

更新されたOPMN.xmlファイルが、次の場所にアップロードされます:

○**Windows**の場合: OBIEEがインストールされている場所/instances/<instance name>/config/OPMN/opmn/opmn.xml

○**Linux**の場合: OBIEEがインストールされている場所/instances/<instance name>/config/OPMN/opmn/opmn.xml



注:

「**Taxシステム設定**」画面の「**BI HFM統合の設定**」で、「**OPMN.xmlファイルの構成**」の隣に「**構成済**」というテキストが表示されている場合、OPMN.xmlファイルはそれぞれの場所ですでに構成および更新されており、「**実行**」をクリックして続行できます。

- **HFMワークスペース内のOFMA**ボックスで、次に示すOracle BI EEの設定を完了します:

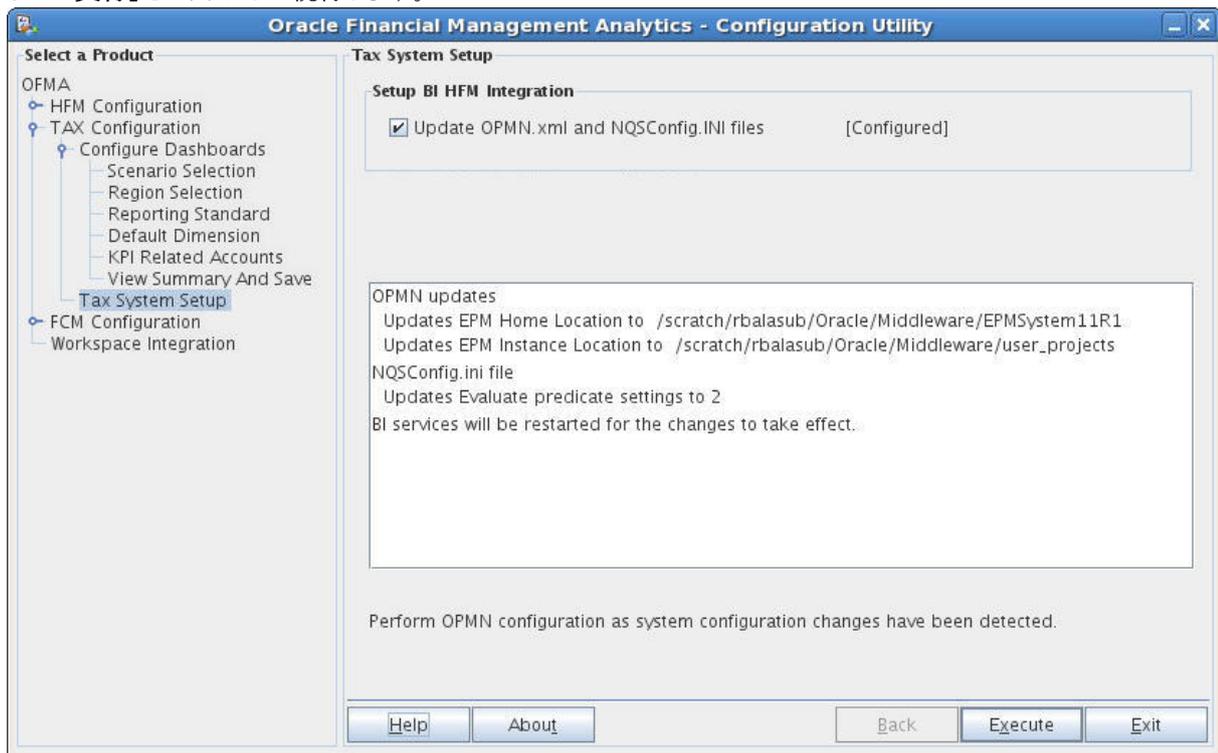
- HFMワークスペース内のOFMAの隣に(無効)というテキストが表示されている場合、「EPMワークスペース内で「Analytics」を有効にしますか?」を選択します

「Analytics」オプションを有効にすると、EPMワークスペース内でHFMアプリケーションのOFMAダッシュボードにアクセスできます。

- HFMワークスペース内のOFMAの隣に(有効)というテキストが表示されている場合、「EPMワークスペース内で「Analytics」を無効にしますか?」を選択します

「Analytics」オプションを無効にすると、EPMワークスペース内でHFMアプリケーションのOFMAダッシュボードを表示できません。

3. 「実行」をクリックして続行します。



10

Financial Close Managementの構成

この項の内容:

モジュールの構成	100
Financial Close Managementの「要約」画面の表示	101

構成ユーティリティを使用すると、ダッシュボード・プロンプトおよびレポートで表示するために必要なFinancial Close Managementメタデータを定義できます。

▶ Financial Close Managementを構成するには:

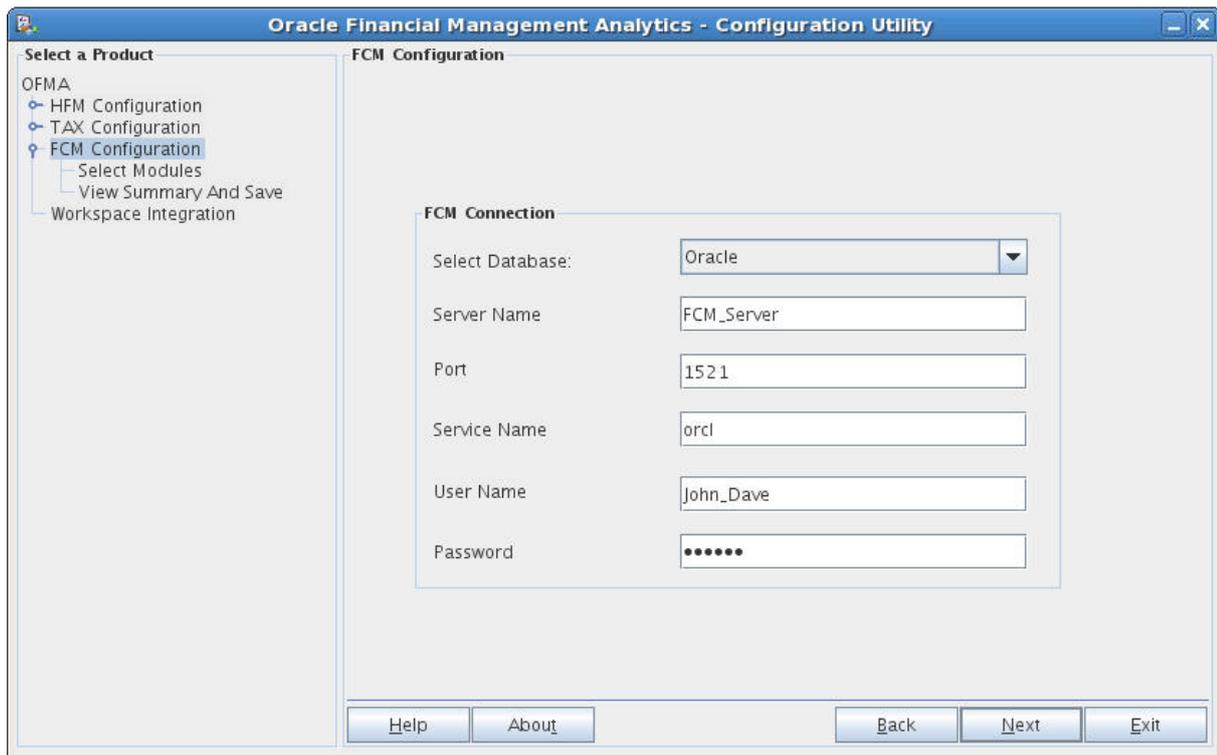
1. 「システム設定」で、次を行います:

- 「データベースの選択」から、「**Oracle**」または**MS SQL**を選択します。

たとえば、Oracleデータベースを使用する場合は、次のようになります:

- 「サーバー名」に、Financial Close Managementが実行されているFinancial Close Managementデータベース・サーバー名を入力します。
- 「ポート」に、ポート番号を入力します。
- 「サービス名」に、データベースに接続する際に使用する一意の名前または別名を入力します。
- 「ユーザー名」に、書込み権限のあるFinancial Close Managementデータベース・スキーマのデータベース・ユーザー名を入力します。
- 「パスワード」に、Financial Close Managementデータベース・サーバーのデータベース・パスワードを入力します。

2. 「次へ」をクリックして、データベース接続を確認します。



モジュールの構成

この項では、Financial Close Managementダッシュボードに表示されるモジュール(Close ManagerやAccount Reconciliation Managerなど)を構成できます。

▶ モジュールを構成するには:

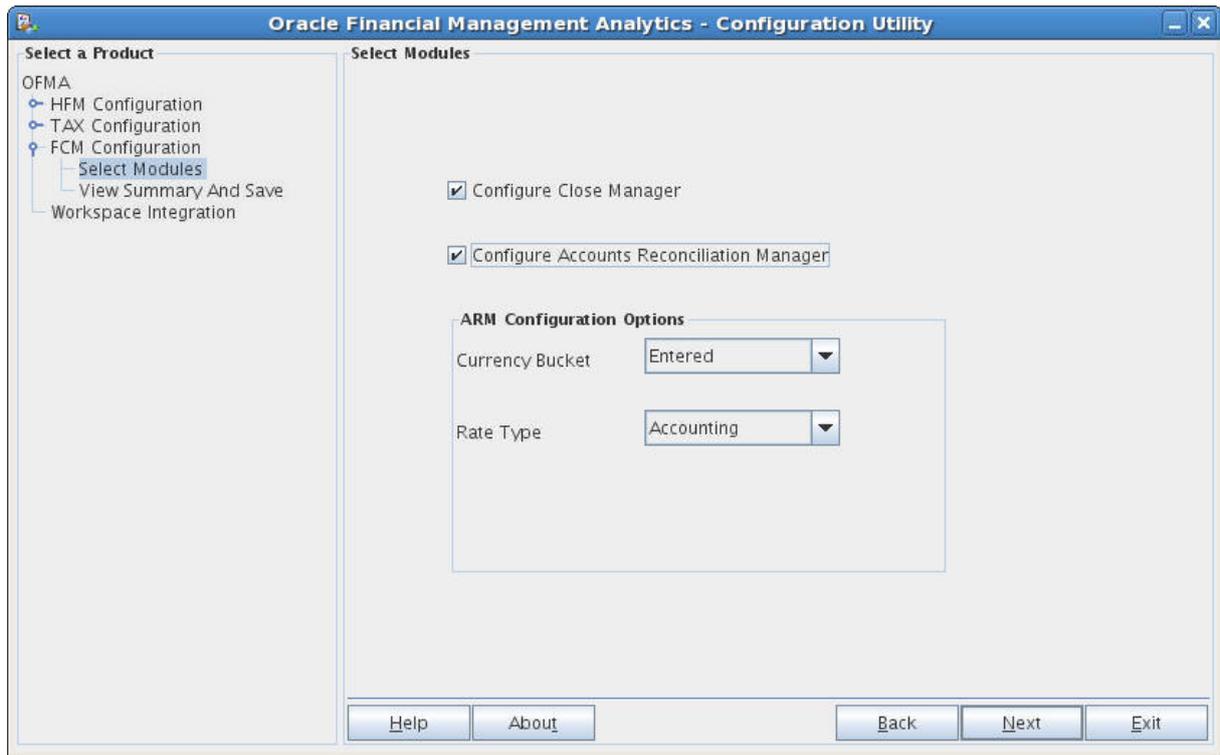
1. データベース構成に関連付けるモジュールを選択します。
2. オプション: 「**Close Managerの構成**」モジュールを選択します。
3. オプション: 「**ARM構成オプション**」で、「**Account Reconciliation Managerの構成**」モジュールを選択した場合:
 - a. 必要な通貨バケットを選択します。
 - b. 必要なレート・タイプを選択します。



注:

Account Reconciliation Managerモジュールで単一通貨がサポートされている場合、「通貨バケット」および「レート・タイプ」オプションは無効になっています。

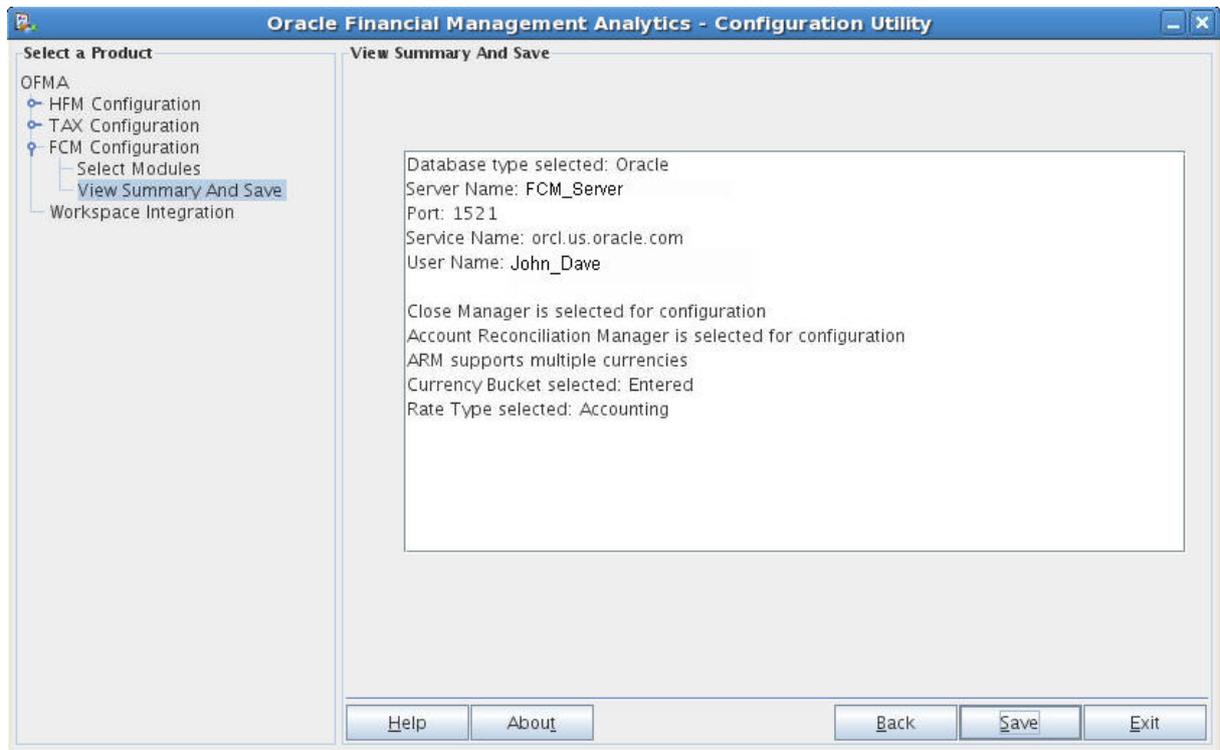
4. 「次」をクリックします。



Financial Close Managementの「要約」画面の表示

Financial Close Managementの「要約」画面には、Oracle Hyperion Financial Close Managementの構成の詳細、および構成ユーティリティを使用して行われた選択の内容が表示されます。

- ▶ Financial Close Managementの構成の詳細の要約を確認したら、「保存」をクリックします。





注意

正しい構成の詳細が指定されていることを確認してください。「保存」をクリックする前に、必要に応じて構成設定を変更できます。

11

EPM System Workspace 内のOracle Financial Management Analyticsの統合

この項の内容:

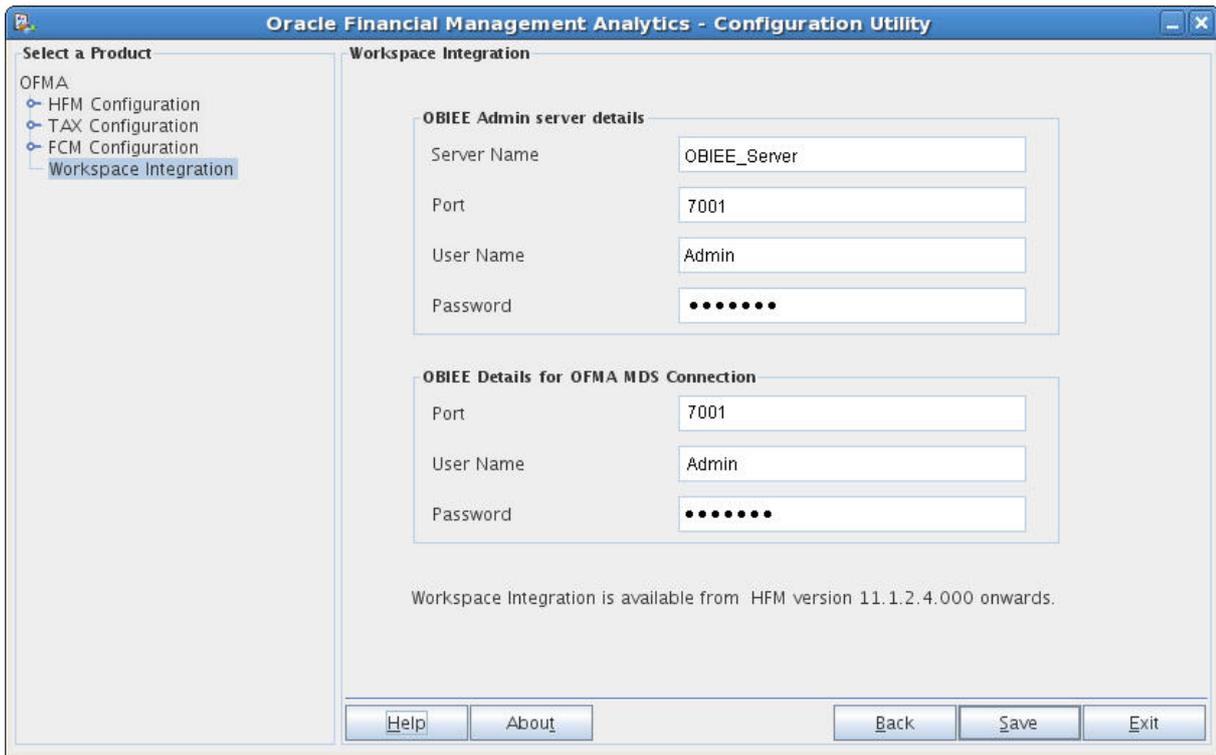
ワークスペース統合の構成 103

この章では、Oracle Enterprise Performance Management Systemワークスペース内でのOracle Financial Management Analyticsの統合に必要な設定を構成するための詳細情報について説明します。構成ユーティリティを使用すると、Oracle BI EEがインストールされ実行中のサーバー上のOracle Financial Management Analytics Webアプリケーションに接続し、デプロイすることが可能です。

ワークスペース統合の構成

▶ ワークスペース統合を構成するには:

1. 「**OBIEE管理サーバーの詳細**」で、次のOracle BI EEの設定を完了して、使用されるアプリケーション・サーバー(WebLogicなど)にOFMA.EARファイルをデプロイします。
 - 「サーバー名」に、Oracle BI EE管理サーバーをホストするコンピュータの名前を入力します。
 - 「ポート」に、Oracle BI EE管理サーバーのポート番号を入力します。たとえば、7001などです
 - 「ユーザー名」に、管理者ユーザーの名前を入力します。
 - 「パスワード」に、管理者パスワードを入力します。
2. **OFMAのOBIEE接続の詳細**で、次のOracle BI EEの設定を完了して、MetadataStore (MDS)をアプリケーション・サーバーに構成します。
 - 「ポート」に、Oracle BI EEサーバーのポート番号を入力します。たとえば、7001などです
 - 「ユーザー名」に、ユーザー名を入力します。
 - 「パスワード」にパスワードを入力します。



12

BIサーバーへのカタログおよびリポジトリのアップロード

この項では、カタログおよびリポジトリをBIサーバーにアップロードする方法の詳細を説明します。次のカテゴリに基づき、カタログまたはRPDファイルをBIサーバーにアップロードする必要があります：

- 構成ユーティリティの設定の変更後、および構成の変更の保存後
- RPDまたはカタログ・ファイルの変更中

ファイルをアップロードしたら、Oracle Financial Management Analyticsダッシュボードで変更を表示できます。

▶ BIサーバーにカタログおよびリポジトリをアップロードするには：

1. `http://server name:port number/em`に移動して、Enterprise Managerを開きます。
2. Oracle Enterprise Managerの左ペインで、「**Business Intelligence**」、インスタンス名の順に選択します；たとえば、**coreapplication**です。
3. チャンジ・センターの左ペインで、ロックして編集をクリックします。
4. 右ペインで、「デプロイメント」、「リポジトリ」の順に選択して、BIサーバーのリポジトリ情報を表示します。

新規RPDおよびそのパスワードをBIサーバー・ドメインにアップロードするセクション。

5. **BIサーバー・リポジトリのアップロード**で、新規RPDファイルおよびそのパスワードをBIサーバー・ドメインにアップロードします。
 - a. 「リポジトリ・ファイル」で「参照」をクリックして、アップロードするリポジトリ・ファイルの場所を選択します。
 - b. 「リポジトリのパスワード」に、リポジトリ・ファイルのパスワードを入力します。
 - c. 「パスワードの確認」に、リポジトリのパスワードを再入力します。
6. **BIプレゼンテーション・カタログ**に、プレゼンテーション・サービスで使用されたカタログの場所を指定します。

「カタログの場所」に、OFMAカタログの場所を入力します。例: `C:/OFMAHome_1/OFMA/FinancialManagementAnalytics`

7. 「適用」をクリックし、**変更のアクティブ化**を選択します。

「変更のアクティブ化 - 正常に完了」というメッセージが表示されます。



注：

BIシステム・コンポーネントを再起動する必要があります。

13

Oracle Financial Management Analyticsの起動

インストールおよび構成の後、Oracle Financial Management AnalyticsにはOracle BI EEからアクセスします。

▶ Oracle Financial Management Analyticsにアクセスするには:

1. ブラウザにOracle BI EEのURLを入力します。

URLの形式は次のとおりです: `http://server name:port number/analytics`

- `server name`は、Oracle BI EEサーバーをホストするコンピュータの名前です。
 - `port number`は、Oracle BI EEサーバーのポート番号です。
 - `analytics`は、Oracle BI EEサーバー上のOracle Financial Management Analyticsに設定された仮想ディレクトリです。
2. Oracle BI EEのサインイン画面で、Financial Management管理者のユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーには、Oracle Hyperion Financial ManagementとOracle BI EEの両方の必須権限が付与されている必要があります。



注:

ユーザー名とパスワードは大/小文字が区別されます。

3. オプション: ダッシュボードの表示に使用する言語を選択します。

デフォルト言語は英語です。

4. 「サインイン」をクリックします。

ダッシュボードの詳細は、*Oracle Financial Management Analyticsユーザーガイド*を参照してください。

14

ヒントとトラブルシューティング

この項の内容:

一般的なFAQ	109
LinuxにおけるOFMAインストールのトラブルシューティングのヒント	111

この章では、Oracle Financial Management Analytics製品のインストールおよび構成中に発生するいくつかの一般的なエラーに関する汎用情報を説明します。

一般的なFAQ

次の表では、一般的なFAQに回答しています。

表7 ヒントとトラブルシューティング情報

	一般的なFAQ
質問	OFMAのダッシュボードで、次のようなエラー・メッセージが表示されました: 構成済の許容されている出力プロンプト、セクション、行または列の最大数を超過しました。何が間違っている可能性がありますか?
回答	<p>instanceconfig.xmlファイルに移動して、事前定義済の値を追加または変更してください。事前定義済の値を変更した後、OPMNサービスを再開する必要があります。Oracle Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Editionシステム管理者ガイド11gリリース11.1.1.7のビュー内のデータの表示と処理の構成に関する項を参照してください</p> <p>instanceconfig.xmlの値に基づき、ダッシュボードでデータとメタデータを表示できます。事前定義済の値は、instanceconfig.xmlファイルに格納されます。たとえば、xmlタグを表示できます:</p> <pre><DefaultRowsDisplayedInDelivery>75</DefaultRowsDisplayedInDelivery> <DefaultRowsDisplayedInDownload>2500</DefaultRowsDisplayedInDownload></pre> <p>この構成設定は、Oracle Enterprise Manager Fusion Middleware Controlによって管理されます。制限を超え</p>

	一般的なFAQ
	ると、次のエラーが返されます: 構成済の許容されている出力プロンプト、セクション、行または列の最大数を超えました。
質問	Close Manager と Account Reconciliation Manager が異なるデータベース上に構成されている環境において、 ARM ダッシュボードでエラーが発生します。何が間違っている可能性がありますか?
回答	Close ManagerとAccount Reconciliation Managerは、同じデータベースに構成する必要があります。
質問	Oracle データベースと Oracle BI EE を同じマシンにインストールしました。 OFMA 構成ユーティリティを実行すると、 FCM ダッシュボードでエラーが発生します。何が間違っている可能性がありますか?
回答	回避策として、 TNS_ADMIN 環境変数を指す tnsnames.ora ファイルを更新してください。次の場所にある tnsnames.ora から OFMA_FCM のセクションをコピーします: OBIEE_HOME/network/admin/tnsnames.ora (TNS_ADMIN 環境変数の tnsnames.ora へのパス)。
質問	OFMA のインストール中にエラーが発生します。何が間違っている可能性がありますか?
回答	OFMA のインストーラにより、ターゲット・マシンの Oracle BI EE のバージョンが確認されます。システム要件を満たしていない場合は、インストールでエラーが発生し、完了できません。参照: 26ページのソフトウェアの前提条件 。
質問	ダッシュボードに反映されないメタデータがあります。何が間違っている可能性がありますか?
回答	<ul style="list-style-type: none"> • キャッシュ・マネージャまたはEnterprise Managerを使用してキャッシュを削除する必要があります。 • ダッシュボードにメタデータの変更が反映されない場合が多々あります。これは通常、構成ユーティリティを使用して再構成している場合に発生します。
質問	Financial Managementのダッシュボードで、レポートやグラフが英語以外のロケールで表示されない場合は、何が間違っている可能性がありますか?
回答	構成ユーティリティを使用して OFMA の構成を完了した後で、次の手順を実行します。> Oracle Financial Management Analytics RPDで外部名を変更するには: <ul style="list-style-type: none"> • Oracle BI EEの管理ツールを使用して、OFMAがインストールされているディレクトリにあるFinanacilaManagementAnalytics.rpdを開きます。

	一般的なFAQ
	<ul style="list-style-type: none"> リポジトリ・ファイルの物理レイヤーで「HFM」ノードを展開し、HFMアプリケーションをダブルクリックします。 「外部名」の下にある「一般」タブで、ローカライズされた名前ではなく、英語でHFMアプリケーション名を入力し、「OK」をクリックしてリポジトリを保存します。 構成ユーティリティを使用して、BIサーバーにRPDをアップロードします。

LinuxにおけるOFMAインストールのトラブルシューティングのヒント

この項では、Oracle Financial Management Analyticsのインストール時に発生する可能性のある一般的な問題の解決方法を示します。

中央インベントリ・ファイルの作成

Oracle BI EEなどのOracle製品をインストールし、LinuxマシンへのOracle Financial Management Analyticsのインストールを試行する場合、中央インベントリ(oraInventory)を作成するには、次の手順を実行する必要があります。Oracle BI EEのインストール時に作成されたoraInst.locファイルを探します。oraInst.locファイルは、/scratch/user id/oraInventoryにあります。

- ▶ Linux環境で中央インベントリ・ファイルを作成するには:
1. LinuxマシンにOracle Financial Management Analyticsをインストールする前に、rootユーザーとしてシステムにログインし、次の場所: /scratch/user id/oraInventoryに移動して、bash createCentralInventory.shを実行します。
 2. createCentralInventory.shを実行したら、次の場所でoraInst.locを探します: /scratch/user id/oraInventory。



注:

/scratch/user id/oraInventoryにoraInst.locがない場合は、次の手順を実行してください:

```
cp oraInst.loc /etc
```

```
chmod 775 oraInventory
```

```
chmod 755 /etc
```

```
chmod 644 /etc/oraInst.loc
```

- ▶ 中央インベントリ・ファイルを作成せずに、Linux環境にOFMAをインストールするには:
1. Oracle Software Delivery Cloud (<https://edelivery.oracle.com/>)からOFMAのインストーラ・ファイルをダウンロードします。

2. 新しいターミナルを開き、次の場所にディレクトリを変更します: OFMAのインストーラを解凍した場所/Disk1/install
3. 次のコマンドを実行します: `./runInstaller.sh -invPtrLoc LOCATION_OF_oraInst.loc`



注:

LOCATION_OF_oraInst.locは、OBIEEによりインベントリ・ポインタ・ファイルが作成される場所で、OBIEE HOME LOCATIONにあります

▶ 中央インベントリ・ファイルを作成せずに、Linux環境でOFMAをアンインストールするには:

1. 新しいターミナルを開き、次の場所にディレクトリを変更します: OFMAがインストールされている場所/OFMAHome_1/oui/bin。
2. 次のコマンドを実行します: `./runInstaller.sh -invPtrLoc LOCATION_OF_oraInst.loc`



注:

LOCATION_OF_oraInst.locは、OBIEEによりインベントリ・ポインタ・ファイルが作成される場所で、OBIEE HOME LOCATIONにあります

インストール・フォルダへの権限の付与

次の場所: OFMAのインストーラを解凍した場所/Disk1/installからrunInstaller.shファイルを実行した後、「アクセス権限が拒否されました」というエラー・メッセージが表示された場合は、次のファイルに権限を付与する必要があります: `chmod +x runInstaller.sh`

15

Oracle Financial Management Analyticsのカスタマイズ

この項の内容:

財務値のスケーリング	113
列のソート	114
プロセス管理レポートでの日数の設定	115
条件のフォーマット	117
レポート・タイトルの変更	118
会社のロゴの追加	119
ダッシュボード・レポートの非表示	119
カタログ・オブジェクトの更新	120
ダイヤル・ゲージのしきい値の設定	121
メール・サーバーの構成	121
配信オプションの設定	122

場合によっては、事前設定済のダッシュボードの内容が不十分であったり、利用者によっては情報や形式が適切ではないことがあります。各レポートの「編集」オプションを使用して必要な情報が表示されるようにカスタマイズできます。



注意

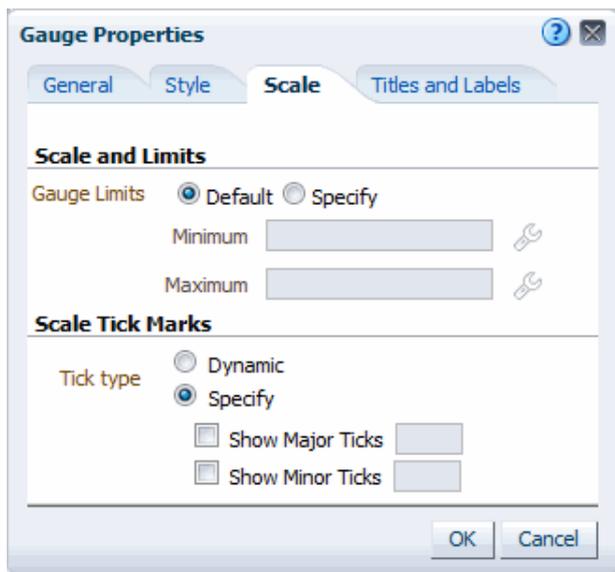
カスタマイズ・オプションは、承認された管理ユーザーのみが使用できます。レポートのカスタマイズは、Oracle BI EEおよびOracle Business Intelligenceアンサーの豊富な使用経験を持つ承認された管理者が行うことを強くお勧めします。

財務値のスケーリング

各レポートのスケールは、特定の値を反映するように変更できます。値を変更する場合は、個々のレポートごとに設定する必要があります。

▶ スケール値を設定するには:

1. Oracle BI EEの「ホーム」画面で、「ダッシュボード」、「OFMA」、必要なダッシュボードの順に選択します。
2. 変更するレポートを選択し、「編集」をクリックします。
3. 「結果」タブのツールバーで、「グラフ」ペインの「ビューの編集」ボタンをクリックし、をクリックします。
4. グラフのプロパティで、「スケール」を選択します。



5. スケールと制限で、グラフの軸の制限を選択します:

- デフォルトの制限を使用するには、「デフォルト(動的)」を選択します。
- 「指定」を選択して制限を設定し、制限の最小値と最大値を入力します。

6. 「スケール・タイプと目盛マーク」で、グラフの「目盛タイプ」を選択します:

- デフォルトの設定を使用するには、「動的」を選択します。
- 表示する目盛数の定義、表示するタイプの選択、関連する値の入力を行うには、「指定」を選択します:
 - 主要目盛の表示: 表示する主要目盛の数を指定します。
 - 補助目盛の表示: 表示する補助目盛の数を指定します。

7. 「OK」をクリックして、選択したレポートのスケールの変更を保存します。

8. 「基準」タブを選択して、をクリックします。

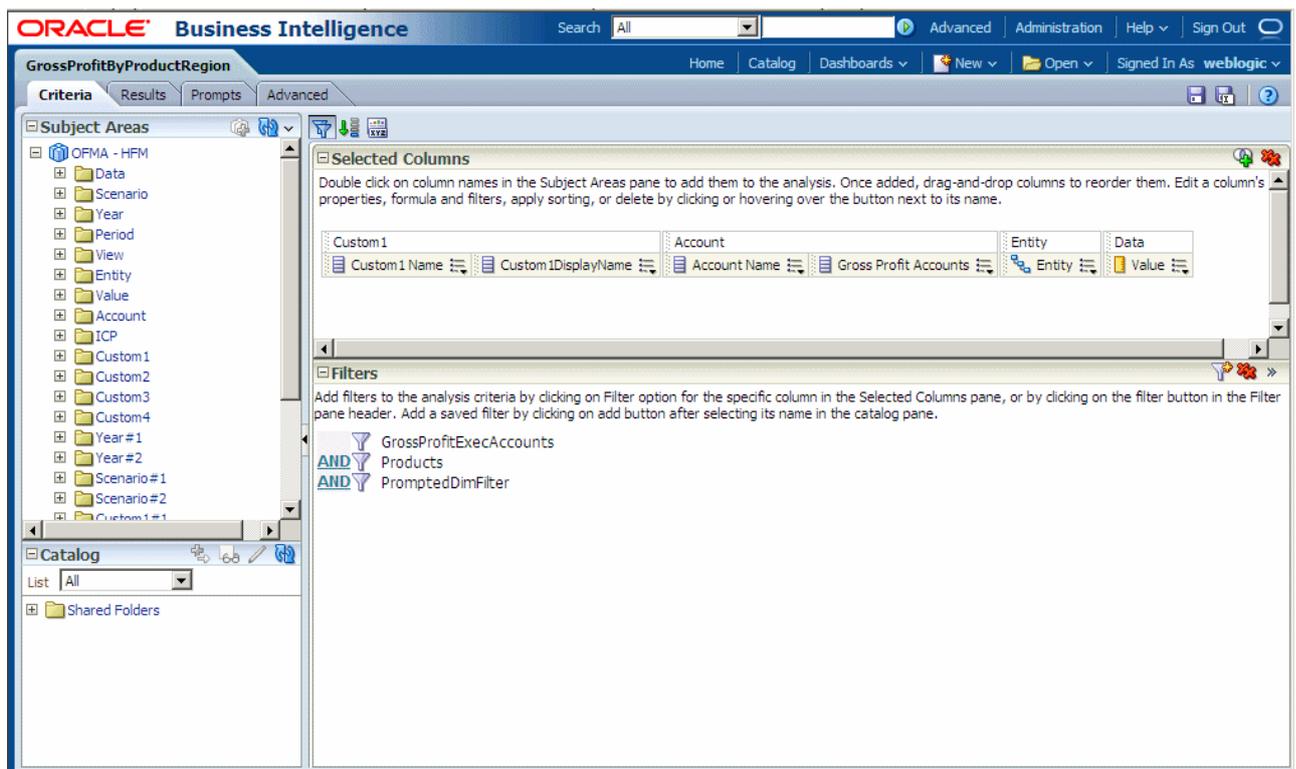
Oracle Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Editionユーザー・ガイドを参照してください。

列のソート

「基準」タブでは、レポート内の列ごとにソート方法を設定できます。

▶ レポートの列をソートするには:

1. Oracle BI EEの「ホーム」画面で、「ダッシュボード」、「OFMA」、必要なダッシュボードの順に選択します。
2. 列を管理するレポートを選択し、「編集」をクリックします。
3. 「条件」タブを選択します。



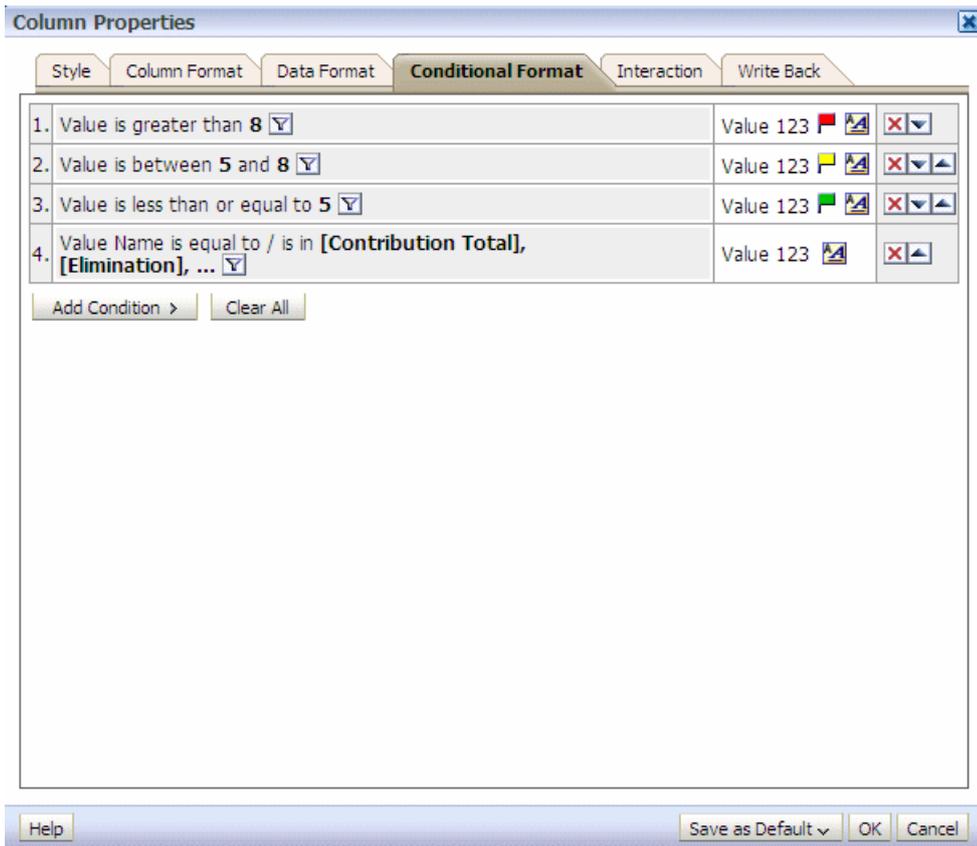
4. 「選択された列」ペインで、ソートする列名の右にある  をクリックします。
5. 「ソート」を選択して、列のソート方法を選択します。
6.  をクリックします。

プロセス管理レポートでの日数の設定

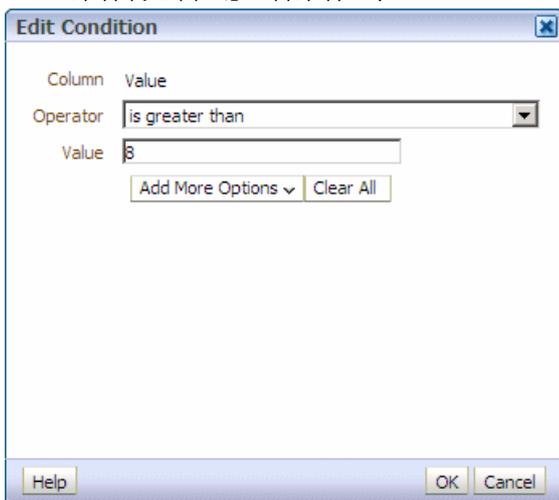
プロセス管理レポートで日数を設定し、個々のプロセスのステータスを示すことができます。

▶ 日数を設定するには:

1. Oracle BI EEの「ホーム」画面で、「ダッシュボード」、「OFMA」、「Financial Management」ダッシュボードの順に選択します。
2. 「プロセス管理」タブを選択します。
3. 「プロセス管理メトリック」レポートを選択して、「編集」をクリックします。
4. 「条件」タブを選択します。
5. 「選択した列」の「データ」列で、 をクリックします。
6. 「列のプロパティ」、「条件付き書式」の順に選択します。



7. 「条件付き書式」の各条件で、 をクリックします。



8. 「条件の編集」で、プロセス管理条件の値を設定します:

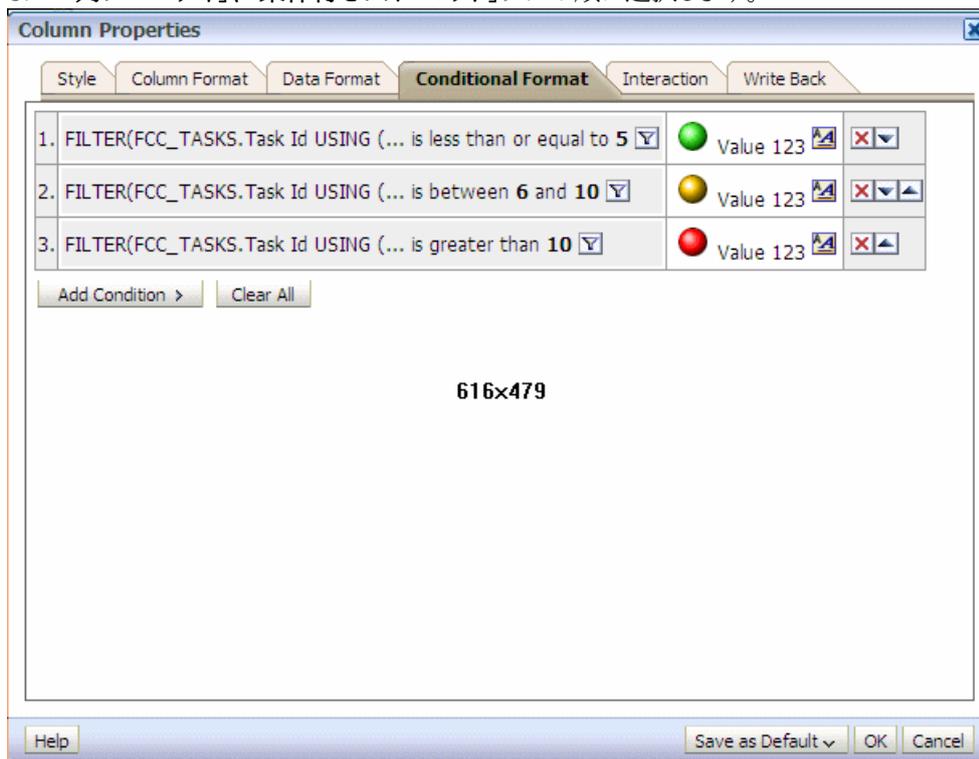
- a. 「次より大きい」、「次より小さい」など、必要な演算子を入力します。
 - b. 選択した演算子の日数として値を入力します。
 - c. 「OK」をクリックします。
9. ダイアログ・ボックスにリストされている各条件に対して、[116ページのステップ 7](#)と [116ページのステップ 8](#)を繰り返します。これらの値は、プロセス管理レポートに表示される範囲(「よい」、要注意または遅れ)を反映します。
10.  をクリックします。

条件のフォーマット

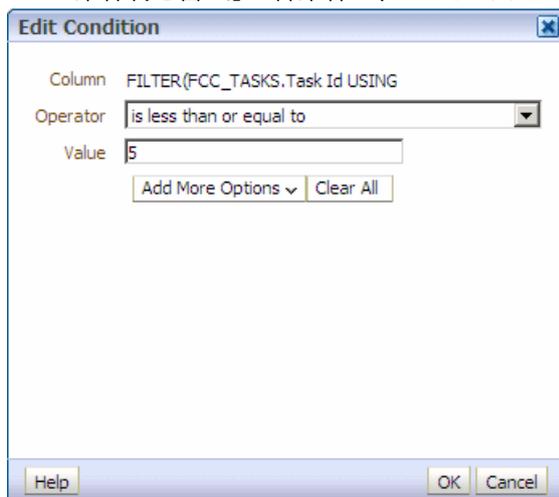
ステータスまたは条件の値を設定できます。

▶ レポートのステータス条件を設定するには:

1. Oracle BI EEの「ホーム」画面で、「ダッシュボード」、「OFMA」の順に選択し、ダッシュボードを選択します。
2. レポートを選択し、「編集」をクリックします。
3. 「条件」タブを選択します。
4. 「選択した列」の「条件」列で、をクリックします。
5. 「列プロパティ」、「条件付きフォーマット」タブの順に選択します。



6. 「条件付き書式」の各条件で、をクリックします。



7. 「条件の編集」で、プロセス管理条件の値を設定します:

- a. 「次より大きい」、「次より小さい」などの演算子を入力します。
 - b. 選択した演算子の日数として値を入力します。
 - c. 「OK」をクリックします。
8. ダイアログ・ボックスにリストされている各条件に対して、116ページのステップ 7と 116ページのステップ 8を繰り返します。これらの値は、要約のスケジュール・レポートに表示されるタスクのステータス(予定どおり、「要注意」またはスケジュール遅延)を反映します。
 9.  をクリックします。

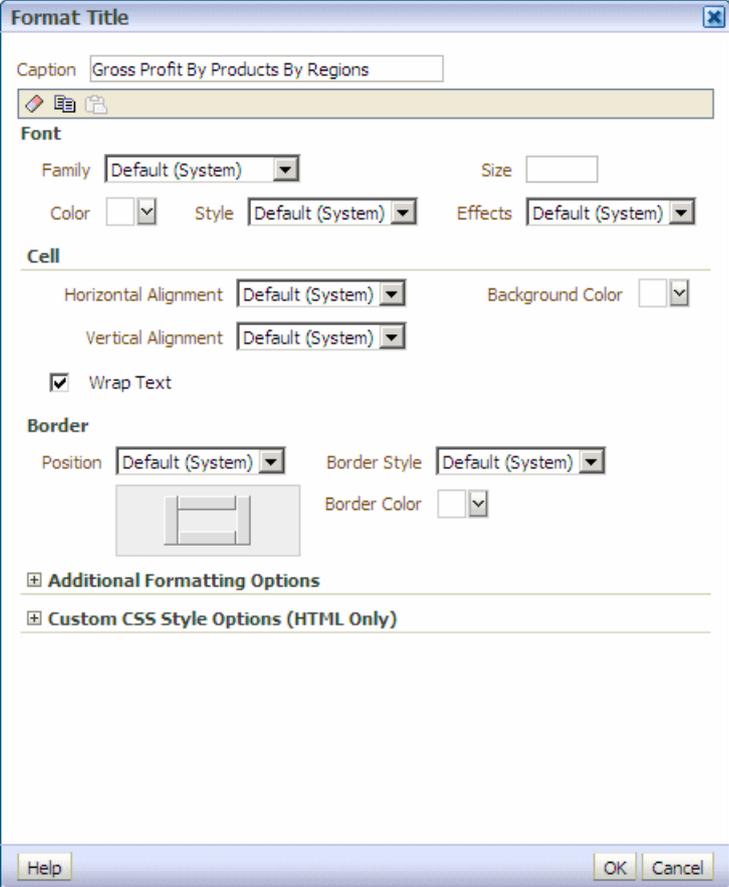
レポート・タイトルの変更

組織の要件を反映するように、レポートの名前またはその他のハードコードされた文字列を変更できます。

これらの変更は、変更する各レポートのタイトルに適用する必要があります。

▶ レポート名を変更するには:

1. Oracle BI EEの「ホーム」画面で、「ダッシュボード」、「OFMA」の順に選択し、ダッシュボードを選択します。
2. レポートを選択し、「編集」をクリックします。
3. 「結果」を選択します。
4.  「複合レイアウト」ペインで、「タイトル」ペインの  をクリックします。
5. タイトルの横にある  をクリックします。



The screenshot shows the 'Format Title' dialog box with the following settings:

- Caption:** Gross Profit By Products By Regions
- Font:**
 - Family: Default (System)
 - Size: [Empty]
 - Color: [White]
 - Style: Default (System)
 - Effects: Default (System)
- Cell:**
 - Horizontal Alignment: Default (System)
 - Background Color: [White]
 - Vertical Alignment: Default (System)
 - Wrap Text
- Border:**
 - Position: Default (System)
 - Border Style: Default (System)
 - Border Color: [White]
- Additional Formatting Options:** [Expanded]
- Custom CSS Style Options (HTML Only):** [Expanded]

Buttons at the bottom: Help, OK, Cancel.

6. 「キャプション」に、レポート・タイトルとして表示するテキストを入力します。
7. 「終了」をクリックします。
8. をクリックします。

会社のロゴの追加

ロゴをダッシュボードに追加できます。

▶ ロゴをダッシュボードに追加するには:

1. ロゴの .jpg ファイルを、Oracle BI プレゼンテーション・サーバーの `fmap:images/` に送信します。 .jpg は、グラフィック・ファイルの標準形式です。



注:

保護された環境で実行する場合は、Oracle BI プレゼンテーション・サーバーにあるリソースのみが使用されます。これらのリソースは、`fmap` という接頭辞が付いた相対パスを使用して参照されます。

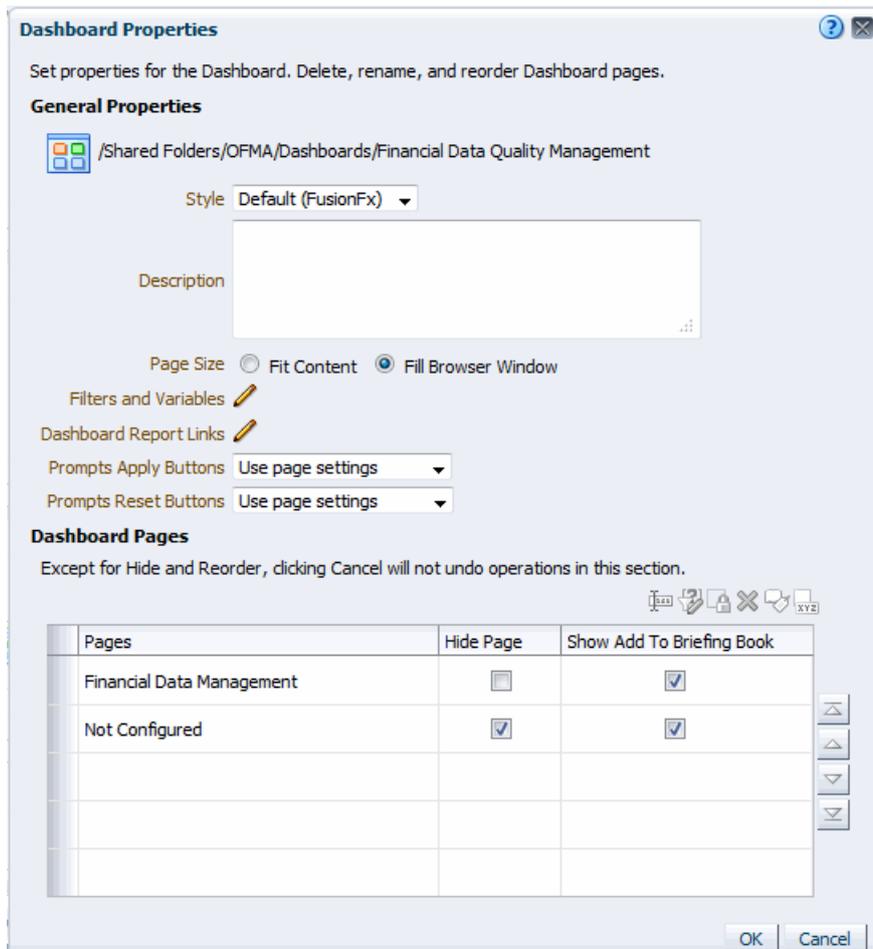
2. Oracle BI EE の「ホーム」画面で、「ダッシュボード」、「OFMA」の順に選択し、ダッシュボードを選択します。
3. ロゴを追加するレポートを選択し、「編集」をクリックします。
4. 「結果」を選択します。
5. 「複合レイアウト」ペインで、「タイトル」ペインの  をクリックします。
6. ロゴの横に、[119 ページのステップ 1](#) のロゴの場所へのパスを次の形式で入力します: `fmap:images/company_logo_name.jpg`
7. 「終了」をクリックします。
8.  をクリックします。

ダッシュボード・レポートの非表示

必要のないダッシュボード・レポートを非表示にできます。

▶ ダッシュボード・レポートを非表示にするには:

1. Oracle BI EE の「ホーム」画面で、「ダッシュボード」、「OFMA」の順に選択し、ダッシュボードを選択します。
2. ダッシュボードのツールバーで、 をクリックし、「ダッシュボードの編集」を選択します。
3. 「ダッシュボードの編集」ツールバーで、 をクリックし、「ダッシュボードのプロパティ」を選択します。



4. ダッシュボードのプロパティの「ダッシュボード・ページ」で、非表示にする各ダッシュボードの横にあるページの非表示をクリックします。
5. 「OK」をクリックします。
6. 「ダッシュボードの編集」ツールバーで、をクリックします。

カタログ・オブジェクトの更新

Oracle Business Intelligenceの新しいバージョンにアップグレードするか、パッチをインストールしてカタログのオブジェクトを使用する場合、特定オブジェクトに前のリリースほど高速にアクセスできないと感じる場合があります。この変化は、オブジェクトが正しくアップグレードされなかった場合に起こります。Fusion Middleware Controlでメトリックを表示することにより、更新の必要性を確認できます。「カタログ」フォルダで、アップグレードが必要なオブジェクト読取りの数という説明の、アップグレードが必要な読取りというメトリックを探します。数が大きい場合は、プレゼンテーション・サービスの「管理」ページを使用してカタログ内のオブジェクトを更新することにより、この問題を解決できます。Oracle Fusion Middleware Oracle Business Intelligenceアップグレード・ガイドを参照してください。

- ▶ カatalog・オブジェクトを更新するには:
 1. グローバル・ヘッダーの「管理」をクリックします。
 2. 更新が必要なカタログ・オブジェクトのスキャンおよび更新リンクをクリックします。
 3. 更新プロセスを開始するには、カタログ・オブジェクトの更新をクリックします。



注:

更新されなかったオブジェクトの詳細は、ログ・ファイルで確認できます。

ダイヤル・ゲージのしきい値の設定

データバインドされた値を設定し、ダイヤル・ゲージの値の範囲を指定できます。

▶ ダイヤル・ゲージのしきい値を設定するには:

1. Oracle BI EEの「ホーム」画面で、「ダッシュボード」、「OFMA」の順に選択し、ダッシュボードを選択します。
2. 必要なダイヤル・ゲージ・レポートを選択して、「編集」をクリックします。
3.  の順に選択します。
「結果」タブを選択し、複合レイアウトペインで、
4. ゲージのプロパティで、「スケール」タブを選択し、スケールと制限列の「指定」を選択します。
5. 「最大」および「最小」の値を入力し、「OK」をクリックします。
6. 「終了」をクリックします。
7. 「基準」タブを選択して、をクリックします。

メール・サーバーの構成

Oracle Business Intelligenceから電子メール・アラートを構成できます。

▶ メール・サーバーを構成するには:

1. Webブラウザで次のURLを入力して、Enterprise Managerを開きます: `http://server name:port number/em`。
2. Enterprise Managerの左ペインで、「ビジネス・インテリジェンス」、インスタンス名(**coreapplication**など)の順に選択します。
3. 右ペインで、「デプロイメント」、「メール」の順に選択して、「メール・サーバー」設定オプションを表示します。
 - 「SMTP」に、電子メールを配信するSMTPサーバーのホスト名を入力します。
 - 「ポート」に、SMTPのポート番号(25ポートなど)を入力します
 - 送信者の表示名に、送信者の名前(OFMAアラートなど)を入力します。
 - 送信者の電子メール・アドレスに、送信者の電子メールID (`ofma-alert@oracle.com`など)を入力します。
 - 「ユーザー名」に、ユーザー名を入力します
 - 「パスワード」に、パスワードを入力します
 - 「パスワードの確認」に、パスワードを再入力します
 - 失敗時の再試行回数に、電子メールの送信を試行する回数を指定する値を入力します。たとえば、デフォルト値は1になります
 - 最大受信者数に、リスト内の受信者の最大数を指定する値を入力します。たとえば、デフォルト値はゼロになります

- アドレス指定方法で、次のいずれかのオプションを選択します: 「宛先」または「ブラインド・コピー受信者 (BCC)」
4. 「適用」をクリックします。

配信オプションの設定

▶ 配信オプションを設定するには:

1. グローバル・ヘッダーで、次としてサイン・インユーザー名をクリックし、マイ・アカウントを選択します。
2. マイ・アカウントで、配信オプションタブを選択します。
3.  をクリックしてデバイスを追加し、次を実行します:
 - 「名前」に、デバイスの名前を入力します。
 - 「カテゴリ」で、デバイスのカテゴリを選択します。たとえば、「電子メール」を選択します
 - デバイス・タイプで、デバイスのタイプを選択します。たとえば、HTML電子メールまたはプレーンテキスト電子メールを選択します
 - アドレス/番号に、デバイスのアドレスを入力します。たとえば、ofma_users@oracle.comなどです
 - 「OK」をクリックします。
4. 「OK」をクリックして変更を保存します。



診断ユーティリティ

この項の内容:

[診断ユーティリティの実行](#) 123

このユーティリティを使用すると、次の製品に関する情報を抽出できます:

- OFMAインストールおよび構成の詳細
- HFM ADMクライアント・インストールの詳細
- 同じマシンに適用されたOBIEEパッチの数と一緒のOBIEEインストールの詳細

このユーティリティは、本番環境での構成または環境の問題を識別する際に役立ちます。このユーティリティの実行後に、`OFMA_Diagnostic.html`レポートが生成されます。このレポートには、構成および環境に関する情報が含まれています。短時間で問題を分析できます。



注:

OFMA製品のインストール後に、診断ユーティリティを実行することをお勧めします。

診断ユーティリティの実行

▶ 診断ユーティリティを実行するには:

1. <OMFAのインストール・ディレクトリ>/OFMAHome_1/ofmaに移動し、**diagnostics.bat**ファイルをクリックします。
2. オプション: OFMA構成ユーティリティの実行後に診断ユーティリティを実行する場合、コマンド・プロンプトでリポジトリ・パスワードを指定する必要があります。

診断ユーティリティのバッチ・ファイルの実行後に、次に示すすべてのシステム構成ファイルおよびOFMAアーティファクトが含まれるOfmaDiagnostic.zipフォルダが作成されます:

OFMA.xml、NQSConfig.ini、OPMN.xml、カタログ圧縮フォルダ、リポジトリ(rpd)ファイル、OFMA.logファイル、およびEPMレジストリ・レポート(registry.html)。

OFMA_Diagnostic.htmlレポートが次のパスに生成されます: <OMFA Home Directory>

\DiagnosticUtility。このレポートは、OfmaDiagnostic.zipフォルダの外部に生成されます。このレポートでは、OFMAインストールおよび構成の詳細の全体のステータスが提供され、OBIEE環境の詳細も提供されます。

OFMA診断レポートには2つのセクションがあります:

- 環境の詳細

- 構成の詳細

環境の詳細の確認

この項では、次の製品に関する情報を確認できます:

- OFMAインストールの詳細
- HFM ADMクライアント・インストールの詳細
- OBIEEインストールの詳細

たとえば、次の表の情報を参照できます

表8 OFMA診断レポート: 環境の詳細

SI番号	インストールされている製品の検証	環境の詳細	ステータス	アクション・アイテム
1	OBIEEインストール	バージョン: 11.1.1.7.0 パッチ: パッチなし ホームの場所: c:/obiee/ Oracle_BI1	失敗	このOBIEEのバージョンは、インストールされているOFMAのバージョンと互換性がありません。 詳細は、 <i>Oracle Financial Management Analytics</i> 管理者ガイドのソフトウェアの前提条件に関する項を参照してください。
2	HFM ADMクライアント・インストール	バージョン: 11.1.2.4.0 パッチ: パッチなし ホームの場所: C:/Oracle/ Middleware/ EPMSysstem11R1	成功	
3	OFMAインストール	バージョン: 11.1.2.4.0 パッチ: パッチなし ホームの場所: c:/ OFMAHome_1/ OFMA	成功	

構成の詳細の確認

この項では、OFMA製品の構成の詳細を確認できます

たとえば、次の表の情報を参照できます

表9 OFMA診断レポート: 構成の詳細

SI番号	OFMA内に構成されている製品の検証	構成の詳細	ステータス	アクション・アイテム
1	OFMA HFM構成の詳細	RPD: 構成されたアプリケーション RPDファイルからの接続の詳細: <ul style="list-style-type: none">• クラスタ: HFM_Cluster• アプリケーション: Totconsol• ユーザー: John_Dave• レジストリを使用して確認: 有効 システム設定: HFMとOBIEEの統合の設定は完了しました。	成功	

B

パフォーマンス・チューニング

この項の内容:

パフォーマンス・チューニングのドキュメント	127
単一のBIサーバーに対するキャッシュの設定	128
クラスタ環境に対するキャッシュの設定	129
ロギングの無効化	130

Oracle Financial Management Analyticsのインスタンスはすべて、アプリケーション、ハードウェア、ソフトウェア、データベース、カスタマイズなどで構成されています。インストールにおいてこのような多様性が存在するため、たとえば新規のハードウェアやソフトウェアなどで現行の構成を変更すると、パフォーマンスが変化する可能性があります。

新規のリリースやパッチのインストール、あるいは使用環境における実質的な変更を行った後は、コンポーネントのなんらかのチューニングが必要になる場合がほとんどです。

パフォーマンス・チューニングは繰り返しのプロセスです。パフォーマンスを最大化するには、インストール環境でコンポーネントを継続的に管理し、チューニングしてモニターします。

あらゆる状況に対応する確実なチューニング・ソリューションを備えることは容易ではありません。たとえば、バージョンやパッチが異なると、わずかに動作が異なる場合があります、その管理が必要になります。使用環境によっては、コンポーネント間の相互作用が異なる結果をもたらす可能性があります。同じ環境を共有しているこの製品や他の製品をカスタマイズすると、結果に影響を及ぼす場合もあります。

この付録は情報提供のみを目的としており、調査対象となりうる領域を提案し、インストール環境の最適なチューニングに役立つ情報ソースを提示します。



注意

チューニングや設定などを試みる前に、データベースおよびモデルをバックアップしてください。

パフォーマンス・チューニングのドキュメント

次の表に、チューニング情報が記載されているOracle Business Intelligence Enterprise Editionのドキュメントを示します。

表10 チューニングの参照資料

ドキュメント	サンプル・トピック
<i>Oracle(R) Fusion Middlewareパフォーマンスおよびチューニングガイド</i>	<ul style="list-style-type: none"> • SOA Suiteのコンポーネント共通のチューニング • ロギング・レベル • JVMチューニング・パラメータ • データベースの設定 • SOA構成パラメータの変更
<i>Oracle(R) Fusion Middleware Oracle WebLogic Server JDBCのプログラミング</i>	<ul style="list-style-type: none"> • WebLogicのパフォーマンス向上機能 • ベスト・パフォーマンスのためのアプリケーション設計 • プールされた接続の使用によるパフォーマンスの向上
<i>Oracle(R) Fusion Middleware Oracle Business Intelligence Enterprise Editionシステム管理者ガイド</i>	<ul style="list-style-type: none"> • パフォーマンス・チューニングと問合せキャッシングの管理 • 共通パフォーマンス・メトリックを表示するためのFusion Middleware Controlの使用
<i>Oracle(R) Fusion Middleware Oracle WebLogic Serverパフォーマンスおよびチューニング</i>	<ul style="list-style-type: none"> • パフォーマンスチューニングのロードマップ • ディスクおよびCPUの使用状況のモニター • システムにおけるボトルネックの特定 • アプリケーションのチューニング

単一のBIサーバーに対するキャッシュの設定

デフォルトで、Oracle BIサーバーは、問合せ結果セットのローカルのデータベース・キャッシュ(問合せキャッシュ)を管理します。問合せ・キャッシュを使用すると、Oracle BIサーバーはバックエンドのデータ・ソースにアクセスせずに、後続の多くの問合せ要求に対応できるようになるため、問合せの応答時間が大幅に短縮されます。

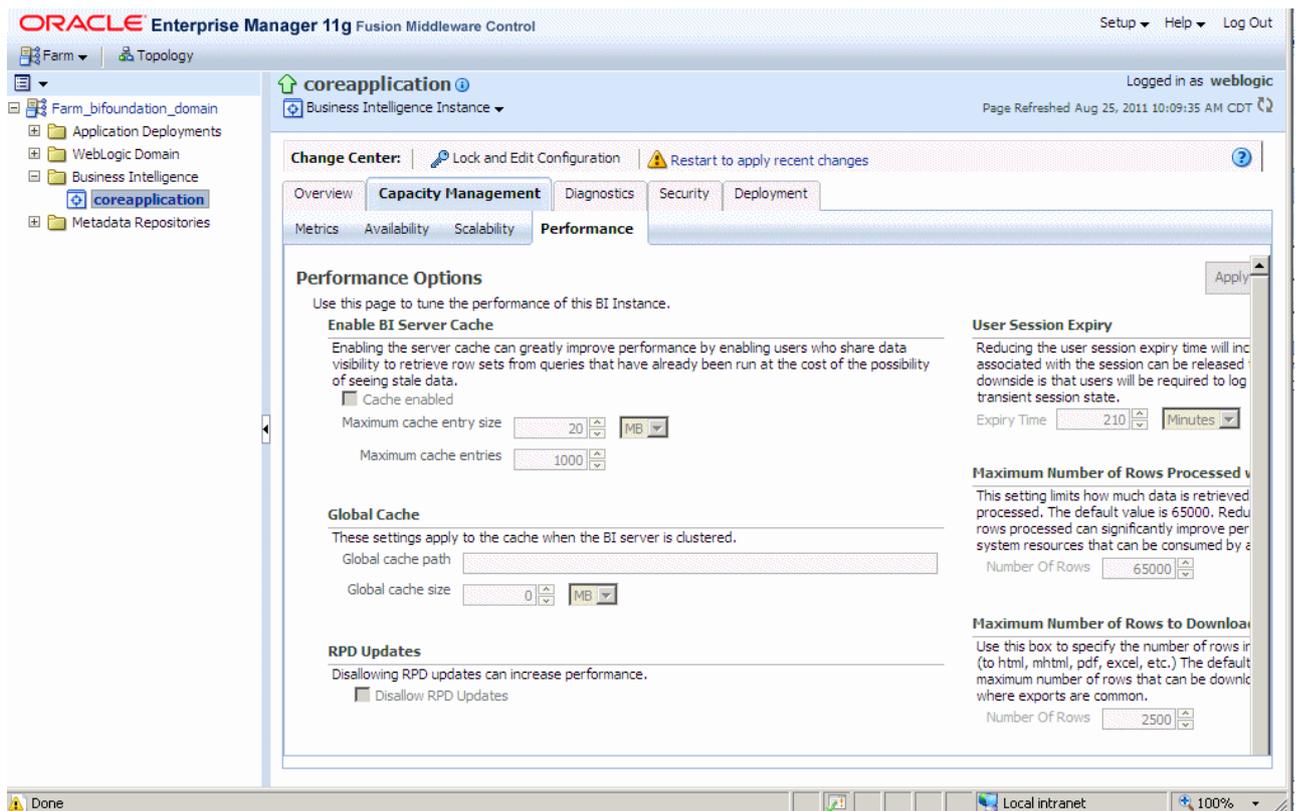
キャッシュを有効にすることをお勧めします。キャッシュ・エントリ・サイズおよびキャッシュ・エントリ数を設定する際は、必要な情報を維持しながら、パフォーマンスへの影響を管理するために、生成されるデータ量と変更の頻度を考慮してください。

▶ BIサーバー・キャッシュを設定するには:

1. 次に移動します: http://server_name:7001/em

Enterprise Managerを開きます。

2. Enterprise Managerの左ペインで、「ビジネス・インテリジェンス」、インスタンス名(**coreapplication**など)の順に選択します。
3. 右ペインで「容量管理」、「パフォーマンス」の順にクリックし、「パフォーマンス・オプション」を表示します。



4. 「BIサーバー・キャッシュの有効化」で、「キャッシュ有効」をクリックします。

キャッシュはデフォルトで有効になっています。キャッシュを無効にするには、チェック・ボックスをクリアします。

5. 「最大キャッシュ・エントリ・サイズ」に、MB単位でキャッシュ・エントリの最大サイズを入力します。このサイズを超える潜在的なエントリはキャッシュされません。デフォルト・サイズは、20 MBです。
6. 「最大キャッシュ・エントリ」に、問合せキャッシュで許可されるキャッシュ・エントリの最大数を入力します。この値を使用して、キャッシュ・ストレージ要件を管理します。デフォルト値は1000です。
7. 「適用」をクリックします。
8. 画面上部の「再起動して最近の変更を適用」をクリックします。

再起動が他のユーザーに影響しないよう注意してください。サーバーを再起動すると、新しいキャッシュ要件が適用されます。

クラスタ環境に対するキャッシュの設定

クラスタ環境では、グローバル・キャッシュと呼ばれる共有キャッシュにアクセスするようOracle BIサーバーを構成できます。グローバル・キャッシュは、共有ファイル・システムのストレージ・デバイスに存在し、ページ・イベント、シード・イベント(多くの場合、エージェントが生成)、およびシード・イベントに関連付けられた結果セットが格納されます。

各Oracle BIサーバーでは、通常の間合せ用に、独自のローカル問合せキャッシュも保持されます。

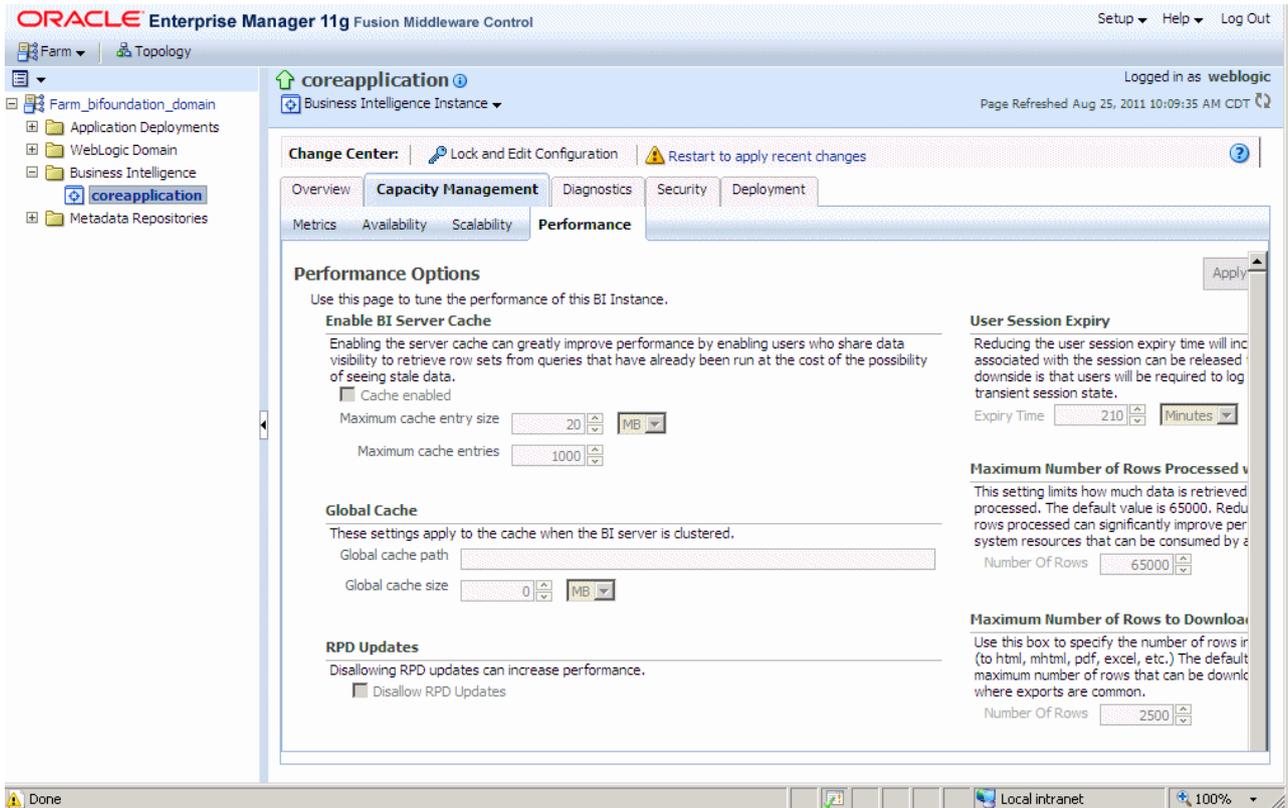
▶ クラスタ環境でBIサーバー・キャッシュを設定するには:

1. 次に移動します: <http://<server name>:7001/em>

Enterprise Managerを開きます。

2. Enterprise Managerの左ペインで、「Business Intelligence」、coreapplicationの順に選択します。

- 右ペインで「容量管理」タブ、「パフォーマンス」タブの順にクリックし、「パフォーマンス・オプション」を表示します。



- 「グローバル・キャッシュ」で、キャッシュに関する次の情報を入力します。

キャッシュはデフォルトで有効になっています。キャッシュを無効にするには、チェック・ボックスをクリアします。

- 「グローバル・キャッシュ・パス」に、クラスタ全体で共有するキャッシュ・エントリのページとシードを格納する、物理的な場所へのパスを入力します。入力する場所は、クラスタのすべてのノードからアクセスできる共有ファイル・システムに存在する必要があります。
- 「グローバル・キャッシュ・サイズ」に、グローバル・キャッシュの最大サイズ(700MBなど)を指定します。この制限に達すると、潜在的な新しいエントリはキャッシュされません。

- 「適用」をクリックします。
- 画面上部の「再起動して最近の変更を適用」をクリックします。

再起動が他のユーザーに影響しないよう注意してください。サーバーを再起動すると、新しいキャッシュ要件が適用されます。

ロギングの無効化

パフォーマンス向上のため、ロギングはデフォルトで無効にすることをお勧めします。問題の調査のため、サポートからロギングを要求された場合は簡単に有効にできます。

▶ ロギングを無効にするには:

- 次に移動します: <http://<server name>:7001/em>

Enterprise Managerを開きます。

- Oracle Enterprise Managerの左ペインで、「**Business Intelligence**」、**coreapplication**の順に選択します。
- 右ペインで「**診断**」タブ、「**ログ構成**」タブの順にクリックし、ログ・パフォーマンス・オプションを表示します。

The screenshot shows the Oracle Enterprise Manager 11g Fusion Middleware Control interface. The left pane shows the navigation tree with 'coreapplication' selected under 'Business Intelligence'. The main pane displays the 'Log Configuration' page for the 'Business Intelligence Instance'. The page has tabs for 'Overview', 'Capacity Management', 'Diagnostics', 'Security', and 'Deployment', with 'Diagnostics' selected. Under 'Diagnostics', there are sub-tabs for 'Log Messages' and 'Log Configuration', with 'Log Configuration' selected. The 'Log Configuration' section includes an 'Apply' button and instructions: 'Configure the Business Intelligence log files by choosing what level of message gets logged and when a log file expires. Changes apply to all Business Intelligence log files.' Below this are two sections: 'Intelligence log files' and 'Query Logs'. Each section has 'Maximum File Size' (1000 KB) and 'Maximum Log Age' (10 Days) settings. The 'Log Levels' section has five dropdown menus: 'Incident Error' (On), 'Error' (On), 'Warning' (On), 'Notification' (Info), and 'Trace' (Off).

- 「**ログ・レベル**」で、次のログ・レベルをそれぞれ「**オフ**」に設定します:

- ・ インシデント・エラー
- ・ エラー
- ・ 警告
- ・ 通知
- ・ トレース

- 「**適用**」をクリックします。
- 「**変更のアクティブ化**」をクリックします。
- 画面上部の「**再起動して最近の変更を適用**」をクリックします。

再起動が他のユーザーに影響しないよう注意してください。サーバーを再起動すると、ロギングが無効になります。



注:

ロギングのリセットが必要な場合はこの手順を繰り返しますが、[131ページのステップ 4](#)で、必要なロギングを「**オン**」にします。

用語集

アクション	関連コンテンツへ移動したり、外部システムで操作、関数またはプロセスを起動する機能を提供します。アクションは、分析、ダッシュボード・ページ、エージェント、スコアカードの目標、スコアカードのイニシアティブおよびKPIに含めることができます。 133ページのアクション・リンク も参照してください。
アクション・フレームワーク	アクション・フレームワークは、Oracle BI EEアーキテクチャのコンポーネントで、アクション実行サービス(AES)と呼ばれるJ2EEアプリケーションと、Oracle BI EEの一部としてデプロイされる、アクションに固有のJavaScript機能を含んでいます。アクション・フレームワークには、アクションの作成や特定のアクション・タイプをブラウザから直接起動するクライアント側の機能も含まれています。
アクション・リンク	分析、ダッシュボード・ページ、スコアカードの目標、スコアカードのイニシアティブまたはKPIに埋め込まれたアクションへのリンクで、クリックすると、関連付けられているアクションが実行されます。 133ページのアクション も参照してください。
値階層	134ページの親子階層 を参照してください。
イニシアティブ	スコアカードで使用されます。イニシアティブは、目標を達成するために必要な、時間に固有のタスクまたはプロジェクトです。したがって、目標をサポートするイニシアティブを、戦略ターゲットに対する進捗を示すマイルストーンとして使用できます。 142ページの目標 および 147ページのOracle Scorecard and Strategy Management も参照してください。
イベント・ポーリング表	イベント・ポーリング表(イベント表とも呼ばれる)は、更新された物理表に関する情報をOracle BIサーバーに提供します。問合せキャッシュを最新に保つために使用されます。Oracle BIサーバー・キャッシュ・システムはイベント表を調べ、物理表の情報を行から抽出し、それらの物理表を参照する古いキャッシュ・エントリをパージします。
イメージ・プロンプト	特定の値がマップされた異なる領域のイメージを提供するプロンプト。ユーザーがイメージ領域をクリックすると、プロンプト値が選択され、分析またはダッシュボードに移入されます。 141ページのプロンプト も参照してください。
エージェント	ビジネス・プロセスの自動化を可能にします。エージェントは、イベント駆動型アラート、スケジュールによるコンテンツの公開および条件付きイベント駆動型アクションの実行に使用できます。 エージェントは、情報ベースで問題と機会を動的に検出し、適切な通知対象ユーザーを判断し、そのユーザーに様々なデバイス(電子メール、電話など)で情報を配信します。
オブジェクト・プロパティ	オブジェクト、および所有者がオブジェクトに割り当てた属性に関する情報。プロパティの例には、名前、説明、日付スタンプ、読取り専用アクセス、インデックスなしフラグなどがあります。 135ページの権限 も参照してください。
オフライン・モード	Oracle BIサーバーにロードされていないリポジトリをリポジトリ作成者が編集できるOracle BI管理ツール内のモード。

親子階層	<p>タイプがすべて同じメンバーの階層。親子階層のディメンション・メンバーはすべて1つのデータ・ソースに存在します。親子階層では、メンバー間の関係は、ディメンション・メンバー間の親子関係です。</p> <p>138ページのディメンションも参照してください。</p>
親子関係表	<p>親子階層でのメンバー間の関係を明示的に定義する値を持つ表。クロージャ表とも呼ばれます。</p>
オンライン・モード	<p>リポジトリを問合せ処理に使用すると同時にリポジトリ作成者が編集できるOracle BI管理ツール内のモード。オンライン・モードでは、リポジトリ内のサブジェクト・エリアに接続しているユーザーのユーザー・セッション・モニタリングも可能です。</p>
階層	<p>1対多関係で相互に関連を持つ、Oracle BIリポジトリ内の論理ディメンションのレベルのシステム。すべての階層は共通のリーフ・レベルと共通のルート・レベルを持つ必要があります。</p> <p>階層は、メタデータでは個別のオブジェクトとしてモデル化されていません。かわりに、ディメンション・オブジェクトに暗黙的に含まれています。</p> <p>138ページのディメンション、143ページの論理レベルおよび140ページのプレゼンテーション階層を参照してください。</p>
階層列	<p>名前付きレベルと親子関係の両方を使用して編成されたデータ値が含まれたプレゼンテーション・サービス内の列。この列は、ツリーのような構造を使用して表示されます。個々のメンバーは、下位メンバーが上位メンバーにまとめられて略示されます。たとえば、特定の日は特定の月に属し、特定の月は特定の年内にあります。時間や地域などがこの例です。</p>
階層レベル	<p>ロールアップしたり、他のレベルからロールアップされる、プレゼンテーション・サービスの階層列内のオブジェクト。Oracle BIリポジトリのプレゼンテーション・レベルに相当します。</p> <p>141ページのプレゼンテーション・レベルも参照してください。</p>
外部キー	<p>別の表の主キー列を参照する、表の列または列のセット。</p>
カスタム・ビュー	<p>ビジネスと戦略のデータのカスタマイズされたビューを表示できるようにするスコアカードのコンポーネント。147ページのOracle Scorecard and Strategy Managementも参照してください。</p>
仮想物理表	<p>ストアド・プロシージャまたはSELECT文から作成される物理表。仮想表を作成することによって、Oracle BIサーバーおよびベースとなるデータベースに、高度な問合せ要求の実行に適したメタデータが提供されます。</p>
カタログ	<p>146ページのOracle BIプレゼンテーション・カタログを参照してください。</p>
管理サーバー	<p>WebLogicサーバー・ドメインの一部で、Oracle Business Intelligenceコンポーネントを管理するプロセスを実行します。管理サーバーには、Oracle WebLogic Server管理コンソールおよびOracle Fusion Middleware Controlが含まれています。144ページのFusion Middleware Controlおよび134ページの管理対象サーバーも参照してください。</p>
管理対象サーバー	<p>個々のJ2EEアプリケーション・コンテナ(JMX MBeanコンテナ)。ローカル・ミドルウェア・ホーム内に含まれるJavaコンポーネントとシステム・コンポーネントに、個別のホストのローカル管理機能を提供し、構成とデプロイメントの全情報については管理サーバーを参照します。</p>

	<p>134ページの管理サーバーおよび 144ページのFusion Middleware Controlも参照してください。</p>
キー・パフォーマンス・インディケータ(KPI)	<p>特定のビジネス・ゴールと戦略目標を定義し、追跡する測定法。KPIをまとめると、モニター、改善および評価を必要とする、より大きな組織の戦略につながるものが多くあります。KPIは、通常時間とともに変わる測定可能な値で、スコアとパフォーマンス・ステータスを決定するためのターゲットを持ちます。詳細な分析を可能にするディメンションが含まれ、トレンド用およびパフォーマンス・パターンの特定のために経時的な比較を行えます。</p> <p>147ページのOracle Scorecard and Strategy Managementも参照してください。</p>
基準	<p>141ページの分析基準を参照してください。</p>
キューブ	<p>リレーショナル・データベースの構造よりデータの分析時間が短く、柔軟性が高いOLAP(オンライン分析処理)データ構造。キューブはメジャーで構成され、ディメンションで編成されます。マルチディメンショナル・データ・ソースのキューブは、リレーショナル・データベース・モデルのスター・スキーマにほぼ相当します。</p>
駆動表	<p>一方の表が非常に小さく(駆動表)、他方の表が非常に大きい場合にOracle BIサーバー・プロセスが複数データベース結合を処理する方法の最適化に使用されるメカニズム。</p>
クラスタ・コントローラ	<p>プレゼンテーション・サービスや他のクライアントからの新規要求の最初の接点となるプロセス。クラスタ・コントローラは、Oracle BIサーバーの可用性と負荷に基づいて、要求の振分け先のクラスタ内のOracle BIサーバーを決定します。Oracle BIスケジューラ・インスタンスなどのクラスタ内のサーバーの処理をモニターします。クラスタ・コントローラは、アクティブ/パッシブ構成にデプロイされます。</p>
グローバル・ヘッダー	<p>Oracle BIプレゼンテーション・サービスのユーザー・インタフェース・オブジェクトで、ユーザーが速やかにタスクを開始したり、Oracle BIプレゼンテーション・カタログ内の特定のオブジェクトを検出できるリンクやオプションが含まれます。グローバル・ヘッダーはプレゼンテーション・サービスのユーザー・インタフェースに常に表示されるため、ユーザーはリンクに簡単にアクセスでき、ホーム・ページや「カタログ」ページに移動しなくてもカタログを検索できます。</p>
結果	<p>Oracle BIサーバーから返される、分析に対する出力。</p> <p>141ページの分析も参照してください。</p>
原因/結果マップ	<p>目標の因果関係を示すスコアカードのコンポーネント。147ページのOracle Scorecard and Strategy Managementも参照してください。</p>
権限	<p>オブジェクトへのアクセスが可能なユーザーを指定し、ユーザーのオブジェクトとの対話方法を制限します。権限の例には、書込み、削除、変更などの権限があります。</p> <p>133ページのオブジェクト・プロパティを参照してください。</p>
構造化問合せ言語(SQL)	<p>データの間合せと変更のための標準的なプログラミング言語。Oracle Business Intelligenceでは、付加価値のある独自の拡張機能をいくつか持ったSQL-92標準がサポートされます。</p> <p>144ページの論理SQLも参照してください。</p>

コンテキスト・イベント・アクション	アクション・フレームワークを使用して、ビジネス・インテリジェンス・オブジェクトからADFページの別の領域にコンテンツを渡す事前配信済アクション。
	133ページのアクション 、 133ページのアクション・フレームワーク および 133ページのアクション・リンク も参照してください。
コンテンツ・デザイナー	分析、ダッシュボード、スコアカードなどのビジネス・インテリジェンス・オブジェクトを作成するユーザー。
サブジェクト・エリア	特定のOracle BIリポジトリ内で、ビジネス・モデルに関するデータを編成したり、表示するプレゼンテーション・レイヤーのオブジェクト。プレゼンテーション・レイヤーの最上位レベルのオブジェクトで、プレゼンテーション・サービスでユーザーに表示されるデータのビューを表します。Oracle BIリポジトリのサブジェクト・エリアには、プレゼンテーション表、プレゼンテーション列およびプレゼンテーション階層が格納されます。 プレゼンテーション・サービスでは、サブジェクト・エリアに、フォルダ、メジャー列、属性列、階層列およびレベルが含まれます。
システム・コンポーネント	Oracle Process Manager and Notification Server (OPMN)によって管理されるサーバー・プロセス(Javaアプリケーションではない)。 147ページのOracle Process Manager and Notification Server (OPMN) も参照してください。
集計の永続性	集計表とこれに対応するOracle Business Intelligenceメタデータ・マッピングの作成とロードを自動化し、集計ナビゲーションを可能にする機能。
集計表	ディメンショナル属性のセットに対して集計される、あらかじめ計算されたメジャーからの結果を格納する表。集計表の各列には、特定のレベルのセットのデータが含まれます。たとえば、月間売上表には、各月の各店舗での各製品の収益の合計があらかじめ計算されて含まれます。集計表を使用すると、パフォーマンスが向上します。
集計ルール	Oracle BIリポジトリの論理列または物理キューブ列に適用されるルールで、SUMなどの特定の集計関数を列データに適用するよう指定します。 プレゼンテーション・サービスで、ユーザーは、リポジトリで適用されたルールを表示できます。ユーザーは、メジャー列に対するデフォルトの集計ルールを変更することもできます。
主キー	各値が一意で、表の1行を識別する列(または列のセット)。
条件	分析またはキー・パフォーマンス・インディケータ(KPI)の評価に基づいて1つのブール値を返すオブジェクト。条件を使用して、エージェントがコンテンツを配信してアクションを実行するかどうか、アクション・リンクをダッシュボード・ページに表示するかどうか、セクションとそのコンテンツをダッシュボード・ページに表示するかどうかが決まります。 133ページのアクション 、 133ページのアクション・リンク 、 133ページのエージェント および 135ページのキー・パフォーマンス・インディケータ(KPI) も参照してください。
初期化ブロック	動的リポジトリ変数、システム・セッション変数およびシステム以外のセッション変数の初期化に使用されます。初期化ブロックにはSQL文が含まれ、これを実

	行するとそのブロックに関連付けられた変数の初期化やリフレッシュが行われます。
スコアカード	147ページのOracle Scorecard and Strategy Management を参照してください。
スター・スキーマ	履歴情報のディメンショナル分析を可能にするリレーショナル・スキーマ。スター・スキーマでは、論理ディメンション表と論理ファクト表の間に1対多関係があります。各スターは、1つのファクト表と正規化されていないディメンション表のセットで構成されます。
スノーフレーク・スキーマ	1つ以上のディメンションが部分的あるいは完全に正規化されたディメンショナル・スキーマ。
セッション変数	141ページの変数 を参照してください。
接続プール	データ・ソースの接続情報を含む、Oracle BIリポジトリの物理レイヤーのオブジェクト。 140ページの物理レイヤー も参照してください。
選択ステップ	問合せの集計後に適用される値の選択。表示されているメンバーにのみ作用し、結果の集計値には作用しません。フィルタ同様、選択ステップは分析の結果を限定します。 141ページの分析 および 139ページのフィルタ も参照してください。
戦略ツリー	目標とこれをサポートする子目標およびKPIがツリー図に階層状に表示されるスコアカードのコンポーネント。 147ページのOracle Scorecard and Strategy Management も参照してください
戦略マップ	スコアカードに定義された目標と目標の進捗を測定するKPIをパースペクティブによってどのように関係付けるかを示すスコアカードのコンポーネント。因果関係も示されます。 147ページのOracle Scorecard and Strategy Management も参照してください。
属性	Oracle BIリポジトリでのディメンションの詳細。属性は、通常、ディメンション表の列として表示されます。
属性列	プレゼンテーション・サービスで、メンバーとも呼ばれる値のフラット・リストを保持する列。これらのメンバー間に、階層列のメンバーのような階層関係はありません。製品IDや市などがこの例です。 134ページの階層列 を参照してください。
ダッシュボード	企業や外部情報のパーソナライズされたビューを提供するオブジェクト。ダッシュボードは、1つ以上のページで構成されます。ページには、分析の結果、イメージ、エージェントからのアラートなどのWebブラウザでアクセスしたり開くことのできる任意のオブジェクトを表示できます。
ダッシュボード・プロンプト	ダッシュボードに追加されたプロンプト。ユーザーがプロンプト値を選択すると、ダッシュボードに含まれているすべての分析の表示内容がその値によって決まります。次を参照してください: 141ページの分析プロンプト および
ダッシュボードURL	外部ポータルまたはアプリケーションでの特定のダッシュボードのコンテンツの組込みや参照に使用されます。様々な形式と、動作の制御に使用されるオプションの引数があります。

断片化の内容	指定されたレベルのデータのセット全体が論理表ソースに含まれていない場合の論理表ソース内の指定されたデータのセットの一部。断片化の内容は、「論理表ソース」ダイアログ・ボックスの「内容」タブの「断片化の内容」ボックスに入力された論理列によって定義されます。
通貨プロンプト	分析またはダッシュボードの通貨列に表示される通貨タイプをユーザーが変更できるようにするプロンプト。 141ページのプロンプト も参照してください。
ディメンション	<p>論理列(属性)の階層状の編成。1つ以上の論理ディメンション表が最大1つのディメンションに関連付けられます。</p> <p>ディメンションには、1つ以上の(名前なし)階層が含まれます。論理ディメンションには、レベル・ベースの階層(構造階層)を持つディメンションと親子階層(値階層)を持つディメンションの2種類があります。</p> <p>時間ディメンションと呼ばれる特定のタイプのレベル・ベースのディメンションは、時系列データをモデリングするための特別な機能を提供します。</p> <p>134ページの階層も参照してください。</p>
ディメンション表	特定のディメンションで使用される列を含む論理表。ディメンション表をファクト表にすることはできません。 139ページのファクト表 も参照してください。
データ・ソース名(DSN)	<p>特定のデータベースに関する情報を含むデータ構造。通常、ODBCドライバによってデータベースへの接続に使用されます。DSNには、名前、ディレクトリ、データベースのドライバなどの情報が含まれます。</p> <p>Oracle BIリポジトリの物理レイヤーの接続プール・オブジェクトには、各データ・ソースのDSN情報が含まれています。</p>
データベース・ヒント	SQL文内に配置され、最も効率的に文を実行する方法をデータベース問合せ最適化に指定する指示。ヒントは最適化の実行計画をオーバーライドするため、ヒントを使用して最適化により効率的な計画を使用させ、パフォーマンスを向上させることができます。ヒントは、Oracle Databaseデータ・ソースでのみサポートされます。
問合せ	Oracle BIサーバーに発行される、ベースとなるSQL文が含まれていません。Oracle Business Intelligenceの使用に問合せ言語の知識は必要ありません。
問合せキャッシュ	他の問合せで使用できるように問合せの結果を格納する機能。
時系列キー	ディメンション・レベル内のメンバーの時系列を示す時間ディメンションの列。キーは、そのレベルで一意である必要があります。
ノード・マネージャ	<p>Javaプロセスが応答しなくなったり、予期せず終了した場合にリモート・サーバーの起動、停止および再起動の機能を提供するデーモン・プロセス。</p> <p>144ページのJava componentsも参照してください。</p>
パースペクティブ	<p>スコアカードでイニシアティブ、目標およびKPIに関連付ける組織内のカテゴリ。パースペクティブにより、主要な利害関係者(顧客、従業員、株主、金融関係者など)またはキー・コンピテンシ領域(時間、コスト、品質など)を示すことができます。</p> <p>133ページのイニシアティブ、135ページのキー・パフォーマンス・インディケータ(KPI)、142ページの目標および 147ページのOracle Scorecard and Strategy Managementも参照してください。</p>

パススルー計算	Oracle BIサーバーによって計算されるのではなく、別のデータ・ソースに渡される計算。上級ユーザーが、Oracle BIリポジトリを変更することなく、データ・ソースの機能と関数を活用できるようにします。
ビジネス所有者	ビジネス価値、およびKPIやスコアカード・オブジェクト(目標、原因/結果マップなど)のパフォーマンスの管理と向上の責任を負うユーザー。
ビジネス・モデル	ビジネス・モデル定義と、論理表から物理表へのマッピングが含まれます。ビジネス・モデルは、物理レイヤーのオブジェクトと異なり、常にディメンション化され、データ・ソースの編成が反映されます。各ビジネス・モデルには、論理表、列および結合が含まれます。
ビジネス・モデルとマッピング・レイヤー	<p>データのビジネス・モデルまたは論理モデルを定義し、ビジネス・モデルと物理レイヤー・スキームとの間のマッピングを指定するOracle BIリポジトリのレイヤー。このレイヤーには、1つ以上のビジネス・モデルが含まれます。</p> <p>ビジネス・モデルとマッピング・レイヤーによって、ユーザーに表示される分析動作が決まり、ユーザーが使用できるオブジェクトのスーパーセットが定義されます。ソース・データ・モデルの複雑さも隠します。</p>
ビジョン・ステートメント	<p>組織が将来的にどうありたいかを表した、スコアカード内の簡潔なステートメントです。たとえば、南米ポリプロピレン市場で最も成功した企業になるなどです。</p> <p>142ページのミッション文および 147ページのOracle Scorecard and Strategy Managementも参照してください。</p>
非バランス型階層	<p>リーフの深さが一様でない階層。たとえば、現在の月では日レベルのデータを格納し、前月では月レベルで格納して、過去5年間のデータは四半期レベルで格納するような選択が可能です。</p> <p>134ページの階層も参照してください。</p>
ファクト表	メジャーを含み、ディメンション表と複雑な結合関係にある、Oracle BIリポジトリ内のビジネス・モデルとマッピング・レイヤーの論理表。 138ページのディメンション表 も参照してください。
フィルタ	<p>分析の実行時に表示される結果を限定する、属性列とメジャー列に適用される基準。メジャー列の場合、フィルタは問合せの集計前に適用され、問合せと結果の値に作用します。</p> <p>141ページのプロンプトおよび 137ページの選択ステップも参照してください。</p>
不規則な階層	139ページの非バランス型階層 を参照してください。
複合結合	等号以外の式を使用する、Oracle BIリポジトリの物理レイヤーでの結合。
複合データベース結合	Oracle BIリポジトリ内の2つの表の結合。各表は異なるデータベース内にあります。
ブックマーク・リンク	ダッシュボード・ページへのパスとページの状態のあらゆる側面を取り込みます。 141ページのプロンプト・リンク を参照してください。
物理カタログ	リポジトリの物理レイヤーにある、異なるスキーマをまとめるオブジェクト。カタログには、データベース・オブジェクトのすべてのスキーマ(メタデータ)が含まれます。

物理結合	Oracle BIリポジトリの物理レイヤーの表同士の結合。
物理スキーマ	バックエンド・データベースからのスキーマを表すOracle BIリポジトリの物理レイヤーのオブジェクト。
物理表	Oracle BIリポジトリの物理レイヤーのオブジェクトで、通常、物理データベースに存在する表に相当します。 140ページの物理レイヤー も参照してください。
物理表示フォルダ	Oracle BIリポジトリの物理レイヤーにオブジェクトを編成するフォルダ。メタデータ上の意味はありません。
物理レイヤー	バックエンド・データ・ソースからの物理データ構成体を表すオブジェクトを含むOracle BIリポジトリのレイヤー。物理レイヤーは、物理問合せの記述に使用できるオブジェクトと関係を定義します。このレイヤーによってソースの依存性がカプセル化され、移植とフェデレーションが可能になります。
不透明なビュー	SELECT文を構成する物理レイヤー表。Oracle BIリポジトリでは、不透明なビューは、物理データベース内のビュー表のように見えますが、ビューは実際には存在しません。
ブリーフィング・ブック	145ページのOracle BIブリーフィング・ブック を参照してください。
ブリッジ表	2つの表の間の多対多関係を解決する表。
プレゼンテーション階層	プレゼンテーション・サービスやその他のクライアントでマルチディメンショナル・モデルを公開する明示的な方法を提供するOracle BIリポジトリのプレゼンテーション・レイヤーのオブジェクト。プレゼンテーション階層は、メンバーの選択、カスタム・メンバー・グループ、非対称型問合せなどの分析機能を公開します。ユーザーは、プレゼンテーション階層を使用して階層ベースの問合せを作成できます。 プレゼンテーション・サービスで、プレゼンテーション階層は階層列として表示されます。 134ページの階層列 および 141ページのプレゼンテーション・レベル も参照してください。
プレゼンテーション・サービス	146ページのOracle BIプレゼンテーション・サービス・サーバー を参照してください。
プレゼンテーション・サービス・サーバー	146ページのOracle BIプレゼンテーション・サービス・サーバー を参照してください。
プレゼンテーション表	ユーザー・コミュニティにとって意味のあるカテゴリへの列の編成に使用されるOracle BIリポジトリのプレゼンテーション・レイヤーのオブジェクト。プレゼンテーション表には、1つ以上の論理表から列を含めることができます。プレゼンテーション表の名前とオブジェクト・プロパティは論理表のプロパティとは無関係です。
プレゼンテーション・レイヤー	カスタマイズされたセキュアな役割ベースのビジネス・モデルのビューをユーザーに表示する手段を提供します。Oracle BIリポジトリのビジネス・モデルとマッピング・レイヤーに抽象性のレベルを加えます。プレゼンテーション・レイヤーは、プレゼンテーション・サービスやその他のクライアント・ツール、アプリケーションで分析を作成したユーザーに表示されるデータのビューを提供します。 139ページのビジネス・モデルとマッピング・レイヤー も参照してください。

プレゼンテーション・レベル	<p>ロールアップしたり、他のレベルからロールアップされる、Oracle BIリポジトリ内のプレゼンテーション階層のコンポーネント。プレゼンテーション・レベルは、プレゼンテーション・サービスで階層列内のレベルとして表示されます。</p> <p>134ページの階層レベルおよび 140ページのプレゼンテーション階層も参照してください。</p>
プロセス・インスタンス	<p>BIインスタンスに関連付けられている、個々のワークステーション上の一意のプロセス。</p> <p>144ページのBIインスタンスも参照してください。</p>
プロンプト	<p>フィルタの一種で、コンテンツ・デザイナーによるデータ値の作成および指定、およびエンド・ユーザーによる特定のデータ値の選択から、ダッシュボードやダッシュボード・ページに組み込まれた個別または複数の分析に結果セットを提供できるようにします。プロンプトによって既存のダッシュボードおよび分析のフィルタの拡張や改良が行われます。</p> <p>プロンプトのタイプには、列プロンプト、通貨プロンプト、イメージ・プロンプトおよび変数プロンプトがあります。</p> <p>143ページの列プロンプト、138ページの通貨プロンプト、139ページのフィルタ、133ページのイメージ・プロンプトおよび 142ページの変数プロンプトも参照してください。</p>
プロンプト・リンク	<p>ダッシュボード・ページへのパスとダッシュボード・プロンプトの単純化されたプレゼンテーションを取り込みます。</p> <p>ブックマーク・リンクを参照してください。</p>
分析	<p>ユーザーがプレゼンテーション・サービスの「基準」タブで作成する問合せ。分析には、オプションでフィルタまたは選択ステップを1つ以上含め、結果を限定することができます。139ページのフィルタおよび 137ページの選択ステップも参照してください。</p>
分析基準	<p>分析に指定された列、フィルタおよび選択ステップで構成されます。141ページの分析も参照してください。</p>
分析プロンプト	<p>分析に追加されたプロンプト。ユーザーがプロンプト値を選択すると、そのプロンプトを含む分析にかぎり、その値によって表示される内容が決まります。137ページのダッシュボード・プロンプトおよび 141ページのプロンプトを参照してください。</p>
別名表	<p>別の物理表をソースとして参照する物理表。1つの物理表に様々な役割を設定する必要がある場合に、別名表を使用すると、表ごとにキー、名前および結合を変えて複数の表を設定できます。別名表の名前は物理SQL問合せで使用されるため、別名表を使用して意味のある表名にし、SQL文を読みやすくすることもできます。</p>
変換	<p>データベースから他の場所(他のデータベースの場合もある)に移動する際にデータに行われる処理。一部の変換は、通常、トランザクション・システムからデータウェアハウス・システムへの移動時にデータに対して行われます。</p>
変数	<p>管理タスクを効率化したり、変化するデータ環境に合わせてメタデータの内容を動的に変更するために使用されるOracle BIリポジトリ内のオブジェクト。</p> <p>変数は次のいずれかのタイプです:</p>

リポジットリ変数には2種類ありますが、任意の時点の1つの値を持ちます。リポジットリ変数は、静的および動的です。セッション変数は、各ユーザーのログイン時に作成され、値が割り当てられます。セッション変数には、システムとシステム以外の2種類があります。

変数プロンプト

ダッシュボードに表示する値を、ユーザーが変数プロンプトで指定された値から選択できます。変数プロンプトは列データに依存するのではなく、ユーザーが分析の列データを操作(加算や乗算など)できるようにします。

[141ページのプロンプト](#)も参照してください。

ホーム・ページ

直観的で、タスク・ベースの方法でプレゼンテーション・サービスの機能を開始します。ホーム・ページはセクションに分かれており、各セクションでは、特定のタスクを素早く開始したり、オブジェクトを検索したり、テクニカル・ドキュメントにアクセスできます。

ミッション文

ビジョンを達成するために必要な主要なビジネス・ゴールと優先度を指定したスコアカード内のステートメント。

[147ページのOracle Scorecard and Strategy Management](#)および [139ページのビジョン・ステートメント](#)を参照してください。

メジャー列

レコードごとに変化し、合計および集計が可能な列。売上金額や注文数量はメジャーの代表例です。メジャーは、問合せ時にデータ・ソースから計算されます。

メジャー列は、Oracle BIリポジットリ(通常はファクト表)またはプレゼンテーション・サービスで表示されます。

メタデータ

データに関するデータ。メタデータ・オブジェクトには、スキーマの説明(表、列、データ型、主キー、外部キーなど)と論理構造(ファクト表、ディメンション、論理表ソース・マッピングなど)が含まれます。

Oracle BIリポジットリは、Oracle BIサーバーによって問合せの処理に使用されるメタデータで構成されます。

メタデータ・ディクショナリ

列などのメタデータ・オブジェクトについて、そのプロパティや他のメタデータ・オブジェクトとの関係などが記述された静的なXMLドキュメントのセット。メタデータ・ディクショナリは、ユーザーがリポジットリ・オブジェクトのメトリックや属性の詳細を得る場合に役立ちます。

目標

企業の戦略をまとめたスコアカード内の要求される成果または望ましい結果。

[133ページのイニシアティブ](#)および [147ページのOracle Scorecard and Strategy Management](#)も参照してください。

リポジットリ

[146ページのOracle BIリポジットリ](#)を参照してください。

リポジットリ変数

[141ページの変数](#)を参照してください。

列

Oracle BIリポジットリでは、列は、物理列、論理列またはプレゼンテーション列です。

プレゼンテーション・サービスでは、分析によって返される個々のデータが示されます。列、およびフィルタや選択ステップによって分析に含まれるデータが決まり

ます。列には、格納される情報のタイプ(アカウント、連絡先など)を示す名前も付けられています。

[141ページの分析](#)、[137ページの属性列](#)、[134ページの階層列](#)および [142ページのメジャー列](#)も参照してください。

列フィルタ	139ページのフィルタ を参照してください。
列プロンプト	フィルタのタイプの1つで、特定の値プロンプトをデータ列に作成できるようにします。ダッシュボードまたは分析に単体として存在させることも、既存のダッシュボードおよび分析フィルタの拡張または改良に使用することもできます。 141ページのプロンプト も参照してください。
レベル	134ページの階層レベル を参照してください。
レベル・スキップ階層	一部のメンバーが特定の祖先レベルの値を持たない階層。たとえば、米国で、コロンビア特別区のワシントン市は州に属していません。州がなくても、国レベル(米国)からワシントン以下にユーザーが移動できることが期待されます。 134ページの階層 も参照してください。
レポート	問合せの実行からユーザーに返される、Oracle BI Publisherを使用して作成されるレスポンス。レポートは、書式設定、ダッシュボード・ページでの表示、Oracle BIプレゼンテーション・カタログでの保存および他のユーザーとの共有が可能です。 141ページの分析 も参照してください。
論理結合	論理表間の関係を表す結合。論理結合は、物理的な結合ではなく概念上の結合です。つまり、特定のキーまたは列を結合しません。1つの論理結合が、多数の物理結合に相当することがあります。
論理表	Oracle BIリポジトリのビジネス・モデルとマッピング・レイヤーの表オブジェクト。1つの論理表は、1つ以上の物理表にマップできます。論理表は、ファクト表またはディメンション表のいずれでもかまいません。 138ページのディメンション表 および 139ページのファクト表 も参照してください。
論理表示フォルダ	ビジネス・モデルとマッピング・レイヤーでのオブジェクトの編成に使用されるフォルダ。メタデータ上の意味はありません。
論理表ソース	Oracle BIリポジトリのビジネス・モデルとマッピング・レイヤーのオブジェクトで、1つの論理表から1つ以上の物理表へのマッピングを定義します。また、物理レイヤーと、ビジネス・モデルおよびマッピング・レイヤーとの間で発生する変換の指定、および集計ナビゲーションと断片化の実現にも物理から論理へのマッピングを使用できます。
論理レイヤー	139ページのビジネス・モデルとマッピング・レイヤー を参照してください。
論理レベル	ロールアップしたり、他のレベルからロールアップされる、Oracle BIリポジトリ内のレベル・ベースの階層のコンポーネント。 親子階層では、祖先と子孫の間にメタデータの論理レベル・オブジェクトとして表されない、暗黙的なメンバー間のレベルがあります。親子階層には論理レベル・オブジェクトも含まれますが、それらのレベルはシステムで生成されたもので、全メンバーの集計を可能にするためにのみ存在します。

[138ページのディメンション](#)および [134ページの階層](#)を参照してください。

論理SQL

Oracle BIサーバーによって解釈されるSQL文。Oracle BIサーバーの論理SQLには、標準のSQLとAGO、TODATE、EVALUATEなどの特別な関数(拡張SQL)が含まれます。

ユーザーが要求を行うと、プレゼンテーション・サービスなどのクライアントは、論理SQLをOracle BIサーバーに送信します。また、論理SQLはビジネス・モデルとマッピング・レイヤーで使用され、異機種データベース・アクセスと移植を可能にします。Oracle BIサーバーは、論理SQLを、ソース・データベースで解釈可能な物理SQLに変換します。

ADFビジネス・インテリジェンス・コンポーネント

Oracle Business Intelligenceのプレゼンテーション・カタログ・オブジェクトをADFアプリケーションに組み込む機能を開発者に提供します。このコンポーネントでは、Oracle BIプレゼンテーション・カタログへのアクセスにSOAP接続が使用されます。

BIインスタンス

BIドメインのシステム・コンポーネント(コアアプリケーション)のことで、[144ページのBIドメイン](#)も参照してください。

BIオブジェクト

プレゼンテーション・サービスを使用して作成され、Oracle BIプレゼンテーション・カタログに保存される各ビジネス・インテリジェンス・コンテンツ。BIオブジェクトの例には、分析、ダッシュボード・ページ、スコアカード、KPIなどがあります。

BI検索

プレゼンテーション・サービス外にある検索ツール。管理者がBI検索のURLへのリンクを追加していると、ホーム・ページからBI検索を使用できます。BI検索には、Oracle BIプレゼンテーション・カタログ内のオブジェクトを検索するための全文検索エンジンに似たメカニズムが用意されています。

BIドメイン

構成可能なシステム・コンポーネント(コアアプリケーション)とJavaコンポーネント(WebLogicサーバー・ドメイン)が含まれ、Webベースの管理ツールとリソースを利用するアプリケーションも含まれます。

BIドメインは、1つ以上の物理サーバーにまたがるミドルウェア・ホームのセットの場合もあります。[144ページのBIインスタンス](#)も参照してください。

DSN

[138ページのデータ・ソース名\(DSN\)](#)を参照してください。

Essbase

Oracleから使用できるマルチディメンショナル・データベース管理システムで、ビジネス・インテリジェンス・アプリケーションを構築するベースとなるマルチディメンショナル・データベース・プラットフォームを提供します。Oracle Hyperion Essbaseとも呼ばれます。

Fusion Middleware Control

Fusion Middlewareコンポーネントのモニターと構成を行えるWebベースの管理ツール。

Go URL

特定のビジネス・インテリジェンスの結果を外部ポータルやアプリケーションに組み込みます。Go URLは、結果をお気に入りに追加したり、ダッシュボードや外部Webサイトへの要求にリンクを追加する場合に使用されます。様々な形式と、動作の制御に使用されるオプションの引数があります。

Java components

1つ以上のJava EEアプリケーション(およびリソースのセット)としてデプロイされ、ノード・マネージャによって管理されるFusion Middleware Controlコンポーネント。

[138ページのノード・マネージャ](#)も参照してください。

KPI監視リスト	<p>KPIをエンド・ユーザーに配布する方法。監視リストはKPIを集めたもので、カタログに格納されているKPIを追加して作成します。KPI監視リストを作成して保存すると、カタログ・オブジェクトとして格納され、ダッシュボードやスコアカードに追加できます。</p> <p>135ページのキー・パフォーマンス・インディケータ(KPI)も参照してください。</p>
OCI	<p>147ページのOracle Call Interface (OCI)を参照してください。</p>
ODBC	<p>145ページのOpen Database Connectivity(ODBC)を参照してください。</p>
Open Database Connectivity(ODBC)	<p>リレーショナル・データベースとリレーショナル以外のデータベースの両方のデータのアクセスに使用される標準インタフェース。データベースごとに使用されるデータ格納形式やプログラミング・インタフェースが異なる場合も、データベース・アプリケーションではODBCを使用して、各タイプのデータベース管理システムに格納されているデータにアクセスできます。</p>
OPMN	<p>147ページのOracle Process Manager and Notification Server (OPMN)を参照してください。</p>
Oracle BI JavaHost	<p>Javaライブラリに用意されている、グラフなどのコンポーネントをサポートするための機能をプレゼンテーション・サービスが使用できるようにするサービス。サービスは、要求/応答モデルに基づいて提供されます。Oracle BI論理SQLビュー・オブジェクト</p>
Oracle BI Publisher	<p>Oracle Business Intelligence内のJ2EEアプリケーションで、エンタープライズ全体の公開サービスを提供します。高度に書式設定された、ピクセル対応レポートを生成します。</p> <p>143ページのレポートも参照してください。</p>
Oracle BI Publisherレポート	<p>143ページのレポートを参照してください。</p>
Oracle BI管理ツール	<p>Oracle BIリポジトリの作成や編集に使用されるWindowsアプリケーション。管理ツールでは、リポジトリの3つの部分(物理レイヤー、ビジネス・モデルとマッピング・レイヤー、およびプレゼンテーション・レイヤー)がグラフィック表示されます。</p>
Oracle BIサーバー	<p>ODBCを介してプレゼンテーション・サービスや他のクライアントに提供する論理データ・モデルを保持するスタンドアロン・プロセス。データ・モデルに関するメタデータは、リポジトリ・ファイルと呼ばれるローカルの専用ファイルに保持されます。Oracle BIサーバーは、ユーザーの要求やベースとなるデータ・ソースの問合せを処理します。</p>
Oracle BIサーバーXML API	<p>Oracle BIリポジトリ・メタデータの汎用的なXMLベースのプレゼンテーションを作成するユーティリティを提供します。このXMLファイル版のリポジトリは、プログラムによるメタデータの変更に使用できます。Oracle BIサーバーXML APIオブジェクトは、RPDファイル内のメタデータ・リポジトリ・オブジェクトに相当します。これらのオブジェクトは、Oracle BIプレゼンテーション・カタログ内のXMLオブジェクトとは異なります。</p>
Oracle BIスケジューラ	<p>指定された時間に結果をユーザーに配信するようスケジュールするための拡張可能なスケジューリング・アプリケーション。Oracle BIデリバリーの機能をサポートするエンジンです。</p> <p>135ページの結果も参照してください。</p>
Oracle BIブリーフィング・ブック	<p>ダッシュボード・ページ、個々の分析およびBI Publisherレポートの静的または更新可能なスナップショットの集まり。ブリーフィング・ブックをPDFまたは</p>

MHTML形式でダウンロードし、印刷または表示できます。エージェントを使用して、ブリーフィング・ブックの更新、スケジュールおよび配信を行うこともできます。

Oracle BIプレゼンテーション・カタログ

分析やダッシュボードなどのビジネス・インテリジェンス・オブジェクトを格納し、ユーザーが、オブジェクトの作成、アクセスおよび管理を行ったり、オブジェクト・ベースの特定のタスク(エクスポート、印刷、編集など)を行うインタフェースを提供します。カタログは、共有または個人のいずれかのフォルダに編成されます。

Oracle BIプレゼンテーション・サービス

Webクライアントへのビジネス・インテリジェンス・データのプレゼンテーションに使用されるフレームワークとインタフェースを提供します。このプレゼンテーション・フレームワークのカスタマイズに使用されるプレゼンテーション・カタログ・サービスをファイル・システム上で管理します。このスタンドアロン・プロセスは、ODBC over TCP/IPを使用してOracle BIサーバーと通信します。アンサー、デリバーおよびインタラクティブ・ダッシュボードと呼ばれるコンポーネントで構成されます。

[145ページのOpen Database Connectivity\(ODBC\)](#)、[145ページのOracle BIサーバー](#)、[146ページのOracle BIプレゼンテーション・カタログ](#)、[146ページのOracle BIプレゼンテーション・サービス・サーバー](#)も参照してください。

Oracle BIプレゼンテーション・サービス・サーバー

情報とデータをOracle BIサーバーと交換するOracle BI Webサーバー。

Oracle BIリポジトリ

Oracle Business Intelligenceメタデータを格納するファイル。メタデータは、論理スキーマ、物理スキーマ、物理から論理へのマッピング、集計表ナビゲーションやその他の構成体を定義します。リポジトリ・ファイルには、.rpdという拡張子が付きます。Oracle BIリポジトリは、Oracle BI管理ツールを使用して編集できます。

[142ページのメタデータ](#)および[145ページのOracle BI管理ツール](#)も参照してください。

Oracle BI論理SQLビュー・オブジェクト

開発者が、Oracle BIサーバーにアクセスしてビジネス・インテリジェンス・データをフェッチし、ネイティブADFコンポーネントにバインドしてADFページに含める論理SQL文を作成できるようにします。このビュー・オブジェクトは、BI JDBC接続を使用してOracle BIサーバーに接続します。

Oracle Business Intelligence SOA用Webサービス

BIミドルウェアJ2EEアプリケーションによってホストされる、ExecuteAgent、ExecuteAnalysisおよびExecuteConditionの3つのWebサービスを含みます。これらのWebサービスは、開発者がサード・パーティWebサービス・クライアント(Oracle SOA Suiteなど)を使用して、ビジネス・インテリジェンス・オブジェクトを検索したり、サービス指向アーキテクチャ・コンポーネントに含めたりすることを可能にするよう設計されています。

[146ページのOracle Business Intelligenceセッション・ベースWebサービス](#)も参照してください。

Oracle Business Intelligence Webサービス

[146ページのOracle Business Intelligenceセッション・ベースWebサービス](#)および[146ページのOracle Business Intelligence SOA用Webサービス](#)を参照してください。

Oracle Business Intelligenceセッション・ベースWebサービス

SOAPを実装するAPI。これらのWebサービスはプログラムでの使用を目的として設計されており、開発者は、1つのWebサービスから多様なビジネス・インテリジェンス・オブジェクトを起動します。これらのWebサービスは、様々なプレゼンテーション・サービス処理に対する機能を提供します。これらのWebサービスによって、開発者は、Oracle BIプレゼンテーション・サービスから結果を抽出して

外部アプリケーションに配信したり、プレゼンテーション・サービス管理機能を実行したり、Oracle Business Intelligenceアラート(インテリジェント・エージェントとも呼ばれる)を実行できます。

[146ページのOracle Business Intelligence SOA用Webサービス](#)も参照してください。

Oracle Call Interface (OCI)

Oracle Databaseデータ・ソースへの接続にOracle BIサーバーが使用する接続インタフェース。Oracle DatabaseからのメタデータのインポートやOracle Databaseへの接続には常にOCIを使用する必要があります。

Oracle Process Manager and Notification Server (OPMN)

すべてのシステム・コンポーネント(サーバー・プロセス)を管理し、ローカルと分散の両方のプロセス管理、自動プロセス・リサイクリングおよびプロセスの状態(稼働、停止、起動中、停止中)の伝達をサポートするプロセス管理ツール。OPMNは、プロセスの使用不可の状態を検知し、プロセスを自動的に再起動します。

[136ページのシステム・コンポーネント](#)も参照してください。

Oracle Scorecard and Strategy Management

ビジネス戦略を表明して伝達することができる業績管理ツール。企業の戦略や業績をトップ・ダウンまたはボトム・アップで推進したり評価できます。

Oracle Technology Network (OTN)

オラクル社製品に関する技術情報のリポジトリで、記事の検索、ディスカッションへの参加、ユーザー・コミュニティへの技術的な質問およびオラクル社製品とドキュメントの検索とダウンロードを行えます。

SQL

[135ページの構造化問合せ言語\(SQL\)](#)を参照してください。

WebLogic Scripting Tool (WLST)

WebLogic Serverインスタンスとドメインの構成、管理および変更の保持と、サーバーの実行時のイベントのモニターおよび管理を可能にするコマンドライン・スクリプティング・インタフェース。

WebLogicドメイン

SOAP、HTTPおよびその他の形式の要求のサービスに加わるよう構成されたJavaコンポーネントが含まれます。

XML API

[145ページのOracle BIサーバーXML API](#)を参照してください。

